

平成22年度

名古屋市立大学大学院薬学研究科

自己点検・評価報告書

2010

目 次

- 1 平成22年度博士(薬学)学位取得者
- 2 平成22年度薬学修士学位取得者
- 3 平成22年度薬学部でなされた講演会、研究会、シンポジウム
- 4 研究業績目録(2010年1月から2010年12月)
- 5 科学研究費等補助金
- 6 学外との共同研究等
- 7 新聞報道等
- 8 進路および就職状況
- 9 薬学部在籍者名簿

1 平成22年度博士(薬学)学位取得者

薬博第 267 号 平成 22 年 9 月 30 日

横井 寛

PPAR γ リガンド活性を有する生薬およびその活性成分の探索
ーメタボリックシンドローム治療への応用を指向してー

(主査) 宮田 直樹 教授

(副査) 水上 元 教授 (副査) 今川 正良 教授 (副査) 大矢 進 准教授

薬博第 270 号 平成 23 年 3 月 25 日

森田 幹雄

トリメチルシリルジアゾメタンを用いた環拡大反応を基盤とする複素環化合物の新規合成法

(主査) 樋口 恒彦 教授

(副査) 中村 精一 教授 (副査) 宮田 直樹 教授 (副査) 池田 慎一 准教授

薬博第 271 号 平成 23 年 3 月 25 日

橋爪 博司

肝化学発がん早期過程において発現上昇するヒストン修飾因子およびヒストンバリエントの
解析

(主査) 林 秀敏 教授

(副査) 今川 正良 教授 (副査) 宮田 直樹 教授 (副査) 田中 正彦 准教授

薬博第 272 号 平成 23 年 3 月 25 日

堀田 康弘

ジチオカルバメート及びジチオカルバメート糖誘導体の抗結核作用に関する研究

(主査) 宮田 直樹 教授

(副査) 小野寄 菊夫 教授 (副査) 藤井 聡 教授

(副査) 梅澤 直樹 准教授 (副査) 瀧井 猛将 准教授

薬博第 273 号 平成 23 年 3 月 31 日

野村 英宏

マスト細胞の脱顆粒におけるアクティブゾーンタンパク質と細胞接着の関与

(主査) 山中 淳平 教授

(副査) 平嶋 尚英 教授 (副査) 林 秀敏 教授 (副査) 大澤 匡弘 准教授

薬博第 184 号 平成 22 年 10 月 1 日

田所 哲

マスト細胞の開口放出を担う SNARE 結合分子の機能解析

(主査) 小野 菊夫 教授

(副査) 平嶋 尚英 教授 (副査) 尾関 哲也 教授 (副査) 大矢 進 准教授

薬博第 185 号 平成 22 年 10 月 1 日

中村 里香

アレルギーの多元的解析手法の開発と安全性評価への応用

(主査) 林 秀敏 教授

(副査) 平嶋 尚英 教授 (副査) 星野 真一 教授 (副査) 牧野 利明 准教授

薬博第 186 号 平成 22 年 12 月 20 日

池田 和貴

質量分析計による脂質マーカー探索システムの構築およびその適用

(主査) 樋口 恒彦 教授

(副査) 今川 正良 教授 (副査) 服部 光治 教授 (副査) 水島 恒裕 准教授

2 平成22年度薬学修士学位取得者

池沼 宏 (薬化学)

GPR120 アンタゴニストの創製

今井 英里佳 (薬化学)

新規 SIRT2 阻害薬の創製

亀田 英里 (薬化学)

HNO の検出を目指した SH 基を有する蛍光物質の合成と評価

清家 雄 (薬化学)

Pin1 阻害化合物の設計・合成・活性評価

永野 裕樹 (薬化学)

抗プリオン活性化化合物の探索及び作用機序解析

平野 達也 (薬化学)

新規 GPR40 選択的アゴニストの創製

堀之内 妙子 (薬化学)

オルガネラ局在型光作動性 NO ドナーの開発

齋藤 俊輔 (精密有機反応学)

金属ポルフィリンの触媒する、亜酸化窒素還元と共役するアルケンカップリング反応

鈴木 潤 (精密有機反応学)

シトクロム P450 の中心配位構造の構造と機能に及ぼす NH-S 水素結合等の効果

田口 知世 (精密有機反応学)

Salvileucalin B の合成研究

野呂 侑加 (精密有機反応学)

環状化を鍵とするペプチド機能の光制御法

浜口 雄 (精密有機反応学)

ルテニウムポルフィリン錯体の触媒する位置選択的酸化反応系の開発

稲葉 綾子 (薬品合成化学)

TMSCHN₂ を用いた光学活性 α -置換プロリン誘導体の新規合成法の開発

櫻井 扶美恵 (薬品合成化学)

ニッケル触媒を用いたアルデヒドの不斉アリール化反応の開発

鈴木 雄大 (薬品合成化学)

キラルケイ素原子を持つ化合物の触媒的不斉合成

横山 拓也 (薬品合成化学)

TMSC(Li)N₂ を用いた 3-置換 3-トリメチルシロキシピロリジンの新規合成法

末永 智宏(生体超分子システム解析学)

IgE 受容体を介した細胞内情報伝達における GRK2 の役割

鈴木 敬昌(生体超分子システム解析学)

ナノ粒子がマスト細胞からの炎症性メディエーター放出に与える影響

廣瀬 裕之 (生体超分子システム解析学)

マスト細胞における分泌小胞のリサイクリングに関する研究

山之上 潔 (生体超分子システム解析学)

マスト細胞の脱顆粒における Orai2 の機能解析

永野 亮太 (コロイド・高分子物性学)

荷電コロイド粒子の合成とコロイド分散系の温度誘起結晶化の研究

平野 貴志 (生命分子構造学)

NMR 法による Lys48 結合型ユビキチン 2 量体の動的高次構造解析

文庫 有志 (生命分子構造学)

カイコを利用した甘味受容体細胞外領域の大量発現系構築および味覚修飾タンパク質クルクリンとの相互作用解析

浅野 真美 (分子生物薬学)

脂肪細胞分化過程における KCNK10 の機能解析

大仲 優希 (分子生物薬学)

脂肪細胞分化過程における gelsolin の機能解析

加藤 愛友美 (分子生物薬学)

脂肪細胞分化を制御する新規遺伝子 fad104 の骨細胞分化における役割の解明

小松 浩大 (分子生物薬学)

肝化学発がん過程で発現上昇するヒストンバリエント H2A.Z の機能と標的遺伝子の解析

早川 智章 (分子生物薬学)

部分欠失変異体を用いた酵母ミトコンドリアヒストン様タンパク質 Abf2p の機能解析

水谷 優子 (分子生物薬学)

脂肪細胞分化に重要な因子 fad24 の解析

野田 千恵子 (腫瘍制御学)

EB ウイルス LMP1 の発現を制御する新規宿主因子の同定とその解析

岡島 恭子 (生薬学)

甘草誘発性偽アルドステロン症の発症メカニズム解析

岡本 隼己 (生薬学)

ハマボウフウ由来 coumarin 配糖化酵素の機能解析

鍵岡 明奈 (生薬学)

加工ブシの鎮痛作用に関する研究

～オキサリプラチンによるマウス神経障害性疼痛に対する作用～

染原 渉 (生薬学)

呉茱萸含有成分エボジアミンの腸管上皮細胞におけるグルタミン取り込み亢進作用

服部 広 (生薬学)

ムラサキ培養細胞におけるロズマリン酸輸送機構の解析

林 芳恵 (生薬学)

配糖化によるクルクミンの消化管吸収改善への試み

原 直樹 (生薬学)

カンゾウ培養細胞由来 ABC タンパク質の機能解析

水谷 優希 (生薬学)

In situ UDP-glucose 再生系の存在下での二次代謝糖転移酵素の機能解析

秋田 邦彦 (生体防御機能学)

マウス関節炎の発症増強作用を示すタバコ成分に関する研究

山本 龍二 (生体防御機能学)

トリ型結核菌亜種のアンモニア産生における arginine deiminase の関与

斉藤 修平 (遺伝情報学)

終止コドンを持たない異常 mRNA の品質管理機構

橋本 芳史 (遺伝情報学)

アポトーシス時における翻訳終結因子 eRF3 のカスパーゼ依存的分解制御

堀川 桂 (遺伝情報学)

eRF3 ファミリー G 蛋白質による mRNA 品質管理

石井 秀明 (細胞分子薬効解析学)

腎動脈結紮モデル高血圧マウスにおける Ca^{2+} 活性化 K^+ チャンネル開口薬の小動脈緊張に対する作用の解析

大城 隼也 (細胞分子薬効解析学)

Ca^{2+} 活性化 Cl^- チャンネルの分子実体と生理機能の解明

鬼頭 宏彰 (細胞分子薬効解析学)

ストレス負荷による脳血管内皮細胞死とイオンチャンネルによるその制御機構

澤田 英士 (細胞分子薬効解析学)

気道上皮繊毛細胞による固形物輸送におけるイオンチャンネル機能解析

竹本 将士 (細胞分子薬効解析学)

マウス非妊娠・妊娠子宮における自発収縮に関わる細胞内 Ca^{2+} 動態制御機構の解明

村本 孝博 (細胞分子薬効解析学)

フォスファチジルイノシトール 4,5 ニリン酸による電位依存性カリウムチャンネル Kv1.3 の調節機構
解析

五味 宏樹 (病態生化学)

脳形成に必須な分泌タンパク質リーリンの N 末端領域の機能解明

鈴木 健太 (病態生化学)

脳形成に必須な分泌タンパク質リーリンの分解機構に関する研究

中川 裕介 (病態生化学)

モノクローナル抗体を用いた、リーリンシグナル機構の解明

深見 瑛 (病態生化学)

難読症関連遺伝子産物 mKIAA0319 による、神経細胞形態変化の分子機構

浅井 敬子 (薬物動態制御学)

小胞体膜局在性新規有機アニオントランスポーターの機能解析

池治 宣晃 (薬物動態制御学)

脂質代謝関連レセプターに対する尿酸の阻害作用

大井 舞 (薬物動態制御学)

ヒト OCT3 の corticosterone 輸送機能の解析

島田 友里奈 (薬物動態制御学)

第一部 Caco-2 細胞の 5-carboxyfluorescein 担体輸送系:生理的機能の探索 第二部 薬物速度論
的視点からシクロスポリンの適正な投与設計を検討する

深津 累 (薬物動態制御学)

小腸に高発現する新規有機アニオントランスポーターの機能解析

堀田 依里 (薬物動態制御学)

L-carnitine の体内動態に関わる新規トランスポーターの同定及び輸送機能解析

宮本 明希 (薬物動態制御学)

ヒト aquaporin3 の輸送機構の双機能的特性

朝倉 健文 (病態解析学)

HepG2 細胞における cAMP による PAI-1 転写後調節機構の解明

伊東 佐恵子 (病態解析学)

第一部 スフィンゴシン誘導体によるスフィンゴミエリン合成阻害機構の解析 第二部 外来化
学療法室の予約取り消し理由に関する研究

伊藤 史織 (病態解析学)

NKT 細胞を用いたスフィンゴ脂質による免疫応答調節機構の解析

小池 慶子 (病態解析学)

低酸素環境が脂肪細胞のスフィンゴ脂質代謝におよぼす影響の解析

榊原 大輔 (病態解析学)

ヒト肝癌由来細胞株において低酸素刺激は PAI-1 産生を増加させる一スフィンゴシン 1 リン酸と HIF1 α の関与一

中山 直美 (病態解析学)

シンバスタチン及びクルクミン配糖体による TGF- β 誘導性 PAI-1 産生に対する抑制機構の解明

松井 恵利華 (病態解析学)

創傷治癒に与える生理活性脂質とポピドンヨード白糖軟膏の影響の検討

森 智恵子 (病態解析学)

動脈硬化症の発症、進展に関与する microRNA の解析

石戸谷 その (医薬品代謝解析学)

第II相代謝酵素 UGT1A1 タンパク質の安定性に関する研究

岩井 俊樹 (医薬品代謝解析学)

TGF β シグナル情報伝達分子 Smad2 の大腸がんでみられる変異体の機能解析

牛山 小百合 (医薬品代謝解析学)

TRB3 による TGF- β シグナルの抑制機構の解析

小島 和香 (医薬品代謝解析学)

糖代謝関連転写因子 Foxo1 の TRB1 による活性制御

藤井 拓夫 (医薬品代謝解析学)

ハンチントン病関連遺伝子 HAP1 (huntingtin-associated protein 1) の発現制御

松平 都和 (医薬品代謝解析学)

I 型ヘルパーT 細胞 (Th1) 指向性転写因子 T-bet の TRB3 による活性制御

岡本 賢 (中枢神経機能薬理学)

上位中枢において神経因性疼痛維持に関与する NO 合成酵素アイソフォームと NO の下流シグナルの薬理的解析

藤井 由希 (中枢神経機能薬理学)

マウス青斑核細胞におけるシナプス伝達に対する NO の作用および細胞内シグナル伝達経路の解明

松井 千夏 (中枢神経機能薬理学)

脊髄後角における C-線維誘発性集合電位の長期増強を指標とした慢性疼痛の発症・維持に対するグリシンおよびその取り込み阻害薬の作用

宮辺 裕輔 (中枢神経機能薬理学)

Lysophosphatidic acid による神経因性疼痛発現に関与する感覚神経線維の同定

矢野 裕恭 (中枢神経機能薬理学)

脊髄損傷後の運動・感覚障害に対する pioglitazone の改善効果と下行性セロトニン神経機能との関連

山田 彩 (中枢神経機能薬理学)

神経因性疼痛及びそれに付随する認知機能障害に対する donepezil の改善作用

大野 梨紗 (病院薬剤学)

第1部:腎機能障害が陰茎海綿体及び勃起機能へ与える影響 第2部:処方箋に臨床検査データを記載することの有用性の検討

片岡 智哉 (病院薬剤学)

内分泌性 ED 治療を目指したホルモン補充療法の検討

三雲 真由美 (病院薬剤学)

脂質異常症治療薬エゼチミブの血管内皮機能保護効果および腎機能保護効果の検討

加藤 玲子 (加齢病態制御学)

体温調節によるアルツハイマー病予防・治療法開発に関する研究

佐藤 大介 (臨床薬学教育センター)

第一部 糖原病 Ib 型における好中球減少症の機序の解明 第二部 外来化学療法室運営の効率化の為の要因分析

堀 英生 (臨床薬学教育センター)

糖尿病モデルラットの大腿動脈におけるスーパーオキシド産生増加機序及びプラバスタチンの慢性投与効果の検討

3 平成22年度薬学部でなされた 講演会、研究会、シンポジウム

平成 22 年度三公立連携薬剤師生涯学習支援講座

講義内容

日程	講師	内容	テーマ
5月13日(木) 19:00~21:00	名古屋市立大学教授 松永 民秀	薬学教育6年制になって:これからの薬剤師への期待	D
5月22日(土) 14:00~16:00	名古屋市立大学教授 藤井 聡	すぐに役立つ!大規模臨床試験データの見方と考え方	E
5月22日(土) 16:00~18:00	東京北社会保険病院 臨床研修センター長 名郷 直樹	薬剤師のためのEBMの実践:医学論文をいかに探し、いかに読み、いかに使うか	E
6月26日(土) 14:00~16:00	岐阜薬科大学准教授 戸塚 裕一	粉から考える医薬品製剤設計 ~ナノテクノロジーとの融合~	A
6月26日(土) 16:00~18:00	岐阜薬科大学准教授 嶋澤 雅光	緑内障の病態とその治療戦略	C
7月10日(土) 14:00~16:00	静岡県立大学教授 奥 直人	分子標的製剤とDDS製剤	A
7月10日(土) 16:00~18:00	静岡県立大学教授 森本 達也	心不全の分子標的治療の開発	B
8月19日(木) 19:00~21:00	岐阜薬科大学准教授 松永 俊之	最近の動脈硬化研究	B
8月28日(土) 14:00~16:00	名古屋市立大学教授 小野寺 菊夫	炎症反応におけるタンパク性メディエーターIL-1の役割と制御	B
8月28日(土) 16:00~18:00	名古屋市立大学教授 尾関 哲也	創薬とDDS製剤	C
9月16日(木) 19:00~21:00	静岡県立大学教授 伊藤 邦彦	テーラーメイド医療の臨床応用	C
10月14日(木) 19:00~21:00	名古屋市立大学教授 樋口 恒彦	新薬創製のための新しい方法論	A
11月18日(木) 19:00~21:00	岐阜薬科大学教授 土屋 照雄	地域医療における薬剤師の役割	D
1月20日(木) 19:00~21:00	静岡県立大学教授 賀川 義之	薬剤経済学の基本を学ぶ	D
1月29日(土) 14:00~16:00	岐阜薬科大学教授 足立 哲夫	日頃の成果を発表しよう	E
1月29日(土) 16:00~18:00	岐阜薬科大学准教授 寺町 ひとみ	6年制薬学教育におけるヒューマニティ・コミュニケーション教育	F
2月19日(土) 14:00~16:00	静岡県立大学教授 伊藤 邦彦	患者様の訴えから遺伝子を調べて副作用の原因を究明する	E
2月19日(土) 16:00~18:00	静岡県立大学教授 賀川 義之	実務実習モデル・コアカリキュラムを理解する	F
3月19日(土) 14:00~15:30	名古屋市立大学教授 木村 和哲	新しい薬剤師の時代	F

テーマ	日程	メイン会場	講師
A 創薬ほか基礎研究関連のトピックス	6/26(土)岐阜薬大	戸塚 裕一	7/10(土)静岡県大 奥 直人 10/14(木)名市大 樋口 恒彦
B 病態生理・最近の研究	7/10(土)静岡県大	森本 達也	8/19(木)岐阜薬大 松永 俊之 8/28(土)名市大 小野寺 菊夫
C 最新の薬物治療	6/26(土)岐阜薬大	嶋澤 雅光	8/28(土)名市大 尾関 哲也 9/16(木)静岡県大 伊藤 邦彦
D 地域医療、医療経済、福祉	5/13(木)名市大	松永 民秀	11/18(木)岐阜薬大 土屋 照雄 1/20(木)静岡県大 賀川 義之
E 臨床研究入門	5/22(土)名市大	特別講師 名郷 直樹	1/29(土)岐阜薬大 足立 哲夫 2/19(土)静岡県大 伊藤 邦彦
	5/22(土)名市大	藤井 聡	
F 薬学教育・キャリアプラン	1/29(土)岐阜薬大	寺町 ひとみ	2/19(土)静岡県大 賀川 義之 3/19(土)名市大 木村 和哲

実習内容

	テーマ	日程	会場	定員
継続	調剤(基本・特殊)「快適な医療を提供するための創剤-グミ製剤の調製-」 静岡県立大学 並木徳之教授 他	7/3(土)	名市大	40
	TDM「薬物血中濃度測定値の解析と投与設計支援」 岐阜薬科大学 杉山正教授 他	9/4(土)	静岡県大	10
	IT「初心者のためのパソコンを利用した情報収集演習」 名古屋市立大学 鈴木匡教授、前田徹講師、岡田浩美特任助教	5/29(土)	静岡県大	10
		9/25(土)	名市大	10
	バイタル:レギュラー 高齢者支援に必要な知識と技術 「パート1 知っておきたい患者生体情報:バイタルのとらえかた」 名古屋市立大学 藤井聡教授、鈴木匡教授、岡田浩美特任助教	6/12(土)	名市大	20
		10/30(土)	静岡県大	10
	褥瘡 高齢者支援に必要な知識と技術 「パート2 褥瘡薬物療法」 国立長寿医療センター 古田勝経副薬剤部長 金城学院大学 野田康弘准教授 他	5/23(日)	名市大	40
6/20(日)		静岡県大	20	
7/25(日)		岐阜薬大	20	
新企画	注射薬製剤「正しい手洗いと注射薬製剤を学ぶ」 名古屋市立大学 鈴木匡教授、前田徹講師	2/13(日)	名市大	20
	薬物代謝酵素の遺伝子多型解析「テーラーメイド医療にむけた薬理遺伝学」 名古屋市立大学 岡田浩美特任助教	8/1(日) 8/8(日) ※2日1コース	名市大	20
	アドバンスバイタル実習—こんな時あなたならどうする？ 名古屋市立大学 藤井聡教授、鈴木匡教授、岡田浩美特任助教	9/11(土)	名市大	10
		10/3(日)	名市大	10

■特別講演会,研究会,シンポジウム

開催日：平成22年6月2日

講演会名：特別講演会

講師名：杉本 八郎 教授

所属：京都大学大学院薬学研究科最先端創薬研究センター

演題：遙かなる創薬への途

世話分野：薬化学分野

開催日：平成22年6月11日

講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会

講師名：中村 精一 教授

所属：名古屋市立大学大学院薬学研究科薬品合成化学分野

演題：連続型反応による多環式骨格構築を基盤とする天然物合成

世話分野：薬化学分野

開催日：平成22年11月4日

講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会

講師名：杉浦 幸雄 教授

所属：同志社女子大学薬学部（京都大学名誉教授）

演題：インテリジェント人工亜鉛フィンガー蛋白質の創製と医学・薬学領域への展開

世話分野：薬化学分野

開催日：平成22年11月30日

講演会名：特別講演会

講師名：宗像 敬一 先生

所属：バクスター株式会社

演題：医薬品産業の将来展望-ドラマチックな環境変化に直面して-

世話分野：薬化学分野

開催日：平成22年12月9日

講演会名：特別講演会

講師名：増井 徹 先生

所属：医薬基盤研究所 難病・疾患資源研究部

演題：ヒト由来資料を用いた創薬科学研究における政策と倫理

世話分野：薬化学分野

開催日：平成22年12月16日

講演会名：特別講演会

講師名：齋藤 真由美 先生

所属：特許庁

演題：バイオテクノロジーと特許

世話分野：薬化学分野

開催日：平成22年1月13日

講演会名：特別講演会

講師名：Prof. Jeffrey W. Bode

所 属：Department of Chemistry, University of Pennsylvania
演 題：” Reinventing Amide Bond Formation ”
” Catalytic Generation of Reactive Species with N-Heterocyclic Carbenes ”
世 話 人：樋口 恒彦, 梅澤 直樹

開 催 日：平成 22 年 1 月 14 日
講演会名：特別講演会（兼 大学院講義「センサーデバイス開発学」）
講 師 名：加藤 大 准教授
所 属：東京大学大学院薬学系研究科
演 題：ナノテクノロジーを活用したバイオ分析
世 話 人：樋口 恒彦, 梅澤 直樹

開 催 日：平成 22 年 4 月 21 日
講演会名：日本薬学会東海支部講演会
講 師 名：長野 哲雄 教授
所 属：東京大学大学院薬学系研究科
演 題：有機化学を基盤とした生命科学研究
世 話 人：樋口 恒彦, 梅澤 直樹

開 催 日：平成 22 年 12 月 10 日
講演会名：訪日学者講演会
講 師 名：Prof. Samuel H. Gellman
所 属：Department of Chemistry University of Wisconsin, Madison
演 題：Structure and Function in Peptidic Foldamers
世 話 人：日本化学会 東海支部

開 催 日：平成 22 年 5 月 12 日
講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会
講 師 名：好光 健彦 准教授
所 属：大阪大学大学院薬学研究科
演 題：高度に官能基化された海洋天然物の全合成
世話分野：薬品合成化学分野

開 催 日：平成 22 年 5 月 12 日
講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会
講 師 名：杉原 多公通 教授
所 属：新潟薬科大学薬学部
演 題：気紛れな金属を宥め賺して
世話分野：薬品合成化学分野

開 催 日：平成 22 年 5 月 13, 14 日
場 所：日本薬学会長井記念ホール
シンポジウム名：第 8 回次世代を担う有機化学シンポジウム
実行委員：中村 精一、大野 浩章（京都大学）、齊藤 亜紀夫（昭和薬科大学）、松永 茂樹（東京大学）

開 催 日：平成 22 年 4 月 15 日

講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会

講師名：瀧口 金吾 助教

所属：名古屋大学理学研究科

演題：リボソームのリアルタイムイメージングから新たに分かってきた膜の形態形成や挙動

世話分野：生体超分子システム解析学分野

開催日：平成22年7月28日

講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会

講師名：佐藤 光男 博士

所属：協和発酵キリン株式会社 抗体研究所

演題：抗体医薬の現状とその展望

世話分野：生命分子構造学分野

開催日：平成22年9月24日

講演会名：IMS ナノフォーラム

講師名：Weontae Lee 教授

所属：Yonsei University, Korea

演題：Functional Elucidation and Drug Development of Disease Related Proteins by Structural Biology

場所：分子科学研究所

世話人：加藤 晃一

開催日：平成22年4月22日

講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会

講師名：佐藤 隆一郎 教授

所属：東京大学大学院農学生命科学研究科

演題：エネルギー・脂質代謝制御の分子基盤

世話分野：分子生物薬学分野

開催日：平成22年5月12日

場所：あわぎんホール 徳島県郷土文化会館（徳島）

シンポジウム名：日本薬剤学会第25年会 特別テーマシンポジウム

テーマ：薬剤学におけるDDSの新しい潮流—これからを担う若手研究者—

講師名：深水 啓朗 講師

高島 由季 准教授

樋口 ゆり子 助教

畠山 浩人 助教

大河原 賢一 准教授

所属：日本大学薬学部

東京薬科大学薬学部

京都大学薬学研究科

北海道大学薬学研究科

岡山大学薬学研究科

世話人：尾関 哲也、小暮 健太郎（京都薬科大学）

開催日：平成22年5月12日

場 所：あわぎんホール 徳島県郷土文化会館（徳島）
シンポジウム名：日本薬学会第 25 年会 薬剤学フォーカスグループシンポジウム
テーマ：非侵襲的バイオ医薬製剤の開発と治療の最前線

講 師 名：早川 堯夫 教授
杉山 雄一 教授
田平 武 教授
金井 靖
森下 真莉子 准教授

所 属：近畿大学薬学総合研究所
東京大学薬学研究科
順天堂大学医学研究科
アスピオファーマ
星薬科大学

世話人：尾関 哲也、森下 真莉子（星薬科大学）、佐久間 信至（摂南大学薬学部）、川上 亘作（物性・材料研究機構）、迫 和博（アステラス製薬）

開 催 日：平成 22 年 7 月 21-23 日

場 所：浜名湖ロイヤルホテル（静岡）

セミナー名：第 35 回製剤セミナー

テーマ：創剤イノベーションー医療を変える科学技術ー

実行委員：尾関 哲也、板井 茂（静岡県立大学）、谷野 忠嗣（塩野義製薬）他

開 催 日：平成 22 年 11 月 6 日

場 所：高志会館（富山）

研究会名：第 2 回粉末吸入剤研究会

世話人：尾関 哲也、岡田弘晃（東京薬科大学薬学部）、他

開 催 日：平成 22 年 4 月 14 日

講演会名：第 113 回薬学談話会

講 師 名：伊藤友香

所 属：名古屋市立大学・大学院薬学研究科・医薬品代謝解析学分野

演 題：関節リウマチ滑膜細胞における遺伝子発現とその制御

世話分野：寺坂和祥

開 催 日：平成 22 年 8 月 21～22 日

講演会名：第 13 回 天然薬物研究方法論アカデミー 覚王山シンポジウム

会 場：ルブラ王山

世 話 人：牧野利明

開 催 日：平成 22 年 9 月 29 日

講演会名：第 115 回薬学談話会

講 師 名：松永 民秀

所 属：名古屋市立大学・大学院薬学研究科・臨床薬学教育研究センター

演 題：ヒト ES 細胞及び iPS 細胞の創薬研究への応用

世話分野：生薬学分野

開 催 日：平成 22 年 10 月 15 日

講演会名：名古屋市立大学開学 60 周年記念薬草園市民公開講座

講師名：田中 敏弘
所属：岐阜薬科大学 特命教授
演題：薬膳の世界から見る生物多様性
世話分野：生薬学分野

開催日：平成22年10月16日
講演会名：名古屋市立大学開学60周年記念薬草園市民公開講座
講師名：本多 義昭
所属：姫路獨協大学薬学部長
演題：植物と香り
世話分野：生薬学分野

開催日：平成22年12月2日
講演会名：第39回生薬分析シンポジウム
会場：大阪薬業年金会館
世話人：牧野利明

開催日：平成21年1月15日
講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会
講師名：出川 雅邦 教授
所属：静岡県立大学大学院薬学研究科
演題：化学物質の代謝と化学発がん
世話分野：医薬品代謝解析学分野

開催日：平成21年2月28日
場所：ルーセントタワー会議室
シンポジウム名：大学院教育改革支援プログラムキックオフシンポジウム「薬工融合が拓くナノメディシン創薬」
世話分野：大学院教育改革支援プログラム「薬工融合型ナノメディシン創薬研究者の育成」(代表林 秀敏)

開催日：平成21年11月4日
場所：名古屋中小企業振興会館(吹上ホール)
シンポジウム名：大学院GP「薬工融合型ナノメディシン創薬」シンポジウム ～ナノ・マイクロ粒子デリバリー～
世話分野：大学院教育改革支援プログラム「薬工融合型ナノメディシン創薬研究者の育成」(代表林 秀敏)

開催日：平成22年7月22日
講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会
講師名：田辺 光男 教授
所属：北里大学薬学部
演題：難治性疼痛の機序解明と治療薬開発を目指した多面的アプローチ
世話分野：中枢神経機能薬理学分野

開催日：平成22年8月26～27日
講演会名：第31回鎮痛薬・オピオイドペプチドシンポジウム

場 所：名古屋市立大学大学院薬学研究科
世話分野：中枢神経機能薬理学分野（世話人代表 小野 秀樹）

開 催 日：平成 22 年 7 月 3 日
場 所：名古屋ルーセントタワー
シンポジウム名：第 20 回日本性機能学会中部総会
世話分野：病院薬剤学分野（実行委員長 木村 和哲）

開 催 日：平成 22 年 2 月 10 日
場 所：名古屋市女性会館
講演会名：大学連携講座
講 師 名：菊池千草 講師
所 属：名古屋市立大学大学院薬学研究科臨床薬学教育研究センター
演 題：糖尿病の薬物治療
主 催：名古屋市生涯学習推進センター

開 催 日：平成 22 年 2 月 11 日
場 所：名城大学薬学部
講演会名：第 4 回認定実務実習指導薬剤師のための講習会
講 師 名：鈴木 匡 教授，松永民秀 教授，前田 徹 講師，菊池千草 講師
所 属：名古屋市立大学大学院薬学研究科臨床薬学教育研究センター
主 催：（社）愛知県薬剤師会 薬学生実務実習特別委員会

開 催 日：平成 22 年 3 月 27 日
場 所：名古屋市公会堂大ホール
講演会名：女性・勤務・青年薬剤師部会研修会
講 師 名：大塚耕平
所 属：内閣府副大臣
演 題：今、薬剤師に何が期待されているのか
主 催：（社）愛知県薬剤師会 女性薬剤師・勤務薬剤師・青年薬剤師部会（部員；菊池千草 講師他）

開 催 日：平成 22 年 4 月 15 日
場 所：名古屋市立大学病院
講演会名：第 51 回糖尿病イブニングカンファレンス
座長：菊池千草 講師
講 師 名：夏目 久美子
所 属：岡崎市民病院 医療技術局 臨床検査室
演 題：SMBG を利用した糖尿病療養指導
講 師 名：赤尾 雅也
所 属：医療法人豊田会刈谷豊田総合病院 内分泌・代謝内科
演 題：糖尿病の新たな治療戦略~インクレチン関連薬の使いどころ
主 催：糖尿病イブニングカンファレンス（世話人；菊池千草 講師他）

開 催 日：平成 22 年 4 月 17 日
講演会名：薬友会総会特別講演
講 師 名：松永民秀 教授

所 属：名古屋市立大学大学院薬学研究科臨床薬学教育研究センター
演 題：薬学における ES 細胞あるいは iPS 細胞の利用と応用研究への期待
世話人：薬友会

開 催 日：平成 22 年 5 月 13 日
講演会名：文部科学省委託事業「社会人の学び直しプログラム」三公立連携薬剤師生涯学習支援
講座
講 師 名：松永民秀
所 属：名古屋市立大学大学院薬学研究科臨床薬学教育研究センター
演 題：薬学教育 6 年制になって：これからの薬剤師への期待
世 話 人：三公立連携薬剤師生涯学習支援講座

開 催 日：平成 22 年 9 月 29 日
講演会名：第 115 回薬学談話会
講 師 名：松永民秀 教授
所 属：名古屋市立大学大学院薬学研究科臨床薬学教育研究センター
演 題：ヒト ES 細胞及び iPS 細胞の創薬研究への応用
世 話 人：牧野利明、木村和哲、大矢 進、井上勝央、梅澤直樹、鈴木孝禎、西塚 誠、寺坂和
祥、細田 直

開 催 日：平成 22 年 10 月 17 日
場 所：ウィルあいち
講演会名：薬と健康の週間 県民公開講座
講 師 名：雷門 幸福
演 題：笑い与健康について
主 催：（社）愛知県薬剤師会 女性薬剤師・勤務薬剤師・青年薬剤師部会（部員；菊池千草
講師他）

開 催 日：平成 22 年 10 月 21 日
場 所：名古屋市立大学医学部
講演会名：第 52 回糖尿病イブニングカンファレンス
講 師 名：徳永 佐枝子
所 属：中部ろうさい病院 栄養管理室
演 題：糖尿病教育入院による食行動変容の効果
講 師 名：水野 有三
所 属：公立学校共済組合関東中央病院 代謝内分泌科
演 題：糖尿病と骨の健康
主 催：糖尿病イブニングカンファレンス（世話人；菊池千草 講師他）

開 催 日：平成 22 年 10 月 30 日
講演会名：名古屋市立大学薬学部学園祭（裏学園祭企画）
講 師 名：松永民秀 教授
所 属：名古屋市立大学大学院薬学研究科臨床薬学教育研究センター
演 題：万能細胞と呼ばれる ES 細胞と iPS 細胞 この 2 つの細胞の違いは？
世話人：名古屋市立大学薬学部学園祭実行委員

(その他)

タスクフォース・講師

第 27 回認定実務実習指導薬剤師ワークショップ in 東海

2010 年 1 月 10, 11 日 (名城大学薬学部)

タスクフォース・講師

第 28 回認定実務実習指導薬剤師ワークショップ in 東海

2010 年 7 月 18, 19 日 (名古屋市立大学薬学部)

4 研究業績目録

(2010年1月から2010年12月)

【薬化学分野】

(原報)

Mamiko Ikeda, Hidehiko Nakagawa, Shizuka Ban, Hiroki Tsumoto, Takayoshi Suzuki, Naoki Miyata

Development of a DNA-binding TEMPO derivative for evaluation of nuclear oxidative stress and its application in living cells,

Free Radic. Biol. Med., **49**, 1792-1797 (2010)

Shohei Hamada, Takayoshi Suzuki, Koshiki Mino, Koichi Koseki, Felix Oehme, Ingo Flamme, Hiroki Ozasa, Yukihiro Itoh, Daisuke Ogasawara, Haruka Komaarashi, Aiko Katoh, Hiroki Tsumoto, Hidehiko Nakagawa, Makoto Hasegawa, Ryuzo Sasaki, Tamio Mizukami, Naoki Miyata

Design, Synthesis, Enzyme-inhibitory Activity, and Effect on Human Cancer Cells of a Novel Series of Jumonji Domain-Containing Protein 2 Histone Demethylase Inhibitors

J. Med. Chem., **53**, 5629-5638 (2010).

Takayoshi Suzuki, Yosuke Ota, Yuki Kasuya, Motoh Mutsuga, Yoko Kawamura, Hiroki Tsumoto, Hidehiko Nakagawa, M. G. Finn, Naoki Miyata

An Unexpected Example of Copper-Mediated In Situ Click Chemistry

Angew. Chem. Int. Ed. Engl., **49**, 6817-6820 (2010).

Kazuya Matsuo, Hidehiko Nakagawa, Yusuke Adachi, Eri Kameda, Hiroki Tsumoto, Takayoshi Suzuki, Naoki Miyata

Alternative photoinduced release of HNO or NO from an acyl nitroso compound, depending on environmental polarity

Chem. Commun., **46**, 3788-3790 (2010).

Hiroki Tsumoto, Syo Kawahara, Yuki Fujisawa, Takayoshi Suzuki, Hidehiko Nakagawa, Kohfuku Kohda, Naoki Miyata

Syntheses of water-soluble [60]fullerene derivatives and their enhancing effect on neurite outgrowth in NGF-treated PC12 cells

Bioorg. Med. Chem. Lett., **20**, 1948-1952 (2010).

Takayoshi Suzuki, Rikako Tanaka, Shohei Hamada, Hidehiko Nakagawa, Naoki Miyata

Design, synthesis, inhibitory activity, and binding mode study of novel DNA methyltransferase 1 inhibitors

Bioorg. Med. Chem. Lett., **20**, 1124-1127 (2010).

Kazuhiro Hishikawa, Hidehiko Nakagawa, Toshiaki Furuta, Kiyoshi Fukuhara, Hiroki Tsumoto, Takayoshi Suzuki, Naoki Miyata

Multiple bond-conjugated photoinduced nitric oxide releaser working with two-photon excitation

Bioorg. Med. Chem. Lett., **20**, 302-305 (2010).

Qi Sun, Akira Hirasawa, Takafumi Hara, Ikuo Kimura, Tetsuya Adachi, Takeo Awaji, Masaji Ishiguro, Takayoshi Suzuki, Naoki Miyata, Gozoh Tsujimoto

Structure-Activity Relationships of GPR120 Agonists Based on a Docking Simulation

Mol. Pharmacol., **78**, 804-810 (2010).

(特許申請)

出願日：平成22年5月14日

出願番号：特願 2010-536730 (PCT 国内手続) 国際公開 WO2010/052993

名称：アシルニトロソ誘導体環化付加アントラセン誘導体及び光作動型 HNO 供与体

発明者：中川秀彦，宮田直樹，鈴木孝禎，松尾和哉

特許出願人：名古屋市立大学

出願日：平成22年11月2日

出願番号：PCT/JP2010/69473

名称：ニトロベンゼン誘導体、並びに、それを用いた高反応性 ROS 発生剤

発明者：中川秀彦，家田直弥，津元裕樹，鈴木孝禎，宮田直樹

特許出願人：名古屋市立大学

(学会発表)

永野裕樹，中川秀彦，木全絢子，西川智子，福内友子，太田茂，津元裕樹，鈴木孝禎，宮田直樹

ピラズロンを母核とした抗プリオン活性化合物の合成

日本薬学会第 130 年会，2010 年 3 月 29-30 日（岡山）29P-pm300

菱川和宏，中川秀彦，堀之内妙子，津元裕樹，鈴木孝禎，宮田直樹 【大学院生シンポジウム講演】

2,6-dimethylnitrobenzene を一酸化窒素 (NO) 放出部位とした二光子励起作動型 NO 放出剤の開発

日本薬学会第 130 年会，2010 年 3 月 29-30 日（岡山）GS04-2

浜田翔平，鈴木孝禎，伊藤幸裕，三野光識，津元裕樹，中川秀彦，水上民夫，宮田直樹

Jumonji C ドメインを含むヒストン脱メチル化酵素阻害薬の創製

日本薬学会第 130 年会，2010 年 3 月 29-30 日（岡山）28TK-am11

今井耕平，中西郁夫，安西和紀，小澤俊彦，宮田直樹，奥田晴宏，中村朝夫，福原潔

強力なラジカル消去活性を有する天然ポリフェノール誘導体の合成

日本薬学会第 130 年会，2010 年 3 月 29-30 日（岡山）29TK-pm18

池田麻美子，中川秀彦，伴静華，津元裕樹，鈴木孝禎，宮田直樹

核分布型スピンプローブを用いた生細胞核内酸化ストレスの解析

日本薬学会第 130 年会，2010 年 3 月 29-30 日（岡山）29TK-am10

松尾和哉，中川秀彦，安達祐介，津元裕樹，鈴木孝禎，宮田直樹

放出制御型 HNO ドナーの開発

日本薬学会第 130 年会，2010 年 3 月 29-30 日（岡山）29TK-am01

堀之内妙子, 中川秀彦, 津元裕樹, 鈴木孝禎, 福原潔, 宮田直樹
オルガネラ局在型光作動性 NO donor の開発

日本薬学会第 130 年会, 2010 年 3 月 29-30 日 (岡山) 29P-pm301

上田理恵, 鈴木孝禎, 三野光識, 津元裕樹, 中川秀彦, 水上民夫, 宮田直樹
低分子型 LSD1 選択的阻害薬の創製

日本薬学会第 130 年会, 2010 年 3 月 29-30 日 (岡山) 28TK-am09

宮田直樹

創薬化学: 大学で何を教育し何を研究するか

日本薬学会第 130 年会, 2010 年 3 月 29-30 日 (岡山) S26-3

家田直弥, 中川秀彦, 津元裕樹, 鈴木孝禎, 福原潔, 宮田直樹
光作動性 NO ドナーによる ROS 発生の検討

日本薬学会第 130 年会, 2010 年 3 月 29-30 日 (岡山) 29P-pm302

太田庸介, 鈴木孝禎, 李政樹, 飯田真介, 津元裕樹, 中川秀彦, 上田龍三, 宮田直樹
Click Chemistry を用いた HDAC8 選択的阻害薬の創製

日本薬学会第 130 年会, 2010 年 3 月 29-30 日 (岡山) 28TK-am10

菱川和宏, 中川秀彦, 堀之内妙子, 古田寿昭, 福原潔, 津元裕樹, 鈴木孝禎, 宮田直樹
二光子励起で放出制御可能な一酸化窒素供与剤の創製

第 8 回次世代を担う有機化学シンポジウム, 2010 年 5 月 13-14 日 (東京) 2-08

鈴木孝禎, 上田理恵, 三野光識, 津元裕樹, 中川秀彦, 水上民夫, 宮田直樹
シクロプロピルアミン誘導体の LSD1 特異的阻害活性とがん細胞に対する効果

日本ケミカルバイオロジー学会第 5 回年会, 2010 年 5 月 18-19 日 (横浜) P-19

池田麻美子, 中川秀彦, 伴静華, 津元裕樹, 鈴木孝禎, 宮田直樹
部位特異的酸化ストレス解析を目指したオルガネラ局在性スピンプローブの開発

日本ケミカルバイオロジー学会第 5 回年会, 2010 年 5 月 18-19 日 (横浜) P-19

Hidehiko Nakagawa [invited speaker]

Photocontrollable NO and RNS donors

The 6th International Conference on the Biology, Chemistry, and Therapeutic Applications of Nitric Oxide (NO2010), 2010.6.14-18 (Kyoto) O5

Kazuhiro Hishikawa, Hidehiko Nakagawa, Taeko Horinouchi, Toshiaki Furuta, Kiyoshi Fukuhara, Hiroki Tsumoto, Takayoshi Suzuki, Naoki Miyata

NO donors with 2,6-dimethylnitrobenzene moiety working with two-photon excitation

The 6th International Conference on the Biology, Chemistry, and Therapeutic Applications of Nitric Oxide (NO2010), 2010.6.14-18 (Kyoto) P15

Naoya Ieda, Hidehiko Nakagawa, Hiroki Tsumoto, Takayoshi Suzuki, Kiyoshi Fukuhara, Naoki Miyata

A photo-controllable releaser of hydroxyl radical-like species

The 6th International Conference on the Biology, Chemistry, and Therapeutic Applications of Nitric

Oxide (NO2010), 2010.6.14-18 (Kyoto) P16

Taeko Horinouchi, Hidehiko Nakagawa, Hiroki Tsumoto, Takayoshi Suzuki, Kiyoshi Fukuhara, Naoki Miyata

A Mitochondria-targeted photocontrollable NO donor

The 6th International Conference on the Biology, Chemistry, and Therapeutic Applications of Nitric Oxide (NO2010), 2010.6.14-18 (Kyoto) P17

Mamiko Ikeda, Hidehiko Nakagawa, Shizuka Ban, Hiroki Tsumoto, Takayoshi Suzuki, Naoki Miyata

Organelle-specific evaluation of nuclear redox status implicating NO in inflammatory irritated cells

The 6th International Conference on the Biology, Chemistry, and Therapeutic Applications of Nitric Oxide (NO2010), 2010.6.14-18 (Kyoto) P20

家田直弥、中川秀彦、堀之内妙子、鈴木孝禎、福原潔、宮田直樹

光制御型 hROS 供与化合物の開発

第 63 回日本酸化ストレス学会学術集会, 2010 年 6 月 24-25 日 (横浜) O-29

堀之内妙子、中川秀彦、菱川和宏、鈴木孝禎、福原潔、宮田直樹

オルガネラ局在型光作動性 NO ドナーの開発

第 63 回日本酸化ストレス学会学術集会, 2010 年 6 月 24-25 日 (横浜) O-30

菱川和宏、中川秀彦、堀之内妙子、古田寿昭、福原潔、鈴木孝禎、宮田直樹【優秀演題賞】

二光子励起で NO を放出する化合物の細胞系への応用

第 63 回日本酸化ストレス学会学術集会, 2010 年 6 月 24-25 日 (横浜) P-65

粕谷侑輝、鈴木孝禎、太田庸介、津元裕樹、中川秀彦、宮田直樹

azide-alkyne 環化付加反応を触媒する Cu-蛋白質複合体の発見

第 56 回日本薬学会東海支部総会・大会, 2010 年 7 月 3 日 (岐阜) B-2

中川秀彦【招待講演 (シンポジウム)】

レドックススピンプローブを用いて比較計測するオルガネラ酸化ストレス

電子スピンスイエンズ学会, 2010 年 11 月 11-13 日 (名古屋)

田中裕子、中川秀彦、鈴木孝禎、宮田直樹

細胞内一重項酸素検出を目指したミトコンドリア分布型 TMP 誘導体の合成

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2010, 2010 年 11 月 28 日 (静岡) F-25

亀田英里、中川秀彦、松尾和哉、津元裕樹、鈴木孝禎、宮田直樹

活性酸素酸化物の検出を目指した SH 基を有するクマリン誘導体の合成とその反応性の検討

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2010, 2010 年 11 月 28 日 (静岡) F-26

小笠原大介、鈴木孝禎、上田理恵、三野光識、中川秀彦、水上民夫、宮田直樹

LSD1 選択的阻害薬 NCL1 の光学活性体の合成、構造決定および生物活性評価

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2010, 2010 年 11 月 28 日

鈴木孝禎【招待講演 (ワークショップ)】

エピジェネティクス制御化合物の開発

第33回日本分子生物学会年会・第83回日本生化学会大会合同大会, 2010年12月7-10日(神戸)

Taeko Horinouchi, Hidehiko Nakagawa, Takayoshi Suzuki, Kiyoshi Fukuhara, Naoki Miyata
Photoinduced NO release in mitochondria

Pacificchem2010, 2010年12月15-20日 (Honolulu, HI, USA) 1644.

Hidehiko Nakagawa, Kazuya Matsuo, Yusuke Adachi, Eri Kameda, Hiroki Tsumoto,
Takayoshi Suzuki, Naoki Miyata

Alternative photoinduced release of HNO or NO from an acylnitroso compound

Pacificchem2010, 2010.12.15-20 (Honolulu) 1645.

Kazuhiro Hishikawa, Hidehiko Nakagawa, Taeko Horinouchi, Toshiaki Furuta, Kiyoshi
Fukuhara, Takayoshi Suzuki, Naoki Miyata

NO release from 2,6-dimethylnitrobenzene based NO releasers worked with two-photon excitation in cells

Pacificchem2010, 2010.12.15-20 (Honolulu) 1646.

Naoya Ieda, Hidehiko Nakagawa, Taeko Horinouchi, Takayoshi Suzuki, Kiyoshi Fukuhara,
Naoki Miyata

Generation of highly reactive oxygen species from nitrobenzene derivative by photoirradiation

Pacificchem2010, 2010.12.15-20 (Honolulu) 1647.

Mamiko Ikeda, Hidehiko Nakagawa, Takayoshi Suzuki, Naoki Miyata

Organelle-specific evaluation of nuclear redox status with a DNA binding spin probe

Pacificchem2010, 2010.12.15-20 (Honolulu) 1689.

Takayoshi Suzuki, Rie Ueda, Hiroki Tsumoto, Hidehiko Nakagawa, Naoki Miyata

Discovery of selective inhibitors of lysine specific demethylase-1

Pacificchem2010, 2010.12.15-20 (Honolulu) 2236.

Yuki Kasuya, Takayoshi Suzuki, Yusuke Ota, Hiroki Tsumoto, Hidehiko Nakagawa, Naoki
Miyata

Identification of isozyme-selective histone deacetylase inhibitors by click chemistry

Pacificchem2010, 2010.12.15-20 (Honolulu) 2241.

【精密有機反応学分野】

(原報)

Naoki Umezawa, Nobuyoshi Matsumoto, Shinsuke Iwama, Nobuki Kato and Tsunehiko Higuchi

Facile synthesis of peptide-porphyrin conjugates: Towards artificial catalase.

Bioorg. Med. Chem., **18**, 6340-6350 (2010).

Shinya Mimasu, Naoki Umezawa, Shin Sato, Tsunehiko Higuchi, Takashi Umehara, and Shigeyuki Yokoyama

Structurally designed trans-2-phenylcyclopropylamine derivatives potently inhibit histone demethylase LSD1/KDM1.

Biochemistry., **49**, 6494-6503 (2010).

(特許申請)

出願日：平成22年9月6日

出願番号：特願2010-198651

名称：抗マラリア活性化合物及び抗マラリア薬

発明者：樋口恒彦，梅澤直樹，加藤信樹

特許出願人：公立大学法人名古屋市立大学

(学会発表)

Hiroshi Suzuki, Takehiro Yamane, Naoki Umezawa, Nobuki Kato, Tsunehiko Higuchi

Anomalous effect of NH \cdots S Hydrogen bond on the redox property of heme thiolate complex relevant to cytochrome P450 catalysis.

39th Inorganic/Bioinorganic Reaction Mechanism Meeting 2010.

2010年1月10日 (Kloster Banz, Germany) ; P 34.

樋口恒彦

分子内反応補助基を導入したマンガンサレン錯体の酸化ストレス防御能

特定領域研究「協奏機能触媒」第7回公開シンポジウム. 2010年3月4日 (東京) ; 1S3-02.

田口知世, 近藤圭佑, 加藤信樹, 梅澤直樹, 樋口恒彦

希土類金属錯体を用いたベンジルアミンの触媒的空気酸化反応の開発

日本薬学会第130年会. 2010年3月29日 (岡山) ; 29P-am131.

今村優希, 大沢智子, 渡邊直登, 梅澤直樹, 富田泰輔, 岩坪威, 加藤信樹, 樋口恒彦

アミロイド β の産生を抑制するヘリカルな γ セクレターゼ阻害剤の開発

日本薬学会第130年会. 2010年3月29日 (岡山) ; 29P-pm247.

松本庸良, 梅澤直樹, 加藤信樹, 樋口恒彦

高機能化を目指したペプチド導入ポルフィリンの開発

日本薬学会第 130 年会. 2010 年 3 月 29 日 (岡山) ; 29TF-am05.

則武幸延, 渡部頼忠, 南波あずさ, 加藤信樹, 梅澤直樹, 樋口恒彦

反応補助基を導入したマンガンサレン錯体の活性酸素消去活性

日本薬学会第 130 年会. 2010 年 3 月 29 日 (岡山) ; 29TG-am15.

野々垣定紀, 上田真之介, 加藤信樹, 梅澤直樹, 樋口恒彦

可視光をエネルギー源とする「分子風車」: ナノテクノロジーの動力へ

日本薬学会第 130 年会. 2010 年 3 月 29 日 (岡山) ; 29TK-pm16Q.29Q-028.

樋口恒彦

強力で多様な酸化反応を行うルテニウムポルフィリン触媒系

第 9 回国際医薬品原料・中間体展. 2010 年 4 月 23 日 (東京) ;

今村優希, 渡邊直登, 大沢智子, 梅澤直樹, 富田泰輔, 岩坪 威, 加藤信樹, 樋口恒彦

ヘリカルなフォルダマーを用いたガンマセクレターゼ阻害剤の開発

第 8 回次世代を担う有機化学シンポジウム. 2010 年 5 月 13 日 (東京) ; 1-08.

鈴木 潤, 山根健浩, 梅澤直樹, 加藤信樹, 樋口恒彦

Anomalous effect of NH...S hydrogen bonding on the formation of high-valent state of heme thiolate

第 20 回金属の関与する生体関連反応シンポジウム. 2010 年 6 月 26 日 (徳島) ; O-16.

今村優希, 渡邊直登, 大沢智子, 梅澤直樹, 富田泰輔, 岩坪 威, 加藤信樹, 樋口恒彦

γセクレターゼ阻害能を持つヘリカルなフォルダマーの開発

第 56 回日本薬学会東海支部総会・大会. 2010 年 7 月 3 日 (岐阜) ; B-04.

鈴木 潤, 山根健浩, 梅澤直樹, 加藤信樹, 樋口恒彦

NH...S 水素結合がヘム-チオレート錯体の高原子価状態生成に及ぼす協奏的效果

第 56 回日本薬学会東海支部総会・大会. 2010 年 7 月 3 日 (岐阜) ; E-8.

今村優希, 渡邊直登, 大沢智子, 梅澤直樹, 富田泰輔, 岩坪 威, 加藤信樹, 樋口恒彦

アミロイドベータの産生を抑制するヘリカルなフォルダマーの開発

第 22 回生体機能関連化学部会若手の会サマースクール. 2010 年 7 月 16 日 (三重) ; 08.

樋口恒彦, 鈴木 潤, 山根健浩, 梅澤直樹, 加藤信樹

シトクロム P450 配位構造錯体の触媒機能に及ぼす NH...S 水素結合の特異な効果

第 106 回触媒討論会. 2010 年 9 月 18 日 (甲府) ; 4F04.

野呂侑加, 鵜飼和宏, 梅澤直樹, 加藤信樹, 樋口恒彦

マトリックスメタロプロテアーゼ (MMP) 阻害ペプチドの光による活性制御

第 4 回バイオ関連化学シンポジウム. 2010 年 9 月 26 日 (豊中) ; 3P-39.

鈴木 潤, 山根健浩, 梅澤直樹, 加藤信樹, 樋口恒彦

新概念に基づく可視光駆動一方向回転分子の開発

第 36 回反応と合成の進歩シンポジウム. 2010 年 11 月 1 日 (名古屋) ; 10-09.

鈴木 潤, 山根健浩, 梅澤直樹, 加藤信樹, 樋口恒彦

ヘム-チオレート錯体の酸化還元特性に及ぼす NH \cdots S 水素結合等の効果
第 43 回酸化反応討論会. 2010 年 11 月 13 日 (東京) ;P-05.

浜口 雄, 加藤信樹, 梅澤直樹, 樋口恒彦
ルテニウムポルフィリン-ピリジン N-オキシド系によるエーテル類の効率的酸化反応
第 43 回酸化反応討論会. 2010 年 11 月 13 日 (東京) ;P-06.

則武幸延, 加藤信樹, 梅澤直樹, 樋口恒彦
酵素の触媒機構を考慮した効率的活性酸素消去化合物の開発
第 29 回メディシナルケミストリーシンポジウム. 2010 年 11 月 18 日 (京都) ;2P-02.

浜口 雄, 加藤信樹, 梅澤直樹, 樋口恒彦
ルテニウムポルフィリンの触媒するエーテル類の効率的酸化
平成 22 年度日本薬学会東海支部合同学術大会. 2010 年 11 月 28 日 (静岡) ;F-15.

田口知世, 加藤信樹, 梅澤直樹, 樋口恒彦
Salvileucalin B の合成研究
平成 22 年度日本薬学会東海支部合同学術大会. 2010 年 11 月 28 日 (静岡) ;F-19.

野呂侑加, 鶴飼和宏, 梅澤直樹, 加藤信樹, 樋口恒彦
環状化によるペプチド活性の光制御法
平成 22 年度日本薬学会東海支部合同学術大会. 2010 年 11 月 28 日 (静岡) ;F-28.

Yuka Noro, Kazuhiro Ukai, Naoki Umezawa, Nobuki Kato, Tsunehiko Higuchi
New method for photocontrol of peptide function: light-regulation of matrix-metalloproteinase-3 inhibitory peptide.
5th International Peptide Symposium.
2010 年 12 月 9 日 (Kyoto) ;P2-384.

Yuki Imamura, Naoto Watanabe, Satoko Osawa, Naoki Umezawa, Taisuke Tomita, Takeshi Iwatsubo, Nobuki Kato, Tsunehiko Higuchi
New method for photocontrol of peptide function: light-regulation of matrix-metalloproteinase-3 inhibitory peptide.
Pacifichem 2010.
2010 年 12 月 19 日 (Honolulu, USA) ; 07-BIOL 892.

Tsunehiko Higuchi
Molecular Radiometer Driven by Visible Light.
Pacifichem 2010.
2010 年 12 月 15 日 (Honolulu, USA) ; 892.

Tsunehiko Higuchi 【依頼講演】
Design, Synthesis of Anti-malarial Compounds Based on Targeting Heme.
North Carolina NU Technology Showcase 2010.
2010 年 2 月 10-11 日 (North Carolina, USA) .

樋口恒彦 【招待講演】

合理的な分子設計に基づく新しい医薬機能分子の創製

日本化学会 第90春季年会 特別企画講演. 2010年3月26日 (大阪) .

樋口恒彦【招待講演】

合理的な官能基集積による新機能を持つ生体関連分子の創製

立命館大学総合理工学院. 2010年5月28日 (滋賀) .

樋口恒彦【招待講演】

ヘムへの親和性を設計原理とする新しい抗マラリア化合物の開発

第9回バイオテクノロジー国際会議. 2010年6月30日 (東京) ;

Tsunehiko Higuchi【招待講演】

Ruthenium Porphyrin-Heteroaromatic N-Oxide as a Robust and Versatile Oxidizing System.

6th International Conference on Porphyrins and Phthalocyanines (ICPP).

2010年7月4-9日 (New Mexico, USA) .

【薬品合成化学分野】

(原報)

Hiroki Ozasa, Kazuhiro Kondo, and Toyohiko Aoyama

The remarkable solvent effect on Zn(OAc)₂-catalyzed hydrosilylation of ketones.

Chem. Pharm. Bull., **58**, 989–990 (2010).

Hiroaki Matsuoka and Kazuhiro Kondo

Metal-free catalytic reduction of aldehydes, ketones, aldimines, and ketimines.

Chinese Chem. Lett., **21**, 1314–1317 (2010).

(総説・著書・総合論文など)

Hisanori Nambu, Seiichi Nakamura, Noritoshi Suzuki, and Shunichi Hashimoto

Stereocontrolled construction of 1,2-*cis*- α -glycosidic linkages using glycosyl diphenyl phosphates and synthesis of α -galactosylceramide KRN7000

Trends Glycosci. Glycotechnol., **22**, 26–40 (2010).

(学会発表)

松岡大晃, 近藤和弘

メタルフリーなアルデヒド, ケトン, アルジミン及びケチミンの触媒的還元反応

日本薬学会第130年会. 2010年3月29日(岡山); 29TG-pm20.

近藤和弘

高いクラーク数元素を用いた触媒的合成反応の開発

第9回国際医薬品原料・中間体展 (CPhI Japan 2010). 2010年4月23日(東京).

Kazuhiro Kondo

Development of asymmetric reactions using catalysts, which are composed of elements of a high Clarke number.

BIT's 1st Annual World Congress of Catalytic Asymmetric Synthesis 2010.

2010年5月21日(Beijing, China).

櫻井扶美恵, 近藤和弘, 青山豊彦

Ni触媒を用いたアルデヒドの触媒的不斉アリール化とカルボニル化合物の触媒的ヒドロシリル化反応の開発

第97回有機合成シンポジウム. 2010年6月18日(東京); 1-13.

Kazuhiro Kondo and Toyohiko Aoyama

Ni-catalyzed asymmetric arylation and alkenylation of aromatic aldehyde derivatives.

22nd International Symposium on Chirality. 2010年7月14日(札幌); PB-3.

近藤和弘, 櫻井扶美恵, 青山豊彦, 中村精一

Ni触媒によるアルデヒドの不斉アリール化反応とカルボニル基の化学選択的ヒドロシリル化反応の開発

日本プロセス化学会 2010 サマーシンポジウム, 2010年7月15日 (東京); 1P-01.

【機能分子構造学分野】

(原報)

Yosuke Hisamatsu, Naohiro Shirai, Shin-ichi Ikeda, and Kazunori Odashima

A New Quadruple hydrogen-Bonding Module Based on Five-Membered Heterocyclic Urea Structure

Org. Lett., **12**, 1776-1779 (2010).

【生体超分子システム解析学分野】

(原報)

Satoshi Tadokoro, Mamoru Nakanishi, and Naohide Hirashima

Complexin II regulates degranulation by interacting with SNARE complex containing syntaxin-3 in RBL-2H3 cells.

Cell. Immunol., **261**, 51-56 (2010).

Kohei Tahara, Takeshi Sakai, Hiromitsu Yamamoto, Hirofumi Takeuchi, Naohide Hirashima, and Yoshiaki Kawashima

Chitosan modified poly(D,L-lactide-co-glycolide) nanospheres for improving siRNA delivery and gene silencing effects.

Eur. J. Pharmaceut. Biopharmaceut., **74**, 421-426 (2010).

Yuka Hoshino, Naohide Hirashima, Mamoru Nakanishi, and Tadahide Furuno

Inhibition of degranulation and cytokine production in bone marrow-derived mast cells by hydrolyzed rice bran.

Inflamm. Res., **59**, 615-625 (2010).

Fumio Kawamura, Mamoru Nakanishi, and Naohide Hirashima

Effects of menadione, a reactive oxygen generator, on leukotriene secretion from RBL-2H3 cells.

Biol. Pharm. Bull., **33**, 881-885 (2010).

Masao Sasai, Satoshi Tadokoro, and Naohide Hirashima

Artificial exocytotic system that secretes intravesicular contents upon Ca^{2+} influx.

Langmuir, **26**, 14788-14792 (2010).

Hiroyuki Hiramatsu, Satoshi Tadokoro, and Naohide Hirashima

Latrotoxin induces degranulation in RBL-2H3 cells transfected with latrophilin.

Toxicon, **56**, 1372-1380 (2010).

Yoshikazu Inoh, Tadahide Furuno, Naohide Hirashima, Dai Kitamoto, and Mamoru Nakanishi
The ratio of unsaturated fatty acids in biosurfactants affects the efficiency of gene transfection.

Int. J. Pharm., **398**, 225-230 (2010).

(総説)

平嶋 尚英

アレルギー治療薬

看護技術, **56**, 75-80 (2010).

平嶋尚英、田所 哲

リポソームを用いたSNARE複合体介在膜融合のモデル

生体の科学, **61**, 204-208 (2010).

田中 正彦

培養神経細胞における GFP イメージングを用いた単一細胞レベルでの RNA 干渉効果の解析
バイオイメージング, **19**, 9-13 (2010).

(学会発表)

鈴木 匡, 岡田浩美, 土屋照雄, 賀川義之, 木村和哲, 杉山 正, 並木徳之, 平嶋尚英, 中村光浩, 小菅和仁, 前田 徹, 林 秀樹, 野口博司, 小野秀樹, 藤井 聡
三公立連携薬剤師生涯学習支援講座：実習プログラムの試みと評価
日本薬学会第130年会. 2010年3月28日 (岡山) ; 28P-am442.

田所 哲, 永井弓子, 中西 守, 平嶋尚英
リポソーム再構成 SNARE 系を用いたマスト細胞の開口放出におけるカルシウムの役割
日本薬学会第 130 年会. 2010 年 3 月 29 日 (岡山) ; 29P-am402.

田中正彦, 朝岡みなみ, 高岸芳子, 平嶋尚英
単一細胞エレクトロポレーションによって培養小脳プルキンエ細胞に導入されたsiRNAの遺伝子発現抑制効果
日本薬学会第130年会. 2010年3月29日 (岡山) ; 29P-am407.

村田麻実, 平嶋尚英
マスト細胞におけるGPCRの発現と炎症メディエータ分泌に対する作用
日本薬学会第130年会. 2010年3月30日 (岡山) ; 30P-am194.

古野忠秀, 関村美穂, 岡本恵佑, 伊藤彰彦, 平嶋尚英, 中西 守
後根神経節細胞とマスト細胞の相互作用における接着分子CADM1の役割
日本薬学会第 130 年会. 2010 年 3 月 30 日 (岡山) ; 30P-pm037.

Hidehiro Nomura, Naohide Hirashima

ELKS, an active zone protein, positively regulates exocytosis in mast cells.
14th International Congress of Immunology. Aug 22-27, 2010 (Kobe, Japan).

田中正彦, 柳川右千夫, 平嶋尚英

単一細胞エレクトロポレーション技術の培養小脳神経細胞への適用
第 33 回日本神経科学大会・第 53 回日本神経化学学会大会・第 20 回日本神経回路学会大会合同
大会. 2010 年 9 月 2 日 (神戸) ; P1-s12.

Yoshikazu Inoh Tadahide Furuno, Naohide Hirashima, Dai Kitamoto, Mamoru Nakanishi

The ration of unsaturated fatty acids in biosurfactant MEL-A affects DNA release from the liposomes.
第 48 回日本生物物理学会年会. 2010 年 9 月 20 日 (仙台) ; 1P238.

Yumiko Nagai, Satoshi Tadokoro, Naohide Hirashima

Effects of synaptotagmin on the membrane fusion between liposomes containing SNARE proteins involved in mast cell exocytosis.
第 48 回日本生物物理学会年会. 2010 年 9 月 22 日 (仙台) ; 3P227.

Masahiko Tanaka, Yuchio Yanagawa, Naohide Hirashima

Long-term monitoring of effects of small interfering RNA introduced by single-cell electroporation in cultured cerebellar neurons.

The 40th Annual Meeting of the Society for Neuroscience. 2010年11月16日 (San Diego, USA); 614.1.

廣瀬裕之, 田所 哲, 平嶋尚英

マスト細胞における分泌顆粒のリサイクリングに関する研究

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会. 2010年11月28日 (静岡); E-18.

末永智宏, 長浜順子, 田所 哲, 平嶋尚英

マスト細胞のシグナル伝達における GRK2 の役割

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会. 2010年11月28日 (静岡); E-19.

田所 哲, 中西 守, 平嶋尚英

マスト細胞の SNARE 介在性膜融合における complexin の機能解析

第33回日本分子生物学会年会・第83回日本生化学会合同大会. 2010年12月7日 (神戸); 1P-0514.

田中正彦, 柳川右千夫, 高岸芳子, 平嶋尚英

Long-term gene-silencing effects of small interfering RNA transferred by single-cell electroporation in cerebellar Purkinje neurons in vitro.

第33回日本分子生物学会年会・第83回日本生化学会合同大会. 2010年12月7日 (神戸); 1P-1233.

鈴木敬昌, 田所 哲, 平嶋尚英

ナノ粒子曝露がマスト細胞からの炎症性メディエーター分泌に及ぼす影響

第33回日本分子生物学会年会・第83回日本生化学会合同大会. 2010年12月9日 (神戸); 3P-1046.

Hidehiro Nomura, Naohide Hirashima

Active zone protein Liprin-alpha 1 plays an essential role in exocytosis and cell spreading in mast cells.

The American Society for Cell Biology 50th Annual Meeting. Dec 11-15, 2010 (Philadelphia, USA); 175/B514.

【コロイド・高分子物性学分野】

(原報)

Toshimitsu Kanai, Tsutomu Sawada and Junpei Yamanaka

Fabrication of large area silica colloidal crystals immobilized in hydrogel film

J.Ceram.Soc.Jpn **118**, 370-373 (2010)

Okuzono Tohru, Aoki naoto, Kajiya Tadashi and Doi Masao

Effects of Gelation on the Evaporation Rate of Polymer Solutions

J. Phys. Soc. Jpn. Vol.79, No.9, 094801-1--094801-3(2010)

Tadashi Kajiya, Wataru Kobayashi, Tohru Okuzono and Masao Doi

Controlling Profiles of Polymer Dots by Switching between Evaporation and Condensation

Langmuir Vol.26, No.13, 10429-10432(2010)

(学会発表)

T. Okuzono, M. Kobayashi, and M. Doi

Final shape of drying polymer droplets: analysis and simulations

Lorentz Center Workshop: Capillary Shaping of Solutes 2010 年 5 月 17 日 (Leiden, Netherland)

豊玉彰子, 山中淳平

荷電コロイド系の昇温による結晶化・融解挙動

第 59 回高分子学会年次大会 2010 年 5 月 26-28 日 (横浜)

恩田佐智子, 豊玉彰子, 山中淳平

シリカコロイドの温度誘起結晶化に対する塩基種の影響

第 59 回高分子学会年次大会 2010 年 5 月 26-28 日 (横浜)

谷地知大, 菅生行紘, 恩田佐智子, 豊玉彰子, 山中淳平

熱伝導による荷電コロイド結晶化過程での温度分布の実測

第 59 回高分子学会年次大会 2010 年 5 月 26-28 日 (横浜)

吉澤幸樹, C.P.Royall, 若林奈央, 山中淳平

荷電コロイド 2 成分混合系の電荷誘起相分離

第 59 回高分子学会年次大会 2010 年 5 月 26-28 日 (横浜)

永野亮太, 豊玉彰子, 山中淳平

荷電コロイド系の温度誘起結晶化に対する粒径の影響

第 59 回高分子学会年次大会 2010 年 5 月 26-28 日 (横浜)

菅生行紘, 恩田佐智子, 豊玉彰子, 澤田勉, 伊藤研策, 内田文生, 瀧口義浩, 山中淳平

一方向熱成長によるシリカコロイドの結晶化とゲル固定

第 59 回高分子学会年次大会 2010 年 5 月 26-28 日 (横浜)

篠原真理子, 吉澤幸樹, 豊玉彰子, 内田文生, 山中淳平

ゾーンメルト法による大型コロイド結晶の作製

第 59 回高分子学会年次大会 2010 年 5 月 26-28 日 (横浜)

T. Okuzono, N. Aoki, T. Kajiya, and M. Doi

Effects of Gelation on Solvent Evaporation in Drying Processes of Polymer Solutions

International Soft Matter Conference 2010, 2010 年 7 月 7 日 (Granada, Spain)

A. Toyotama, J. Yamanaka

Freezing Transition of Charged Colloids upon Heating

CECAM Workshop Crystallisation: From Colloids to Pharmaceuticals

2010 年 7 月 22-24 日 (Lausanne, Swiss)

J. Yamanaka, A. Toyotama

Unidirectional Crystallization of Charged Colloids

CECAM Workshop Crystallisation: From Colloids to Pharmaceuticals

2010 年 7 月 22-24 日 (Lausanne, Swiss)

A. Toyotama, J. Yamanaka

Thermally Induced Crystallization of Charged Colloids

International symposium on Non-Equilibrium Soft Matter 2010

2010 年 8 月 17-20 日 (奈良)

J. Yamanaka, A. Toyotama

Unidirectional Crystallization of Charged Colloids

International symposium on Non-Equilibrium Soft Matter 2010

2010 年 8 月 17-20 日 (奈良)

T. Okuzono, N. Aoki, T. Kajiya, and M. Doi

Elastic Effects on the Solvent Evaporation in Polymer Solutions

International symposium on Non-Equilibrium Soft Matter 2010

2010 年 8 月 18 日 (奈良)

T. Okuzono, Y. Tabe, and H. Yokoyama

Non-Equilibrium Dynamics of Liquid-Crystalline Langmuir Monolayers

Max Planck Institute for Polymer Research Public Seminar

2010 年 9 月 16 日 (Mainz, Germany)

Y. Sugao, S. Onda, A. Toyotama, T. Sawada, K. Ito, F. Uchida, K. Maeda

Y. Takiguchi, S. Hara, J. Yamanaka

Thermally Induced Unidirectional Crystallization of Colloidal Silica and its Immobilization

International Conference on Nanoscopic Colloid and Surface Science (NCSS 2010)

2010 年 9 月 19-22 日 (千葉)

奥藪透

コロイド結晶化のシミュレーションへ向けて

Meso-scale Dynamics on Interface 2010, 2010 年 11 月 6 日 (名古屋)

山中淳平【招待講演】
コロイド単結晶の作成

ポリマー材料フォーラム 2010 年 12 月 3 日 (名古屋)

A. Toyotama, J Yamanaka

Thermally induced crystallization of charged colloids

Pacificchem 2010, 2010 年 12 月 15-20 日 (Honolulu, U.S.A.)

J. Yamanaka, A. Toyotama

Fabrication of Large Colloidal Crystals by Zone-Melting Method

Pacificchem 2010, 2010 年 12 月 15-20 日 (Honolulu, U.S.A.)

K. Yoshizawa, C. P. Royall, J. Yamanaka

Charge Induced Phase Separation in Binary Charged Colloids

Pacificchem 2010, 2010 年 12 月 15-20 日 (Honolulu, U.S.A.)

【生命分子構造学分野】

(原報)

Eri Sakata, Tadashi Satoh, Shunsuke Yamamoto, Yoshiki Yamaguchi, Maho Yagi-Utsumi, Eiji Kurimoto, Keiji Tanaka, Soichi Wakatsuki and Koichi Kato

Crystal structure of UbcH5b~ubiquitin intermediate: Insight into the formation of the self-assembled E2~Ub conjugates

Structure **18**, 138-147 (2010)

Yoshiki Yamaguchi, Masami Masuda, Hiroaki Sasakawa, Takashi Nonaka, Shinya Hanashima, Shin-ichi Hasegawa, Koichi Kato, and Masato Hasegawa

Characterization of inhibitor-bound α -synuclein dimer: Role of α -synuclein N-terminal region in dimerization and inhibitor binding

J. Mol. Biol. **395**, 445-456 (2010)

Hirokazu Yagi, Masahiro Yamamoto, Shin-Yi Yu, Noriko Takahashi, Kay-Hooi Khoo, Yuan Chuan Lee, and Koichi Kato

N-Glycosylation profiling of turtle egg yolk: expression of galabiose structure

Carbohydr. Res. **345**, 442-448 (2010)

Olivier Serve, Yukiko Kamiya, Aya Maeno, Michiko Nakano, Chiho Murakami, Hiroaki Sasakawa, Yoshiki Yamaguchi, Takushi Harada, Eiji Kurimoto, Maho Utsumi-Yagi, Tsuyoshi Iguchi, Kenji Inaba, Jun Kikuchi, Osamu Asami, Tsutomu Kajino, Toshihiko Oka, Masayoshi Nakasako, and Koichi Kato

Redox-dependent domain rearrangement of protein disulfide isomerase coupled with exposure of its substrate-binding hydrophobic surface

J. Mol. Biol. **396**, 361-374 (2010)

Maho Yagi-Utsumi, Tomoshi Kameda, Yoshiki Yamaguchi, and Koichi Kato

NMR characterization of the interactions between lyso-GM1 aqueous micelles and amyloid β

FEBS Lett. **584**, 831-836 (2010)

Takashi Dojima, Takuya Nishina, Tatsuya Kato, Tuyoshi Uno, Hirokazu Yagi, Koichi Kato, Hiroshi Ueda, and Enoch Y. Park

Improved secretion of molecular chaperone-assisted human IgG in silkworm, and no alterations in their *N*-linked glycan structures

Biotechnology Progress **26**, 232-238 (2010)

Miho Nishio, Yukiko Kamiya, Tsunehiro Mizushima, Soichi Wakatsuki, Hiroaki Sasakawa, Kazuo Yamamoto, Susumu Uchiyama, Masanori Noda, Adam R. McKay, Kiichi Fukui, Hans-Peter Hauri, and Koichi Kato

Structural basis for the cooperative interplay between the two causative gene products of combined factor V and factor VIII deficiency

Proc. Natl. Acad. Sci. USA **107**, 4034-4039 (2010)

Nobuhiro Takemae, Ruttapong Ruttanapumma, Sujira Parchariyanon, Shuji Yoneyama,

Tsuyoshi Hayashi, Hiroaki Hiramatsu, Nongluk Sriwilijaroen, Yuko Uchida, Sachiko Kondo, Hirokazu Yagi, Koichi Kato, Yasuo Suzuki, and Takehiko Saito

Alteration in receptor binding properties of swine influenza viruses of H1 subtype after isolation in embryonated chicken egg

J. Gen. Virol. **91**, 938-948 (2010)

Yoshiki Yamaguchi, Shinya Hanashima, Hirokazu Yagi, Y. Takahashi, Hiroaki Sasakawa, Eiji Kurimoto, Tsuyoshi Iguchi, Shigeyuki Kon, Toshimitsu Uede, and Koichi Kato

NMR characterization of intramolecular interaction of osteopontin, an intrinsically disordered protein with cryptic integrin-binding motifs

Biochem. Biophys. Res. Commun. **393**, 487-4918 (2010)

Sota Sato, Osamu Morohara, Daishi Fujita, Yoshiki Yamaguchi, Koichi Kato, and Makoto Fujita

Parallel-stacked aromatic hosts for orienting small molecules in a magnetic field: Induced residual dipolar coupling by encapsulation

J. Am. Chem. Soc. **132**, 3670-3671 (2010)

Yoshinao Wada, Anne Dell, Stuart M. Haslam, Bérangère Tissot, Kévin Canis, Parastoo Azadi, Malin Bäckström, Catherine E. Costello, Gunnar C. Hansson, Yoshiyuki Hiki, Mayumi Ishihara, Hiromi Ito, Kazuaki Kakehi, Niclas Karlsson, Catherine E. Hayes, Koichi Kato, Nana Kawasaki, Kay-Hooi Khoo, Kunihiko Kobayashi, Daniel Kolarich, Akihiro Kondo, Carlito Lebrilla, Miyako Nakano, Hisashi Narimatsu, Jan Novak, Milos V. Novotny, Erina Ohno, Nicolle H. Packer, Elizabeth Palaima, Matthew B. Renfrow, Machiko Tajiri, Kristina A. Thomsson, Hirokazu Yagi, Shin-Yi Yu, and Naoyuki Taniguchi

Comparison of methods for profiling *O*-glycosylation: HUPO Human Disease Glycomics/Proteome Initiative multi-institutional study of IgA1

Mol. Cell Proteomics **9**, 719-727 (2010)

Jun Hoseki, Hiroaki Sasakawa, Yoshiki Yamaguchi, Momoe Maeda, Hiroshi Kubota, Koichi Kato, and Kazuhiro Nagata

Solution structure and dynamics of mouse ARMET

FEBS Lett. **584**, 1536-1542 (2010)

Christian A. Sandoval, Fusheng Bie, Aki Matsuoka, Yoshiki Yamaguchi, Hiroshi Naka, Yuehui Li, Koichi Kato, Noriyuki Utsumi, Kunihiko Tsutsumi, Takeshi Ohkuma, Kunihiko Murata, and Ryoji Noyori

Chiral η^6 -arene/*N*-tosylethylenediamine–ruthenium(II) complexes: Solution behavior and catalytic activity for asymmetric hydrogenation

Chem. Asian. J. **5**, 806-816 (2010)

Nobuko Hosokawa, Linda O. Tremblay, Barry Sleno, Yukiko Kamiya, Ikuo Wada, Kazuhiko Nagata, Koichi Kato, and Annette Herscovics

EDEM1 accelerates the trimming of α 1,2-linked mannose on the C branch of *N*-glycans

Glycobiology **20**, 567-575 (2010)

Taichi Kumanomidou, Tomomi Nakagawa, Tunehiro Mizushima, Atuo Suzuki, Fuminori Tokunaga, Kazuhiro Iwai, Yukiko Yoshida, Keiji Tanaka, Takashi Yamane

Crystallization and preliminary X-ray characterization of the Skp1-Fbg3 complex

Acta Cryst **F66**, 95-98. (2010)

Sangwoo Kim, Yasushi Saeki, Keisuke Fukunaga, Atsuo Suzuki, Kenji Takagi, Takashi Yamane, Keiji Tanaka, Tsunehiro Mizushima, Koichi Kato

Crystal Structure of Yeast Rpn14, a Chaperone of the 19 S Regulatory Particle of the Proteasome

J. Biol. Chem., **285(20)**, 15159-15166 (2010)

Hirokazu Yagi, Makoto Yanagisawa, Koichi Kato, and Robert K. Yu

Lysosome-associated membrane protein 1 is a major SSEA-1-carrier protein in mouse neural stem cells

Glycobiology **20**,976-981 (2010)

Katsuyoshi Masuda, Yoshiki Yamaguchi, Noriko Takahashi, Royston Jefferis, and Koichi Kato
Mutational deglycosylation of the Fc portion of immunoglobulin G causes O-sulfation of tyrosine adjacently preceding the originally glycosylated site

FEBS Lett. **584**, 3474-3479 (2010)

Masayoshi Nakasako, Aya Maeno, Eiji Kurimoto, Takushi Harada, Yoshiki Yamaguchi, Toshihiko Oka, Yuki Takayama, Aya Iwata, and Koichi Kato

Redox-dependent domain rearrangement of protein disulfide isomerase from a thermophilic fungus

Biochemistry **49**, 6953-6962 (2010)

Tadashi Satoh, Eri Sakata, Shunsuke Yamamoto, Yoshiki Yamaguchi, Akira Sumiyoshi, Soichi Wakatsuki, and Koichi Kato

Crystal structure of cyclic Lys48-linked tetraubiquitin

Biochem. Biophys. Res. Commun. **400**,329-333 (2010)

Tsutomu Nakagawa, Shunsaku Takeishi, Akihiko Kameyama, Hirokazu Yagi, Tomoko Yoshioka, Kenta Moriwaki, Tomomi Masuda, Hitoshi Matsumoto, Koichi Kato, Hisashi Narimatsu, Naoyuki Taniguchi, and Eiji Miyoshi

Glycomic analyses of glycoproteins in bile and serum during rat hepatocarcinogenesis

J. Proteome Res. **9**,4888-4896 (2010)

Masaaki Sugiyama, Eiji Kurimoto, Hiroki Sahashi, Eri Sakata, Yukio Morimoto, Kkeiji Itoh, Kazuhiko Mori, Toshiharu Fukunaga, Yashufumi Minami, and Koichi Kato

SANS investigation of assembly state of proteasome activator 28 and the 20S proteasome

J. Phys.: Conf. Ser. **247**,012020 (2010)

Yusuke Suzuki, Makoto Yanagisawa, Hirokazu Yagi, Yoshihiko Nakatani, and Robert K. Yu

Involvement of β 1-integrin up-regulation in basic fibroblast growth factor- and epidermal growth factor-induced proliferation of mouse neuroepithelial cells

J. Biol. Chem. **285**, 18443-18451 (2010)

Hirokazu Yagi, Makoto Yanagisawa, Yasuo Suzuki, Yoshihiko Nakatani, Toshio Ariga, Koichi Kato, and Robert K. Yu

HNK-1 epitope-carrying Tenascin-C spliced variant regulates the proliferation of mouse embryonic

neural stem cells

J. Biol. Chem. **285**, 37293-37301 (2010)

(総説・著書・総合論文など)

神谷由紀子, 加藤晃一

糖鎖によるタンパク質社会の秩序維持

化学工業, **61**, 23-31 (2010)

Nobuko Hosokawa, Yukiko Kamiya, and Koichi Kato

The role of MRH domain-containing lectins in ERAD

Glycobiology **20(6)**, 651-660 (2010)

Koichi Kato, Yoshiki Yamaguchi, and Yoji Arata

Stable-isotope-assisted NMR approaches to glycoproteins using immunoglobulin G as a model system

Progress in Nuclear Magnetic Resonance Spectroscopy **56**, 346-359 (2010)

Katsumi Matsuzaki, Koichi Kato, and Katsuhiko Yanagisawa

A β polymerization through interaction with membrane gangliosides

Biochim. Biophys. Acta – Molecular and Cell Biology of Lipids **1801**, 868-877 (2010)

Yoshiki Yamaguchi and Kato Kato

Dynamics and interactions of glycoconjugates probed by stable-isotope-assisted NMR spectroscopy

Methods in Enzymology **478**, 305-322 (2010)

Nobuko Hosokawa, Yukiko Kamiya, and Koichi Kato

Mannose 6-phosphate receptor homology domain-containing lectins in mammalian endoplasmic reticulum-associated degradation

Methods in Enzymology **480**, 181-197 (2010)

加藤晃一, 矢木真穂

神経変性疾患にかかわる天然変性タンパク質の分子構造ダイナミクス

Medical Bio 別冊 揺らぎと生体機能 (寺嶋正秀編), 32-37(2010)

坂田絵理, 佐藤匡史, 山口芳樹, 若槻壮市, 加藤晃一

細胞の中の不要なタンパク質に目印をつける仕組み

日本結晶学会誌, **52**, 255-261 (2010)

坂田絵理, 佐藤匡史, 山口芳樹, 若槻壮市, 加藤晃一

ユビキチン鎖伸長の構造的基盤

PF NEWS, **28**, 19-23 (2010)

(学会発表)

加藤晃一【依頼講演】

タンパク質の細胞内品質管理における分子センシング機構
平成 21 年度「バイオ分子センサー」連携研究公開シンポジウム. 2010 年 1 月 15 日 (岡崎) .

山口拓実, 山本さよこ, 宇野 剛, 神谷由紀子, 矢木宏和, 矢木真穂, 加藤晃一
NMR を用いた糖鎖の立体構造解析のための新規方法論の開発と応用
戦略的創造研究推進事業「糖鎖の生物機能の解明と利用技術研究領域」最終シンポジウム.
2010 年 1 月 20 日 (品川) ; P01.

鈴木康夫, 平松宏明, 鈴木 隆, 左 一八, 高橋忠伸, 小林一清, 西田芳弘, 加藤晃一, 矢
木宏和, 星野洪郎, 森 一泰, 森田公一
糖鎖ウイルス学による創薬へのアプローチ
戦略的創造研究推進事業「糖鎖の生物機能の解明と利用技術研究領域」最終シンポジウム.
2010 年 1 月 20 日 (品川) ; P012.

Nobuhiro Takemae, Ruttapong Ruttanapumma, Sujira Parchariyanon, Shuji Yoneyama,
Tsuyoshi Hayashi, Yasuaki Hiromoto, Yuko Uchida, Koichi Kato, Yasuo Suzuki, Tomoyuki
Tsuda, Takehiko Saito
Changes in receptor binding specificity of classical swine H1 influenza viruses due to egg-adaptation
International Symposium on Neglected Influenza Viruses .
2010 年 2 月 3-5 日 (Amelia Island Florida) .

Takumi Yamaguchi, Yukiko Kamiya, Hirokazu Yagi, Maho Yagi-Utsumi, Koichi Kato
A systematic methodology for structural glycobiology
2010 Annual Meeting of Asian CORE Program, Frontiers of Materials, Photo-, and Theoretical
Molecular Sciences. 2010 年 3 月 1 日 (Taipei) ; P21.

水島恒裕, 金 相佑, 佐伯 泰, 加藤晃一, 森本幸生, 田中啓二
巨大で複雑なタンパク分解装置の動態と作動機構
平成 21 年度ターゲットタンパク研究プログラム公開シンポジウム
「ターゲットタンパク研究プログラムから見える未来 (3)」. 2010 年 3 月 5 日 (東京) .

水島恒裕, 西尾和也, 坂田絵理, 若槻壮市, 加藤晃一, 森本幸生, 田中啓二
巨大で複雑なタンパク分解装置の動態と作動機構—プロテアソーム相互作用分子群の構造解
析
平成 21 年度ターゲットタンパク研究プログラム公開シンポジウム
「ターゲットタンパク研究プログラムから見える未来 (3)」. 2010 年 3 月 5 日 (東京) .

加藤晃一, 山口拓実, 神谷由紀子
超高磁場 NMR 分光法による天然変性タンパク質および糖脂質クラスターの構造解析
自然科学研究機構分子科学研究所分子スケールナノサイエンスセンター運営委員会(第 11 回).
2010 年 3 月 23 日 (岡崎) .

加藤晃一【招待講演】
抗体医薬の開発に向けた多次元 HPLC 法および NMR 法による糖鎖解析技術
技術情報協会セミナー. 2010 年 3 月 26 日 (東京) .

諸原 理, 藤田大士, 佐藤宗太, 山口芳樹, 加藤晃一, 藤田 誠

磁場配向性ホスト錯体によるゲスト分子の磁場配向

Guest orientation within oriented host complex

日本化学会第 90 春季年会. 2010 年 3 月 26 日 (東大阪); 1C1-28.

高木賢治, 水島恒裕, 八代田英樹, 村田茂穂, 金 相佑, 大場由記子, 山根 隆, 佐伯 泰, 田中啓二, 加藤晃一

20S プロテアソーム構築シャペロン群の構造および機能解析

次世代を担う若手のためのフィジカル・ファーマフォーラム. 2010 年 3 月 27 日 (岡山); 2-4.

藤田大士, 佐藤宗太, 矢木真穂, 山口拓実, 加藤晃一, 藤田 誠

生理活性糖を精密集積した $M_{12}L_{24}$ 球状錯体の合成

日本化学会第 90 春季年会. 2010 年 3 月 28 日 (東大阪); 3E5-05.

矢木真穂, 亀田倫史, 山口芳樹, 柳澤勝彦, 加藤晃一

NMR 法を用いたアミロイド β とガングリオシドクラスターの相互作用解析

日本薬学会第 130 年会. 2010 年 3 月 28 日 (岡山); 28SH-am13.

神谷由紀子, 西尾美穂, 水島恒裕, 若槻荘市, 山本一夫, 内山 進, 野田勝紀, Hans-Peter Hauri, 加藤晃一

カーゴレセプター複合体による血液凝固因子の細胞内輸送機構の構造基盤

日本薬学会第 130 年会. 2010 年 3 月 28 日 (岡山); 28SH-am14.

良川須美, 矢木真穂, 山口芳樹, 栗本英治, 石田義人, 本間貴之, 寶関 淳, 西川良美, 小出隆規, 永田和宏, 加藤晃一

NMR 法による分子シャペロン Hsp47 とコラーゲンの相互作用解析

平成 21 年度 生物物理学会中部支部講演会. 2010 年 3 月 29 日 (岡崎) .

西尾美穂, 神谷由紀子, 水島恒裕, 若槻荘市, 山本一夫, 内山 進, 野田勝紀, 加藤晃一

血液凝固因子欠乏症の原因遺伝子産物間の協働的相互作用の構造基盤

平成 21 年度 生物物理学会中部支部講演会. 2010 年 3 月 29 日 (岡崎); P-2.

山口拓実, 山本さよこ, 宇野剛, 矢木真穂, 加藤晃一

糖鎖の NMR 構造解析のための新規手法の開発

平成 21 年度 生物物理学会中部支部講演会. 2010 年 3 月 29 日 (岡崎) .

加藤晃一 【招待講演】

複合糖質の構造・機能解析の体系的な研究戦略

蛋白研 - 統合バイオ合同セミナー. 2010 年 4 月 22 日 (大阪) .

佐藤宗太, 諸原 理, 藤田大士, 山口芳樹, 加藤晃一 【依頼講演】

磁場配向性ホスト錯体により誘起されたゲスト分子の NMR 磁場配向

文部科学省 先端研究施設共用イノベーション創出事業ナノテクノロジー・ネットワーク

中部地区ナノテク総合支援: ナノ材料創製加工と先端機器分析 平成 21 年度成果報告会.

2010 年 5 月 11 日 (名古屋); T01.

矢木真穂, 山口芳樹, 柳澤勝彦, 加藤晃一

ガングリオシドクラスターに結合した $A\beta$ の NMR 法による構造解析

中部地区ナノテク総合支援：ナノ材料創製加工と先端機器分析 平成 21 年度成果報告会.
2010 年 5 月 11 日 (名古屋); P01.

矢木真穂、亀田倫史、山口芳樹、柳澤勝彦、加藤晃一【奨励賞受賞】

ガングリオシドクラスターに結合したアミロイドβの NMR 構造解析

第 74 回日本生化学会中部支部例会. 2010 年 5 月 29 日 (名古屋); P-24.

矢木宏和

Comparative analysis of N-glycans expressed in mouse neural stem cells before and after differentiation

平成 22 年度 比較グライコーム研究会. 2010 年 6 月 5 日 (名古屋).

Osamu Morohata, Daishi Fujita, Sota Sato, Yoshiki Yamaguchi, Koichi Kato, Makoto Fujita
Magnetic orientation by encapsulation into magnetically oriented host complex

5th International Symposium on Macrocyclic & Supramolecular Chemistry.

2010 年 6 月 9 日 (奈良); P322.

西尾美穂, 神谷由紀子, 水島恒裕, 若槻壮市, 笹川拓明, 山本一夫, 内山 進, 野田勝紀, Adam R. McKay, 福井希一, Hans-Peter Hauri, 加藤晃一【招待講演】

レクチンと EF ハンドタンパク質の協働的相互作用による血液凝固因子の細胞内輸送の構造基盤

第 10 回 日本蛋白質科学会年会. 2010 年 6 月 17 日 (札幌); 2WE-5.

加藤晃一, 神谷由紀子 【招待講演】

真核細胞発現系を用いた糖タンパク質の安定同位体標識

第 10 回 日本蛋白質科学会年会. 2010 年 6 月 18 日 (札幌); 3WG-2.

加藤晃一【依頼講演】

NMR を利用したタンパク質・複合糖質の揺らぎの検出とその機能連関の探査

新学術領域「揺らぎと生体機能」平成 22 年度合同班会議. 2010 年 6 月 29 日 (片山津).

矢木真穂, 加藤晃一【招待講演】

ガングリオシドクラスターに結合したアミロイドβの NMR 構造解析

平成 22 年度生理学研究所研究会 糖鎖機能研究会…分子レベルでの解明を目指して.

2010 年 7 月 1 日 (岡崎); セッション 3.

西尾美穂, 神谷由紀子, 水島恒裕, 若槻壮市, 山本一夫, 内山 進, 野田勝紀, Adam R. McKay, 福井希一, Hans-Peter Hauri, 加藤晃一

立体構造情報に基づく血液凝固因子輸送体の作動機構の解明

特定領域研究「タンパク質の社会」主催 第 3 回若手ワークショップ.

2010 年 7 月 3 日 (宗像).

Sayoko Yamamoto, Takumi Yamaguchi, Mate Erdélyi, Christian Griesinger, Koichi Kato
Paramagnetic NMR approach to conformational analysis of N-glycans

Joint EUROMAR 2010 and 17th ISMAR Conference. 2010 年 7 月 5 日 (Florence); P268.

Koichi Kato, Yukiko Kamiya, Yoshiki Yamaguchi

A systematic approach to NMR-based structural glycobiology

Joint EUROMAR 2010 and 17th ISMAR Conference. 2010年7月6日 (Florence) ; P119.

Takashi Hirano, Olivier Serve, Maho Yagi, Tsunehiro Mizushima, Ryo Kitahara, Koichi Kato
Dynamics of multi-domains proteins seen by NMR: the di-ubiquitin model

Joint EUROMAR 2010 and 17th ISMAR Conference. 2010年7月6日 (Florence) ; P221.

Maho Yagi-Utsumi, Tomoshi Kameda, Yoshiki Yamaguchi, Katsuhiko Yanagisawa, Koichi Kato

Structural basis of the interaction between ganglioside clusters and amyloid- β peptide

Joint EUROMAR 2010 and 17th ISMAR Conference. 2010年7月8日 (Florence) ; P267.

Koichi Kato 【招待講演】

NMR characterization of the interactions between amyloid β and gangliosidic micelles

Max Planck Institute for Biophysical Chemistry. 2010年7月12日 (Göttingen) .

Koichi Kato 【招待講演】

A systematic structural glycobiology by NMR in conjunction with X-ray crystallography and sugar library approaches

The Chinese University of Hong Kong. 2010年7月15日 (Hong Kong) .

Koichi Kato 【招待講演】

A systematic structural glycobiology by NMR in conjunction with X-ray crystallography and sugar library approaches

Hong Kong University . 2010年7月16日 (Hong Kong) .

Koichi Kato 【招待講演】

Structural glycomics by NMR and sugar library approaches

WCU Special Seminar. 2010年7月22日 (Seoul) .

Koichi Kato 【招待講演】

A systematic approaches of structural glycobiology based on NMR and sugar library

International Workshop on Glycan Structure Analysis of Therapeutic Recombinant Glycoproteins .
2010年7月23日 (Bucheon) .

加藤晃一 【招待講演】

超高磁場 NMR による複合糖質の動的構造・相互作用解析

大阪大学蛋白質研究所セミナー「超高磁場が拓く生体系 NMR : 最新技術と応用」.
2010年7月30日 (吹田) .

Koichi Kato 【招待講演】

NMR characterization of conformations, dynamics, and interactions of glycoconjugates

The 25th International Carbohydrate Symposium (ICS2010). 2010年8月3日 (幕張) .

Yukiko Kamiya, Yasunori Chiba, Yoshifumi Jigami, and Koichi Kato

Development of metabolic ¹³C-labeling techniques for NMR structural analyses of high-mannose-type oligosaccharides

The 25th International Carbohydrate Symposium (ICS2010). 2010 年 8 月 3 日 (幕張) ; D-P3-0032.

Olivier Serve 【招待講演】

Redox-dependent conformational rearrangement of protein disulfide isomerase studied by NMR and SAXS

立命館大学セミナー. 2010 年 8 月 6 日 (草津) .

加藤晃一 【依頼講演】

複合糖質の構造・機能解析

岡崎統合バイオサイエンスセンター・サマースクール. 2010 年 8 月 18 日 (岡崎) .

Maho Yagi-Utsumi, Tomoshi Kameda, Yamagichi Yamaguchi, Katsuhiko Yanagisawa, Koichi Kato

Interactions between amyloid β and ganglioside clusters as characterized by NMR spectroscopy

24th International Conference on Magnetic Resonance in Biological Systems (ICMRBS).

2010 年 8 月 24 日 (Cairns) ; #031.

Ryo Kitahara, Takashi Hirano, Maho Yagi, Kazumi Hata, Yoshihiro Taniguchi, Kazuyuki Akasaka, Koichi Kato

High-pressure NMR characterizes conformational fluctuation of Lys48-linked diubiquitin

24th International Conference on Magnetic Resonance in Biological Systems (ICMRBS).

2010 年 8 月 24 日 (Cairns) ; #338.

Yoshinori Uekusa, Miya Kamihira-Ishijima, Osamu Sugimoto, Takeshi Ishii, Shigenori Kumazawa, Kozo Nakamura, Ken-ichi Tanji, Koichi. Kato, Akira Naito, Tsutomu Nakayama

The molecular aspects of green tea catechin interacting with phospholipid membranes as revealed by solution and solid-state NMR spectroscopy.

24th International Conference on Magnetic Resonance in Biological Systems (ICMRBS).

2010 年 8 月 26 日 (Cairns) ; #571.

加藤晃一 【依頼講演】

920MHzNMR 装置を利用した複合糖質の構造・ダイナミクス・相互作用の解析

ナノネット機能別会合 (分子物質合成・極限環境) . 2010 年 9 月 3 日 (岡崎) .

西尾美穂, 神谷由紀子, 水島恒裕, 矢木真穂, 若槻壮市, 笹川拓明, 山本一夫, 加藤晃一 【奨励賞受賞】

レクチンとカルシウム結合タンパク質の複合体形成による血液凝固因子の細胞内輸送メカニズム

糖鎖科学名古屋拠点 第 8 回「若手のカフォーラム」. 2010 年 9 月 6 日 (名古屋) ; P-12.

山本さよこ, 山口拓実, Erdelyi Mate, Griesinger Christian, 加藤晃一

N 型糖鎖の立体構造解析への常磁性 NMR の応用

糖鎖科学名古屋拠点 第 8 回「若手のカフォーラム」. 2010 年 9 月 6 日 (名古屋) ; P-13.

宇野 剛, 矢木真穂, 山口拓実, 加藤晃一

糖脂質含有バイセルを用いた糖鎖クラスターの NMR 解析

糖鎖科学名古屋拠点 第8回「若手のカフォーラム」. 2010年9月6日(名古屋); P-14.

神谷由紀子, 西尾美穂, 加藤晃一【招待講演】

糖タンパク質の品質管理を担う超分子複合体の作動メカニズムの構造基盤の解明

糖鎖科学名古屋拠点 名古屋拠点若手研究奨励賞講演. 2010年9月6日(名古屋); S-2.

Yukiko Kamiya, Daiki Kamiya, Miho Nishio, and Koichi Kato

Molecular basis of the glycoprotein-fate determination

The 3rd International Symposium on Protein Community. 2010年9月14日(奈良); P-104.

Miho Nishio, Yukiko Kamiya, Tsunehiro Mizushima, Maho Yagi-Utsumi, Soichi Wakatsuki, Koichi Kato

Structural basis for intracellular trafficking of coagulation factors V and VIII by the cooperative interplay between lectin and EF-hand protein.

The 3rd International Symposium on Protein Community. 2010年9月14日(奈良); P-105.

宇野 剛, 矢木真穂, 山口拓実, 加藤晃一

バイセルを応用した糖脂質クラスターのNMR解析

第59回高分子討論会. 2010年9月16日(札幌); 2Pb124.

加藤晃一 【招待講演】

複合糖質の体系的構造解析: NMRと糖鎖ライブラリーによるアプローチ

第59回高分子討論会. 2010年9月17日(札幌); 3A06IL.

Masaaki Sugiyama, Eiji Kurimoto, Koichi Kato【シンポジウム】

中性子小角散乱を用いた複合蛋白質の構造および様態の研究

Structural study of complex protein with small-angle neutron scattering

第48回 日本生物物理学会年会. 2010年9月20日(仙台); 1SH-0950.

Ryo Kitahara, Takashi Hirano, Maho Yagi, Kazumi Hata, Yoshihiro Taniguchi, Kazuyuki Akasaka, Koichi Kato

高圧力NMR法によるLys46結合型ジユビキチンの構造揺らぎに関する研究

Conformational fluctuation of Lys48-linked diubiquitin characterized by high-pressure NMR spectroscopy

第48回 日本生物物理学会年会. 2010年9月20日(仙台); 1P-032.

Takashi Hirano, Olivier Serve, Maho Yagi, Tsunehiro Mizushima, Ryo Kitahara, Koichi Kato

NMR法によるLys48結合型ダイユビキチンの動的構造解析

Dynamics of Lys48-linked di-ubiquitin as studied by NMR spectroscopy

第48回 日本生物物理学会年会. 2010年9月21日(仙台); 2P-003.

Souichirou Kitazawa, Takashi Hirano, Maho Yagi, Koichi Kato, Kazuyuki Akasaka, Ryo Kitahara

ユビキチン変異体を用いた高エネルギー構造と機能の研究

High pressure NMR reveals significant shifts in populations of higher-energy conformers in ubiquitin variants

第48回 日本生物物理学会年会. 2010年9月21日(仙台); 2P-068.

Maho Yagi-Utsumi, Tomoshi Kameda, Yoshiki Yamaguchi, Katsuhiko Yanagisawa, Koichi Kato

NMR analyses of the interactions between ganglioside clusters and amyloid β

第 48 回 日本生物物理学会年会. 2010 年 9 月 23 日 (仙台) ; 3F-1205,3P-007.

佐藤宗太, 諸原 理, 藤田大士, 山口芳樹, 加藤晃一, 藤田 誠

RDC analysis of a guest accommodated in a magnetic aligning host complex

第 60 回 錯体化学討論会・国際会議. 2010 年 9 月 27 日 (大阪) ; 1Ia-08.

Koichi Kato 【招待講演】

Structural and functional glycomics based on HPLC database, sugar library, and NMR spectroscopy

BIT Life Sciences' 8th Annual Congress of International Drug Discovery Science and Technology (IDDST). 2010 年 10 月 24 日 (Beijing) .

Yoshinori Uekusa, Takeshi Ishii, Koichi Kato, Akira Naito, Tsutomu Nakayama

The study of catechin-phospholipid membranes interaction by solution and solid-state NMR spectroscopy

Mini-session for Young Researchers of Tea Science, The 4th International Conference on O-CHA (Tea) Culture and Science (ICOS2010). 2010 年 10 月 26 日 (静岡) ; 3.

Yoshinori Uekusa, Miya Kamihira-Ishijima, Osamu Sugimoto, Takeshi Ishii, Shigenori Kumazawa, Kozo Nakamura, Ken-ichi Tanji, Koichi Kato, Akira Naito, Tsutomu Nakayama

The study of catechin-phospholipid membranes interaction by solution and solid-state NMR spectroscopy

The 4th International Conference on O-CHA (Tea) Culture and Science (ICOS2010). 2010 年 10 月 27 日 (静岡) ; HB-P-28.

Takumi Yamaguchi, Sayoko Yamamoto, Mate Erdelyi, Christian Griesinger, Koishi Kato

Paramagnetic-tagging approach for NMR characterization of *N*-linked oligosaccharides

2nd Asian Communications of Glycobiology and Glycotechnology (ACGG 2nd Conference). 2010 年 10 月 27 日 (Taipei) ; P10.

Yukiko Kamiya, Miho Nishio, Koishi Kato

Molecular basis of the glycoprotein-fate determination governed by the intracellular lectins

2nd Asian Communications of Glycobiology and Glycotechnology (ACGG 2nd Conference). 2010 年 10 月 27 日 (Taipei) ; P56.

Maho Yagi-Utsumi, Tomoshi Kameda, Yoshiki Yamaguchi, Katsuhiko Yanagisawa, Koichi Kato

NMR analyses of the interaction between amyloid β and GM1 clusters

2nd Asian Communications of Glycobiology and Glycotechnology (ACGG 2nd Conference). 2010 年 10 月 27 日、29 日 (Taipei) ; P62.

北沢創一郎, 矢木真穂, 菅瀬謙治, 加藤晃一, 北原亮
準安定構造が安定化したユビキチン変異体の NMR 解析

第 60 回日本薬学会近畿支部総会・大会. 2010 年 10 月 30 日 (枚方) .

Sangwoo Kim, Tsunehiro Mizushima, Yasushi Saeki, Keiji Tanaka, and Koichi Kato
Crystal structure of Hsm3p, an assembly chaperone of the 19S regulatory particle of the proteasome
The 10th Conference of the Asian Crystallographic Association. 2010年11月2日 (Busan) ; MS13-P06.

Yukiko Kamiya

Molecular basis of sugar recognition by intracellular lectins in glycoprotein-fate
The 1st Yonsei-IMS Joint Workshop: “Structural Biology and Molecular Function” .
2010 年 11 月 6 日 (Jeju) .

Maho Yagi-Utsumi

NMR analyses of interaction modes of amyloid β with GM1 clusters
The 1st Yonsei-IMS Joint Workshop: “Structural Biology and Molecular Function” .
2010 年 11 月 6 日 (Jeju) ; 1005-1020.

Koichi Kato 【招待講演】

Structural and functional analyses of post-translationally diversified proteins
The 1st Yonsei-IMS Joint Workshop: “Structural Biology and Molecular Function” .
2010 年 11 月 6 日 (Jeju) .

Miho Nishio

Structural basis for intracellular trafficking of coagulation factors by the cooperative interplay between lectin and EF-hand protein
The 1st Yonsei-IMS Joint Workshop: “Structural Biology and Molecular Function” .
2010 年 11 月 6 日 (Jeju) .

Takashi Hirano

Dynamics of Lys48-linked di-ubiquitin as studied by NMR spectroscopy
The 1st Yonsei-IMS Joint Workshop: “Structural Biology and Molecular Function” .
2010 年 11 月 6 日 (Jeju) .

水島恒裕

タンパク質分解酵素複合体プロテアソームの構造と複合体形成機構
兵庫県立大学理学部セミナー. 2010 年 11 月 11 日 (兵庫) .

北原 亮, 平野貴志, 矢木真穂, 秦 和澄, 赤坂一之, 加藤晃一

高圧 NMR 法による Lys48 結合型ジユビキチンの構造揺らぎ
第 49 回 NMR 討論会. 2010 年 11 月 15 日 (東京) ; L5.

諸原 理, 藤田大士, 佐藤宗太, 山口芳樹, 加藤晃一, 藤田 誠 【若手ポスター賞】

ホストゲノム化学による磁場配向誘起を用いた RDC 構造解析
第 49 回 NMR 討論会. 2010 年 11 月 15 日 (東京) ; YP12.

北沢創一郎, 矢木真穂, 菅瀬謙治, 加藤晃一, 北原 亮

準安定状態が安定化されたユビキチン変異体
第 49 回 NMR 討論会. 2010 年 11 月 15 日 (東京) ; P26.

植草義徳, 上平(石島)美弥, 杉本 収, 丹治健一, 中村浩蔵, 石井剛志, 熊澤茂則, 加藤晃一,
内藤 晶, 中山 勉

NMR を用いた緑茶カテキンとリン脂質膜との相互作用メカニズムの解明

第 49 回 NMR 討論会. 2010 年 11 月 17 日 (東京); P101.

水島恒裕

プロテアソーム 19S 制御因子形成シャペロンの構造と作用機構

平成 22 年度「タンパク質分解」班会議. 2010 年 11 月 16 日 (札幌) .

栗本英治

中性子小角散乱を用いたプロテアソーム構成タンパク質の構造解析

平成 22 年度「タンパク質分解」班会議. 2010 年 11 月 17 日 (札幌) .

花島慎弥, 池田明美, 金川真由美, 山口芳樹, 田中浩士, 河合徹也, 高橋孝志, 加藤晃一,
安達禎之, 大野尚仁

溶液 NMR を用いた beta(1,3)glucan の構造解析と Dectin-1 との結合実験

Glyco Tokyo 2010 シンポジウム. 2010 年 11 月 27 日 (東京); P22.

齊藤拓也, 矢木宏和, 柳澤 亮, Robert K. Yu, 加藤晃一

神経幹細胞の分化前後における N 型糖鎖プロファイリング

日本病院薬剤師会・日本薬学会東海支部合同学術大会 2010. 2010 年 11 月 28 日 (静岡); D-10.

雲井健太郎, 水島恒裕, 矢木宏和, 加藤晃一

古細菌 20S プロテアソームと新規結合タンパク質の相互作用解析

日本病院薬剤師会・日本薬学会東海支部合同学術大会 2010. 2010 年 11 月 28 日 (静岡); F-04.

Ryo Kitahara, Koichi Kato 【招待講演】

NMR characterization of high-energy state of ubiquitin and poly-ubiquitin

The 4th International Symposium, Molecular Science of Fluctuations toward Biological Functions.

2010 年 11 月 31 日 (大津); L04.

Maho Yagi, Koichi Kato

Spectroscopic characterization of inter-molecular interaction of amyloid β promoted on GM1 clusters

The 4th International Symposium, Molecular Science of Fluctuations toward Biological Functions.

2010 年 11 月 31 日 (大津); P069.

Soichiro Kitazawa, Maho Yagi, Kenji Sugase, Koichi Kato, Ryo Kitahara

High-energy state mutant of ubiquitin

The 4th International Symposium, Molecular Science of Fluctuations toward Biological Functions.

2010 年 11 月 31 日 (大津); P071.

Takashi Hirano, Olivier Serve, Maho Yagi, Tsunehiro Mizushima, Koichi Kato

Dynamic equilibrium of Lys48-linked di-ubiquitin in solution assessed by NMR

The 4th International Symposium, Molecular Science of Fluctuations toward Biological Functions.

2010 年 12 月 1 日 (大津); P038.

Sayoko Yamamoto, Takumi Yamaguchi, Yukiko Kamiya, Erdelyi Mate, Griesinger Christian, Koichi Kato

Paramagnetic NMR approach to the analysis of conformations and dynamics of *N*-glycans

The 4th International Symposium, Molecular Science of Fluctuations toward Biological Functions.
2010年12月1日 (大津) ; P068.

水島恒裕, 加藤晃一, 森本幸生, 田中啓二【招待講演】

プロテアソームの構造生物学

第33回日本分子生物学会年会・第83回日本生化学会大会合同大会.
2010年12月7日 (神戸) ; 1W16-2.

藤森 力, 神谷由紀子, 加藤晃一, 永田和宏, 細川暢子

Functional analysis of a mammalian lectin XTP3-B in the endoplasmic reticulum quality control

第33回日本分子生物学会年会・第83回日本生化学会大会合同大会.
2010年12月10日 (神戸) ; 4P-0265.

Maho Yagi-Utsumi, Tomoshi Kameda, Yoshiki Yamaguchi, Katsuhiko Yanagisawa, Koichi Kato【シンポジウム】

NMR characterization of the interaction between amyloid β -peptide and ganglioside clusters

The 2010 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Pacifichem 2010).
2010年12月15日 (Honolulu) ; #200-54.

Yukiko Kamiya, Yasunori Chiba, Yoshifumi Jigami, Koichi Kato

Development of metabolic ¹³C-labeled techniques for NMR spectroscopic analyses of high-mannose-type oligosaccharides【シンポジウム】

The 2010 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Pacifichem 2010).
2010年12月15日 (Honolulu) ; #200-56.

Shinya Hanashima, Tetsuya. Suetake, Koichi Kato, Yoshiki Yamaguchi【シンポジウム】

NMR analysis of LewisX-LewisX interaction by observing proton exchanges at sugar hydroxyl groups

The 2010 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Pacifichem 2010).
2010年12月15日 (Honolulu) ; #200-57.

Takumi Yamaguchi, Sayoko Yamamoto, Mate Erdelyi, Christian Griesinger, Koichi Kato

NMR spectroscopic approaches to the conformational characterization of *N*-linked oligosaccharides by introducing paramagnetic tags

The 2010 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Pacifichem 2010).
2010年12月16日 (Honolulu) ; #200-306.

Yoshinori Uekusa, Miya Kamihira-Ishijima, Osamu Sugimoto, Takeshi Ishii, Shigenori Kumazawa, Kozo Nakamura, Ken-ichi Tanji, Koichi Kato, Akira Naito, Tsutomu Nakayama
Interaction of epicatechin gallate with model phospholipid membranes as revealed by solid-state NMR spectroscopy

The 2010 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Pacifichem 2010).
2010年12月17日 (Honolulu) ; #58-497.

Osamu Morohara, Daishi Fujita, Sota Sato, Yoshiki Yamaguchi, Koichi Kato, Makoto Fujita

Induced residual dipolar coupling by encapsulation

The 2010 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Pacifichem 2010).

2010年12月18日 (Honolulu) ; #164-1034.

Aki Matsuoka, Fusheng Bie, Yoshiki Yamaguchi, Yuehui Li, Koichi Kato, Noriyuki Utsumi, Kunihiro Tsutsumi, Takeshi Ohkuma, Kunihiro Murata, Hiroshi Naka, Christian A. Sandoval, Ryoji Noyori

Solution behavior of chiral η^6 -arene/N-tosylethylenediamine–ruthenium complexes: key to efficient asymmetric hydrogenation

The 2010 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Pacifichem 2010).

2010年12月18日 (Honolulu) ; #283-1504.

Koichi Kato, Tsunehiro Mizushima 【招待講演】

Structural views of the ubiquitin-proteasome system

The 2010 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Pacifichem 2010).

2010年12月18日 (Honolulu) ; #244-779.

【分子生物薬学分野】

(原報)

Atsuko Kawaji, Makoto Nishizuka, Shigehiro Osada, and Masayoshi Imagawa.

TCL/TC10 β L regulates adipogenesis by controlling mitotic clonal expansion.

Biol. Pharm. Bull., **33**, 404-409 (2010).

Atsuko Kawaji, Yuki Ohnaka, Shigehiro Osada, Makoto Nishizuka, and Masayoshi Imagawa.

Gelsolin, an actin regulatory protein, is required for differentiation of mouse 3T3-L1 cells into adipocytes.

Biol. Pharm. Bull., **33**, 773-779 (2010).

Masae Ohno, Jun Komakine, Eiko Suzuki, Makoto Nishizuka, Shigehiro Osada, and Masayoshi Imagawa.

Repression of the promoter activity mediated by liver receptor homolog-1 through interaction with Ku proteins.

Biol. Pharm. Bull., **33**, 784-791 (2010).

Keishi Kishimoto, Ayumi Kato, Shigehiro Osada, Makoto Nishizuka, and Masayoshi Imagawa.
Fad104, a positive regulator of adipogenesis, negatively regulates osteoblast differentiation.

Biochem. Biophys. Res. Commun., **397**, 187-191 (2010).

Shuji Sato, Makoto Nishizuka, Mami Asano, Tsuyoshi Ohtake, Masayoshi Imagawa, and Eiji Kobayashi.

RNA interference-mediated knockdown of the mouse gene encoding potassium channel subfamily K member 10 inhibits hormone-induced differentiation of 3T3-L1 preadipocytes.

Comp. Biochem. Phys., Part B: Biochem. Mol. Biol., **157**, 46-53 (2010).

Takayuki Yura, Hiroshi Hashizume, Eiko Suzuki, Masayoshi Imagawa, and Shigehiro Osada.
Promotion of anchorage-independent growth by cytoplasmic and nuclear histone deacetylase 9.

J. Health Sci., **56**, 581-588 (2010).

(総説・著書・総合論文など)

西塚 誠, 今川正良

PPAR γ の標的遺伝子とその発現誘導の分子メカニズム

日本臨床, **68**, 189-193 (2010).

今川正良

Chap. 28 遺伝子発現調節

レーニンジャーの生化学 [下] 第5版訳, 中山和久編, 廣川書店 pp1623-pp1686, (2010).

(特許申請)

登 録 日：平成 22 年 4 月 30 日
出 願 番 号：特許第 4504682 号
名 称：脂肪細胞分化関連遺伝子およびタンパク質
発 明 者：今川正良，奥 裕一

(学会発表)

今川正良【特別講演】

脂肪細胞分化の分子機構

北陸大学学術フロンティア年次研究集会・総括集会 2010 年 3 月 16 日 (金沢)

岸本圭史，西塚誠，長田茂宏，今川正良

肺形成における fad104 の機能解析

第 130 年会 日本薬学会 2010 年 3 月 28 日 (岡山) ; 28SF-am01.

加藤愛友美，岸本圭史，長田茂宏，西塚誠，今川正良

骨分化における FAD104 の役割

第 130 年会 日本薬学会 2010 年 3 月 28 日 (岡山) ; 28SF-am02.

浅野真美，西塚誠，佐藤周史，長田茂宏，今川正良

脂肪細胞分化過程における KCNK10 の機能解析

第 130 年会 日本薬学会 2010 年 3 月 28 日 (岡山) ; 28SE-pm01.

落合なつき，城村由和，岸本圭史，渡邊佳代子，長田茂宏，西塚誠，今川正良

新規遺伝子 fad24 過剰発現マウスの解析と fad24 ノックアウトマウスの樹立

第 130 年会 日本薬学会 2010 年 3 月 28 日 (岡山) ; 28SE-pm02.

種村妃紗，今川正良，長田茂宏

nucleophosmin と相互作用する因子の解析

第 130 年会 日本薬学会 2010 年 3 月 28 日 (岡山) ; 28SF-pm02.

有江瑞洋，今川正良，長田茂宏

HMGB タンパク質が細胞がん化に与える影響

第 130 年会 日本薬学会 2010 年 3 月 28 日 (岡山) ; 28SF-pm03.

大仲優希，河路淳子，長田茂宏，西塚誠，今川正良

脂肪細胞分化における gelsolin の役割

第 130 年会 日本薬学会 2010 年 3 月 29 日 (岡山) ; 29SH-pm16.

大橋健吾，西塚誠，長田茂宏，今川正良

脂肪細胞分化過程において Rho GTPase, TCL/TC10 β L が RhoA シグナルに与える影響の解析

第 130 年会 日本薬学会 2010 年 3 月 29 日 (岡山) ; 29SH-pm17.

長田茂宏【シンポジウム】

化学発がん過程において発現上昇するクロマチン関連因子の解析

第 130 年会 日本薬学会 2010 年 3 月 29 日 (岡山) ; S60-2.

淡路拓哉, 橋 敬祐, 角野洋一, 上田智尋, 苦瓜能宏, 石本憲司, 山崎大典, 田中十志也,
酒井寿郎, 浜窪隆雄, 今川正良, 児玉龍彦, 土井健史

核内受容体 PPAR 各サブタイプ認識配列の同定

第 130 年会 日本薬学会 2010 年 3 月 30 日 (岡山) ; 30P-am159.

加藤愛友美, 岸本圭史, 長田茂宏, 西塚誠, 今川正良

Fad104 が骨分化に与える影響の解析

第 74 回 日本生化学会中部支部例会 2010 年 5 月 29 日 (名古屋) ; 22.

早川智章, 高田美紗, 今川正良, 長田茂宏

部分欠失変異体を用いた酵母ミトコンドリアヒストン様タンパク質 Abf2p の機能解析

第 56 回 日本薬学会東海支部大会 2010 年 7 月 4 日 (岐阜) ; D-12.

Shigehiro Osada, Yuta Maeda, and Masayoshi Imagawa.

Identification of factors interacting with histone chaperon Asf1p.

International Symposium on Biodiversity Sciences 2010 (ISBDS2010) 2010 年 8 月 1 日 (Nagoya); 67.

今川正良【依頼講演】

ヒトはなぜ肥るのか～脂肪組織と肥満をめぐるサイエンス～

2010 年度 第 26 回ライフサイエンスセミナー 2010 年 10 月 1 日 (西宮)

加藤愛友美, 岸本圭史, 長田茂宏, 西塚誠, 今川正良

脂肪細胞分化を制御する新規遺伝子 fad104 の骨分化における役割

第 9 回次世代を担う若手ファーマ・バイオフォーラム 2010 2010 年 10 月 2 日 (名古屋) ; B03.

小松浩大, 五味田麗, 今川正良, 長田茂宏

肝化学発がん過程で発現上昇するヒストンバリエント H2A.Z とその制御遺伝子の解析

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2010
2010 年 11 月 28 日 (静岡) ; D-22.

岸本圭史, 西塚誠, 長田茂宏, 今川正良

The crucial role of fad104 in lung maturation.

第 33 回日本分子生物学会年会、第 83 回日本生化学会大会合同大会
2010 年 12 月 10 日 (神戸) ; 3P-0857.

落合なつき, 城村由和, 岸本圭史, 長田茂宏, 西塚誠, 今川正良

新規遺伝子 fad24 の生体内における機能解析

第 33 回日本分子生物学会年会、第 83 回日本生化学会大会合同大会
2010 年 12 月 10 日 (神戸) ; 4P-1061.

【薬物送達学分野】

(原報)

Tetsuya Ozeki, Katsuya Ohashi, and Hiroaki Okada

Uptake of PLGA nanoparticles prepared by a four-fluid nozzle spray drying technique by rat alveolar macrophages and effect of addition of fucose.

J. Jpn. Soc. Pharm. Mach. & Eng., **19**, 7-14 (2010)..

Tetsuya Ozeki, Kosuke Hashizawa, Daiki Kaneko, Yoshihito Imai and Hiroaki Okada

Treatment of rat brain tumor using sustained-release of camptothecin from poly(lactic-co-glycolic acid) microspheres in a thermoreversible hydrogel.

Chem. Pharm. Bull., **58**, 142-147 (2010)..

(総説・著書・総合論文など)

尾関哲也、別府秀志、溝江拓人、岡田弘晃

ナノ粒子含有マイクロ粒子の調製と経口および経肺投与製剤への応用

PHARM TECH JAPAN, 26(3) 155 – 162(2010).

尾関哲也、岡田弘晃

2液混合型スプレードラヤーを用いたナノ粒子含有マイクロ粒子の調製

ファインケミカル, 36(7) 36-41(2010).

尾関哲也

新規スプレーノズルによるナノ粒子の設計

薬剤学, 70(5), 258-261(2010).

荻原琢男、尾関哲也、森部久仁一 共著

「“パザパ” 薬学演習シリーズ⑤「物理薬剤学・製剤学演習」, 京都廣川書店 (2010) .

尾関哲也

ナノ粒子含有マイクロコンポジット粒子の設計

「難水溶性薬物の物性評価と製剤設計の新展開」, 川上 亘作 監修
シーエムシー出版 (2010) .

(学会発表)

Tetsuya Ozeki

Formulation study of water-insoluble drugs: Nanoparticules and next-generation of cyclodextrin derivatives.

International Program between Nagoya City University and University of Sydney.

2010年2月15-21日 (Sydney, Australia) .

秋山佑介, 岡田弘晃, 尾関哲也, 田中俊幸, 藤井正嗣

ナノ粒子コーティング用 3 液混合スプレーノズルの開発

日本薬学会第 130 年会. 2010 年 3 月 28-30 日 (岡山)

久保田彩, 秋山佑介, 西野友規子, 岡田弘晃, 尾関哲也, 田中俊幸, 藤井正嗣

腸溶性ポリマーを用いた固体分散体ナノ粒子含有マイクロスフェアの調製と物性評価

日本薬学会第 130 年会. 2010 年 3 月 28-30 日 (岡山)

内海達, 濱進, 森本二郎, 辰巳泰我, 尾関哲也, 福澤健治, 小暮健太郎

膜物性制御した α -トコフェロール誘導体ナノ粒子の抗腫瘍効果

日本薬剤学会第 25 年会. 2010 年 5 月 12-14 日 (徳島)

尾形哲夫, 小出淳夫, 尾関哲也

不快な味を抑制したプロピペリン含有粉粒状製剤の製剤化検討

日本薬剤学会第 25 年会. 2010 年 5 月 12-14 日 (徳島)

ナノ粒子含有マイクロスフェアを用いた薬物デリバリー戦略

未来へのバイオ技術 非侵襲性薬物投与が開く未来創薬. 2010 年 5 月 10 日 (東京) .

尾関哲也, 樺澤尚宏, 岡田弘晃

肺胞マクロファージを標的とした結核治療のための経肺投与ナノ DDS

粉体工学会第 46 回夏期シンポジウム. 2010 年 8 月 9 日 (京都)

尾関哲也【特別講師】

創薬と DDS 製剤 —より有効な剤形を考える—

文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進事業委託」地域—大学連携による地域医療ニーズに対応した薬剤師リカレント学習支援プログラム 三公立連携薬剤師生涯学習支援講座. 2010 年 8 月 28 日 (名古屋) .

尾関哲也【招待講演】

特殊なスプレーノズルによるナノ粒子の設計とデリバリー戦略

粉体工学会 製剤と粒子設計部会 2010 年度第 3 回見学会・講演会. 2010 年 9 月 2 日 (三重) .

尾関哲也【招待講演】

脳腫瘍治療を目的とした p53p-Ant 含有マイクロスフェア製剤の設計

日本ペプチド学会第 13 回ペプチドフォーラム. 2010 年 9 月 16 日 (京都) .

Tetsuya Ozeki【Invited Lecture】

Preparation of nanoparticles for oral/pulmonary drug delivery using spray drier.

The 9th France-Japan DDS symposium –Recent Challenges in Drug Delivery Research-
2010 年 9 月 26-29 日 (Kumamoto, Japan) .

西野友規子, 金沢貴憲, 高島由季, 尾関哲也, 田中俊幸, 藤井正嗣, 岡田弘晃

ナノ固溶体薬物含有マイクロスフェアによる消化管吸収促進

第 54 回日本薬学会関東支部大会. 2010 年 10 月 2 日 (東京) .

Tetsuya Ozeki

Engineered nanoparticles for oral/pulmonary drug delivery.

The Graduate Program of the College of Pharmacy at Seoul National University.
2010年10月11日 (Seoul, Korea) .

尾形哲夫, 小出淳夫, 尾関哲也

プロピペリン塩酸塩の苦味マスキング製剤開発 (細粒剤)

粉体工学会・製剤と粒子設計部会 第27回製剤と粒子設計シンポジウム. 2010年10月29日
(石川) .

Tetsuya Ozeki, Katsuya Ohashi, Takahiro Kabasawa and Hiroaki Okada

Rifampicin/PLGA nanoparticle-containing mannitol microspheres prepared using a four-fluid nozzle
spray drier for inhalation therapy of tuberculosis.

2010 AAPS Annual Meeting and Exposition.
2010年11月16日 (New Orleans, USA) .

【生薬学分野】

(原報)

Katsuhiro Hayashi, Kyoko Shimura, Toshiaki Makino, Hajime Mizukami

Comparison of the contents in kampo decoction containing ephedra herb when prepared simply or by re-boiling method according to the traditional theory.

J. Nat. Med. **64**: 70-74 (2010)

Keiko Hasada, Takamitsu Yoshida, Takeshi Yamazaki, Naoki Sugimoto, Tetsuji Nishimura, Akito Nagatsu, Hajime Mizukami

Quantitative determination of atractylon in *Atractylodis Rhizoma* and *Atractylodis Lanceae Rhizoma* by ¹H-NMR spectroscopy

J. Nat. Med. **64**: 161-166 (2010)

Hiroka Suzuki, Hiroki Tanabe, Hajime Mizukami, Makoto Inoue

Selective regulation of multidrug resistance protein in vascular smooth muscle cells by the isoquinoline alkaloid coptisine

Biol. Pharm. Bull. **33**: 677-682 (2010)

Hiroshi Yokoi, Hajime Mizukami, Akito Nagatsu, Hiroki Tanabe, Makoto Inoue

Hydroxy monounsaturated fatty acids as agonists for peroxisome proliferator-activated receptors

Biol. Pharm. Bull. **33**: 854-861 (2010)

Hitoshi Kotani, Hiroki Tanabe, Hajime Mizukami, Makoto Makishima, Makoto Inoue

Identification of a naturally occurring retinoid, honokiol, that activates the retinoid X receptor.

J. Nat. Prod. **73**:1332-1336 (2010)

丸山卓郎、近藤健児、四柳雄一、山本 豊、川崎武志、司馬真央、寺坂和祥、山根真由、Shu Zhu、坂田こずえ、藤田正雄、穂山 浩、西村直行、小松かつ子、水上 元、合田幸広

PCR-RFLP 法によるビャクジュツのソウジュツに対する純度試験の妥当性確認試験

生薬学雑誌 **64**: 96-101 (2010)

Juthatip Manissorn, Suchada Sukrong, Nijsiri Ruangrunsi, Hajime Mizukami

Molecular phylogenetic analysis of *Phyllanthus* species in Thailand and the application of polymerase chain reaction-restriction fragment length polymorphism for *Phyllanthus amarus* identification

Biol. Pharm. Bull. **33**: 1723-1727 (2010)

牧野利明

「臨床生薬学」の歴史～創始者、山口広次の果たした功績

薬史学雑誌 **45**: 126-129 (2010)

(総説・著書・総合論文など)

Toshiaki Makino, Toshihiro Togo, Hiromichi Yasui

牧野利明

附子の薬能と薬理～加工ブシの低体温改善作用

「漢方薬・生薬薬剤師講座テキスト第3版IV」(財) 日本薬剤師研修センター pp106—117
(2010)

水上 元

生薬のDNA鑑別

「漢方薬・生薬薬剤師講座テキスト第3版IV」(財) 日本薬剤師研修センター pp152—162
(2010)

牧野利明

生薬・漢方薬の基礎と臨床生薬学

明日の臨床 **22**: 11—18 (2010)

(学会発表)

牧野利明

カゼに対する漢方薬1～解表剤

漢方勉強会「基礎からの漢方60分」第2回、2010年1月14日(名古屋)

牧野利明

和漢薬を上手に使う

名古屋市生涯学習推進センター大学連携講座、2010年2月3日(名古屋)

牧野利明

知って得する東洋医学・漢方の知識～疲労回復・健康増進に活かすポイントを学ぼう～

名古屋市社会福祉協議会共用セミナー、2010年2月19日(名古屋)

牧野利明

漢方薬の使い方

名市大医療・保健学びなおし講座、2010年2月22日(名古屋)

Toshiaki Makino

Processed aconite root prevents hypothermia in cold-stressed mice

The 15th International Congress of Oriental Medicine、2010年2月27日(幕張); PM-4

Toshiaki Makino, Ryosuke Shimizu, Misaki Kanemaru, Yukio Suzuki, Masamitsu Moriwaki, Hajime Mizukami

Glycosides in herbal medicines are absorbed from the intestine not always after the digestion by enterobacteria

The 15th International Congress of Oriental Medicine、2010年2月28日(幕張); 2P-054

牧野利明

カゼに対する漢方薬2・ストレス性疾患～和解剤

漢方勉強会「基礎からの漢方60分」第3回、2010年3月11日（名古屋）

永利麻衣、寺坂和祥、永津明人、水上 元

クチナン培養細胞由来イリド配糖化酵素の機能解析

日本薬学会第130年会、2010年3月28日（岡山）；28TM-pm09

大脇美紀、永利麻衣、政田さやか、寺坂和祥、永津明人、水上元

クチナン培養細胞における crocetin 配糖化酵素のクローニングと機能解析

日本薬学会第130年会、2010年3月29日（岡山）；29P-am157

上林里絵、井上勝央、牧野利明、水上 元、大嶽信弘

グリチルリチンおよびその代謝物の腎における 11 β -HSD II 阻害活性の比較

日本薬学会第130年会、2010年3月29日（岡山）；29SE-am05

鈴木裕可、田邊宏樹、大野高、水上 元、井上 誠

Coptisine の平滑筋細胞選択的増殖抑制活性の機序解析（5）

日本薬学会第130年会、2010年3月30日（岡山）；30P-am249

牧野利明

生薬学と医療薬学の融合～「臨床生薬学」の紹介

シンポジウム「生薬学の伝統と革新～教育・研究・臨床の立場から」

日本薬学会第130年会、2010年3月30日（岡山）；S45-1

牧野利明

生薬・漢方薬の医療薬学的諸問題

愛知県保険医協会内科臨床研究会、2010年5月8日（名古屋）

牧野利明

からだの奥の「熱」「冷え」を取る～清熱剤・温裏剤

漢方勉強会「基礎からの漢方60分」第4回、2010年5月13日（名古屋）

牧野利明

加工ブシに含まれる温裏祛寒作用活性成分の探索

第22回東洋医学に関する学術研究報告会、2010年5月22日（名古屋）

牧野利明

生薬学研究への薬物動態学からのアプローチ

一般医薬品と植物製剤研究会、2010年5月28日（東京）

牧野利明

加工ブシ末の温裏祛寒作用

シンポジウム「漢方薬物の伝承薬能を探る」、第61回日本東洋医学会学術総会、

2010年6月5日（名古屋）；S-2-4

牧野利明

臨床生薬学から見た漢方医学

第 61 回日本東洋医学会ランチョンセミナー、2010 年 6 月 5 日（名古屋）

牧野利明

附子の薬能と薬理

日本薬剤師研修センター平成 22 年度漢方薬・生薬研修会、2010 年 6 月 27 日（東京）

浅田圭祐、永利麻衣、寺坂和祥、水上 元

ニチニチソウのイリドイド配糖化酵素の単離と機能解析

第 56 回日本薬学会東海支部大会、2010 年 7 月 3 日（岐阜）；B-1

堀場亜佐子、牧野利明

名古屋市立大学薬学部における PBL の「薬進」

第 56 回日本薬学会東海支部大会、2010 年 7 月 3 日（岐阜）；E-3

牧野利明

おなかの「冷え」を取る～温裏剤と「気」の詰まりを取る～理気剤

漢方勉強会「基礎からの漢方 60 分」第 5 回、2010 年 7 月 8 日（名古屋）

牧野利明

臨床生薬学入門

東京漢方教育センター研修会、2010 年 7 月 11 日（東京）

牧野利明

臨床生薬学から見た漢方医学

清心会薬剤師研修会、2010 年 7 月 25 日（仙台）

牧野利明

医学生のための生薬学

第 2 回医学生のための漢方医学セミナー、2010 年 8 月 6 日（大津）

金丸美咲、牧野利明、田中久志、清水亮輔、奥山秀二、水上 元

配糖化によるケルセチンの消化管吸収改善と抗アレルギー作用の増強

第 27 回和漢医薬学会学術大会、2010 年 8 月 28 日（京都）；P-85

永利麻衣、浅田圭祐、寺坂和祥、水上 元

植物イリドイド配糖化酵素における基質特異性制御部位の探索

第 28 回日本植物細胞分子生物学会大会、2010 年 9 月 2 日（仙台）；1Ca-09

大脇美紀、永利麻衣、寺坂和祥、永津明人、水上 元

クチナン培養細胞由来 crocetin 配糖化酵素の単離と機能解析

第 28 回日本植物細胞分子生物学会大会、2010 年 9 月 2 日（仙台）；2Ba-05

服部広、寺坂和祥、水上 元

ムラサキ培養細胞におけるロズマリン酸の液胞蓄積機構の解明

第 28 回日本植物細胞分子生物学会大会、2010 年 9 月 2 日（仙台）；2Ba-06

水谷優希、二宮嘉規、永津明人、寺坂和祥、水上 元

In situ UDP-glucose 再生系の存在下での二次代謝酵素転移酵素の機能解析
第 28 回日本植物細胞分子生物学会大会、2010 年 9 月 2 日（仙台）；2Da-06

牧野利明

「血」「津液」の詰まりを取る～活血化瘀剤・祛湿剤
漢方勉強会「基礎からの漢方 60 分」第 6 回、2010 年 9 月 9 日（名古屋）

Toshiaki Makino

Mechanisms of licorice-induced pseudoaldosteronism - Effects of glycyrrhizin and its metabolites on type 2 11 β -hydroxysteroid dehydrogenase in rat kidney
The 2nd China, Japan and Korea International Conference for TCM & The 7th Sino-Russia Biomedical Forum、2010 年 9 月 16 日（哈爾濱、中国）

牧野利明

「気」に関わる生薬についての最近の話題
初学者のための漢方薬学セミナー、2010 年 9 月 12 日（東京）

Toshiaki Makino

"Clinical Pharmacognosy" - Integration between Pharmacognosy and Clinical Pharmacy
The 5th A JSP/CCTNM/KSP Joint Symposium on Pharmacognosy in Tokushima, 2010
2010 年 9 月 24 日（徳島）；SM-IL5

島戸陽太、牧野利明、水上 元

白朮と蒼朮の薬能の違いに関する研究～RAW264 細胞を用いた抗炎症作用の比較～
日本生薬学会第 57 回年会 2010 年 9 月 25 日（徳島）；1C-08

染原 渉、水野文香、牧野利明、水上 元

呉茱萸含有成分エボジアミンの消化管におけるグルタミン吸収亢進作用
日本生薬学会第 57 回年会 2010 年 9 月 25 日（徳島）；1P-07

牧野利明

臨床生薬学から見た漢方医学
日本東洋医学会北海道部会、2010 年 10 月 17 日（札幌）

牧野利明

臨床生薬学から見た漢方医学
薬剤師のための漢方医学セミナー、2010 年 10 月 24 日（名古屋）

牧野利明

香蘇散と半夏厚朴湯
第 12 回日本漢方交流会漢方薬剤師育成研修会、2010 年 10 月 31 日（伊奈町、埼玉）

島戸陽太、牧野利明、水上 元

白朮と蒼朮の薬能の違いに関する研究—RAW264 細胞を用いた抗炎症作用の比較—
第 40 回日本東洋医学会東海支部学術総会、2010 年 11 月 7 日（名古屋）；1

小杉加奈、白木優作、牧野利明、水上 元

白虎加桂枝湯の Maus 抗アレルギー作用における石膏増量の影響

第 40 回日本東洋医学会東海支部学術総会、2010 年 11 月 7 日（名古屋）；2

牧野利明

「気」「血」の不足を補う～補気剤・補血剤

漢方勉強会「基礎からの漢方 60 分」第 7 回、2010 年 11 月 11 日（名古屋）

牧野利明

薬能に基づいた生薬・漢方薬の薬理試験

天然薬物の開発と応用シンポジウム、2010 年 11 月 11 日（東京）

牧野利明

臨床生薬学入門

東海漢方協議会、2010 年 11 月 14 日（名古屋）

牧野利明

生薬・漢方薬と西洋薬間の薬物相互作用

第 31 回日本臨床薬理学会年会ワークショップ、2010 年 12 月 2 日（京都）

牧野利明

「水」に関わる生薬について／臨床生薬学入門

日本東洋医学会和歌山県部会、2010 年 12 月 5 日（和歌山）

牧野利明

和漢薬を上手に使う～漢方薬・伝承薬・民間薬について～

名古屋市瑞穂生涯学習センターシリーズ講演会、2010 年 12 月 7 日（名古屋）

牧野利明

基礎からの漢方 30 分～18 回シリーズ、第 1 回～第 3 回

NPO 法人医療教育研究所 e-ラーニング講義、2010 年 12 月 26 日（東京）

【生体防御機能学分野】

(原報)

Tsukasa Ito, Takemasa Takii, Mitsuo Maruyama, Daisuke Hayashi, Takeshi Wakao, Azusa Asai, Yasuhiro Horita, Keiichi Taniguchi, Ikuya Yano, Saburo Yamamoto and Kikuo Onozaki
Effectiveness of BCG vaccination to aged mice

Immun. Ageing **7**, 12 (2010).

Daisuke Hayashi, Takemasa Takii, Tetsu Mukai, Masahiko Makino, Emi Yasuda, Yasuhiro Horita, Ryuji Yamamoto, Akiko Fujiwara, Keita Kanai, Maki Kondo, Aya Kawarazaki, Ikuya Yano, Saburo Yamamoto, Kikuo Onozaki

Comparable Study on Biochemical Characteristics among *Mycobacterium bovis* BCG Sub-strains

FEMS Microbiol. Lett. **306**, 103-109 (2010).

Hiroko Tokunaga, Shoko Saito, Kazuki Sakai, Rui Yamaguchi, Iwao Katsuyama, Tomohiro Arakawa, Kikuo Onozaki, Tsutomu Arakawa, Masao Tokunaga

Halophilic beta-lactamase as a new solubility- and folding-enhancing tag protein: production of native human interleukin 1alpha and human neutrophil alpha-defensin

Appl. Microbiol. Biotechnol. **86**, 649-658 (2010).

Tomohiro Arakawa, Hidetoshi Hayashi, Saotomo Itoh, Takemasa Takii, Kikuo Onozaki

IL-1-induced ERK1/2 activation up-regulates p21Waf1/Cip1 protein by inhibition of degradation via ubiquitin independent pathway in human melanoma cells A375

Biochem. Biophys. Res. Commun. **392**, 369-372 (2010).

Nobumichi Ohoka, Satoshi Sakai, Kikuo Onozaki, Makoto Nakanishi, Hidetoshi Hayashi

Anaphase-promoting complex/cyclosome-cdh1 mediates the ubiquitination and degradation of TRB3

Biochem. Biophys. Res. Commun. **392**, 289-294 (2010).

Saotomo Itoh, Eri Hamada, Go Kamoshida, Ryosuke Yokoyama, Takemasa Takii, Kikuo Onozaki, Tsutomu Tsuji

Staphylococcal superantigen-like protein 10 (SSL10) binds to human immunoglobulin G (IgG) and inhibits complement activation via the classical pathway

Mol. Immunol. **47**, 932-938 (2010).

Satoshi Sakai, Nobumichi Ohoka, Kikuo Onozaki, Masatoshi Kitagawa, Makoto Nakanishi, Hidetoshi Hayashi

Dual Mode of Regulation of Cell Division Cycle 25 A Protein by TRB3

Biol. Phar. Bull. **33**, 1112-1126 (2010).

Satomi Chujo, Syosuke Okamoto, Ryouhei Sunahara, Miki Adachi, Kyohei Yamada, Hidetoshi Hayashi, Takemasa Takii, Kazuichi Hayakawa, Kikuo Onozaki

Cigarette smoke condensate extracts augment collagen-induced arthritis in mice.

Int. Immunopharmacol. **10**, 1194-1199 (2010)

(総説・著書・総合論文など)

林秀敏, 小野寄菊夫

Interleukin-1(IL-1) alpha, beta, IL-1 receptor (IL-1R), IL-1 receptor antagonist (IL-1ra).

日本臨床 68 Suppl 7, 62-66 (2010)

小野寄菊夫, 小嶋仲夫, 永瀬久光

編集 新しい衛生薬学, 第7版 廣川書店 2010年

(特許申請)

出願日:平成21年1月31日

出願番号:特願2009-21026

名称:抗結核薬及びその用途

発明者:瀧井猛将, 堀田康弘, 稲垣衣美, 小野寄菊夫

特許出願人:名古屋市立大学

(学会発表)

山本龍二, 瀧井猛将, 堀田康弘, 小川賢二, 小野寄菊夫

トリ型結核菌亜種のアンモニア産生における Arginine deiminase の関与

第9回次世代を担う若手ファーマ・バイオフォーラム2010

2010年10月2日, 3日 (京都); A07.

足達実季, 岡本翔佑, 中條里美, 山田恭平, 秋田邦彦, 伊藤佐生智, 瀧井猛将, 早川和一, 小野寄菊夫

タバコと関節リウマチに関する研究

フォーラム2010 衛生薬学・環境トキシコロジー 2010年9月9,10日(東京) P107.

伊藤佐生智, 濱田恵里, 鴨志田剛, 横山領介, 瀧井猛将, 小野寄菊夫, 辻 勉

黄色ブドウ球菌スーパー抗原様分泌タンパク質 SSL ファミリーによる補体活性化抑制作用

フォーラム2010 衛生薬学・環境トキシコロジー 2010年9月9,10日(東京) P78.

荒川友博, 林秀敏, 伊藤佐生智, 瀧井猛将, 小野寄菊夫

インターロイキン1によるヒトメラノーマ細胞増殖抑制機構の解析

フォーラム2010 衛生薬学・環境トキシコロジー 2010年9月9,10日(東京) 04-5.

谷口恵一, 瀧井猛将, 林大介, 矢野郁也, 山本三郎, 丸山光生, 小野寄菊夫

BCG 亜株の抗原提示能の差異および BCG ワクチンの有効性に関する研究

第22回微生物シンポジウム2010年9月3,4日(大阪); A-7.

伊藤佐生智, 濱田恵里, 鴨志田剛, 横山領介, 瀧井猛将, 小野寄菊夫, 辻 勉

黄色ブドウ球菌スーパー抗原様タンパク質 SSL10 はヒト IgG の Fc 部に結合し古典経路による補体活性化を抑制する

第22回微生物シンポジウム2010年9月3,4日(大阪); A-4.

D. Hayashi, T. Takii, N. Fujiwara, Y. Fujita, I. Yano, S. Yamamoto, M. Kondo, E. Yasuda, E. Inagaki, K. Kanai, A. Fujiwara, Y. Horita, K. Taniguchi, T. Chiba, K. Onozaki
Comparable studies of immunostimulating activities in vitro among Mycobacterium bovis bacillus Calmette-Guerin (BCG) substrains

14th International Congress of Immunology 2010, Kobe, Japan - August 22 - 27, 2010, PP-068-43.

K. Onozaki, S. Okamoto, S. Itoh, T. Takii

Rheumatoid arthritis patient-derived synoviocytes are more sensitive to cigarette smoke condensate extracts-induced IL-1 beta mRNA expression through NF- κ B activation than OA patient-derived synoviocytes, human lung fibroblasts and human lung epithelial cells

14th International Congress of Immunology 2010, Kobe, Japan - August 22 - 27, 2010, PP-036-13.

S. Itoh, E. Hamada, G. Kamoshida, T. Takii, K. Onozaki, T. Tsuji

Staphylococcal superantigen-like protein 10 binds to human immunoglobulin G and inhibits the classical complement activation pathway

14th International Congress of Immunology 2010, Kobe, Japan - August 22 - 27, 2010, PP-060-35.

横山領介, 伊藤佐生智, 鴨志田剛, 瀧井猛将, 辻 勉, 小野寄菊夫

Staphylococcal superantigen-like protein 6 (SSL6) はブタフィコリン β に結合する

第 56 回 日本薬学会東海支部総会・大会 2010 年 7 月 3 日 (岐阜).

瀧井猛将

抗酒薬ジスルフィラムの抗結核薬への応用

第 9 回バイオテクノロジー国際会議 2010 年 6 月 30 日 (東京)

K. Onozaki, S. Okamoto, M. Yokoyama, T. Arakawa, M. Adachi, K. Yamada, K. Akita, S. Itoh, T. Takii, Y. Waguri-Nagaya, T. Otsuka and K. Hayakawa

Rheumatoid arthritis patient-derived synoviocytes are more sensitive to cigarette smoke condensate extracts-induced IL-1 beta expression through NF- κ B activation than OA patient-derived synoviocytes, human lung fibroblasts and human lung epithelial cells

18th International Symposium on Molecular Cell Biology of Macrophages 2010
2010 年 5 月 20 日 (熊本)

堀田康弘, 小川賢二, 瀧井猛将

抗酒癩薬ジスルフィラムの結核菌特異的な作用に関する研究

第 85 回日本結核病学会総会 2010 年 5 月 21 日 (京都) 54

山本龍二, 小川賢二, 堀田康弘, 瀧井猛将

トリ型結核菌亜種のアンモニア産生における arginine deiminase の関与

第 85 回日本結核病学会総会 2010 年 5 月 21 日 (京都) 103.

谷口恵一, 市川和哉, 小川賢二, 堀田康弘, 瀧井猛将

推定病原性因子のサイトカイン誘導能についての研究

第 85 回日本結核病学会総会. 2010 年 5 月 21 日 (京都) 113.

荒川友博, 林 秀敏, 伊藤佐生智, 瀧井猛将, 小野寄菊夫

インターロイキン-1 によるヒトメラノーマ細胞増殖抑制機構の解析

The mechanism of Interleukin-1-induced growth inhibition in human melanoma cells A375
日本薬学会第 130 年会 2010 年 3 月 28 日 (岡山) 28SE-pm17.

堀田康弘, 瀧井猛将, 小川賢二, 稲垣衣美, 小野寄菊夫
抗酒薬ジスルフィラムの抗結核作用についての検討
Antimycobacterial activity of Disulfiram against *Mycobacterium tuberculosis*
日本薬学会第 130 年会 2010 年 3 月 28 日 (岡山) 28SG-am14Q.

黒石隆司, 瀧井猛将, 堀田康弘, 千葉拓, 森雅美, 前田康博, 黒野幸久, 小川賢二, 小野寄菊夫
OCT313 の誘導体の作製と抗結核作用の解析
Synthesis of derivatives of OCT313 and evaluation of their antimycobacterial activity
日本薬学会第 130 年会 2010 年 3 月 28 日 (岡山) 28SG-am15.

山本龍二, 瀧井猛将, 堀田康弘, 小川賢二, 小野寄菊夫
トリ型結核菌亜種のアンモニア産生における Arginine deiminase の関与
Ammonia production of *Mycobacterium avium* subspecies. Role of arginine deiminase
日本薬学会第 130 年会 2010 年 3 月 28 日 (岡山) 28SG-pm07.

伊藤佐生智, 濱田恵里, 鴨志田剛, 横山領介, 瀧井猛将, 小野寄菊夫, 辻勉
黄色ブドウ球菌のスーパー抗原様タンパク質 SSL10 はヒト IgG に結合し古典経路による補体活性化を抑制する
Staphylococcal superantigen-like protein 10 (SSL10) binds to human IgG and inhibits the classical complement activation pathway
日本薬学会第 130 年会 2010 年 3 月 30 日 (岡山) 30P-am511.

谷口恵一, 瀧井猛将, 安田恵実, 林 大介, 向井 徹, 山本三郎, 小野寄菊夫
Mycobacterium bovis BCG の宿主細胞内生存能と抗原性の発現に関する研究
Relation between the antigenicity of *Mycobacterium bovis* BCG and its viability in host cell
日本薬学会第 130 年会 2010 年 3 月 30 日 (岡山) 30P-pm022.

許 鍵, 伊藤友香, 瀧井猛将, 林 秀敏, 小野寄菊夫
男性ホルモンによる関節リウマチ滑膜細胞からの炎症性サイトカインの産生抑制
Androgen inhibits proinflammatory cytokine production from rheumatoid patient-derived synovial cells
日本薬学会第 130 年会 2010 年 3 月 30 日 (岡山) 30P-pm035.

岡本翔佑, 中條里美, 瀧井猛将, 林 秀敏, 早川和一, 小野寄菊夫
タバコと関節リウマチに関する研究
Cigarette smoking and rheumatoid arthritis
日本薬学会第 130 年会 2010 年 3 月 30 日 (岡山) 30P-pm365.

【遺伝情報学分野】

(原報)

Ruan, L., Osawa, M., Hosoda, N., Imai, S., Machiyama, A., Katada, T., Hoshino, S. and Shimada I.

Quantitative characterization of TOB interactions provides the thermodynamic basis for translation termination-coupled deadenylase regulation.

J. Biol. Chem., **285**, 27624-27631 (2010).

(総説・著書・総合論文など)

尾上耕一、星野真一

mRNA 分解研究と創薬

日本薬理学雑誌 (Folia Pharmacol. Jpn.), **136**, 150-154 (2010)

(学会発表)

星野真一【招待講演】

癌抑制遺伝子産物 Tob による mRNA 分解開始調節の分子メカニズム

“GCOE 特別セミナー” 東京大学医科学研究所, 2010 年 11 月 16 日 (東京)

Hosoda N, Funakoshi Y, Yamagishi R, Ogami K, Hoshino S

Anti-proliferative protein Tob negatively regulates CPEB3 target by recruiting Caf1 deadenylase.

Cold Spring Harbor Meeting “Translational control”, 2010 年 9 月 14 日 (New York, USA)

星野真一

RNA のプロセッシングと品質管理 (オーバービュー)

第 12 回日本 RNA 学会年会、2010 年 7 月 28 日 (東京)

尾上耕一、細田直、船越祐司、星野真一

癌抑制遺伝子産物 Tob は Ras-MAPK シグナルの下流で c-myc mRNA の安定性を直接制御する

第 12 回日本 RNA 学会年会、2010 年 7 月 28 日 (東京)

橋本芳史、細田直、星野真一

アポトーシス時における翻訳終結因子 eRF3 を標的とした翻訳制御

第 12 回日本 RNA 学会年会、2010 年 7 月 28 日 (東京)

成瀬 貴文、的場 洋子、細田 直、星野 真一

脊髄小脳変性症の原因遺伝子 Ataxin-2 がストレス顆粒形成に果たす役割

第 12 回日本 RNA 学会年会、2010 年 7 月 27 日 (東京)

岡本淳志、細田直、星野真一

酵母プリオン [Psi⁺] の表現型解析から見出した翻訳終結因子 eRF3 の新規機能

日本薬学会東海支部大会、2010 年 7 月 3 日 (岐阜)

堀川桂、細田直、星野真一

No go decay (NGD) による mRNA 品質管理機構の解析

日本薬学会東海支部大会、2010年7月3日(岐阜)

星野真一【オーガナイザー兼シンポジスト】

癌抑制遺伝子産物 Tob による遺伝子発現制御

第130回薬学会、
シンポジウム『RNA研究の最前線：RNA動態制御の分子基盤から創薬応用まで』、
2010年3月29日(岡山)

星野真一

mRNA3'末端ポリA鎖を標的とした遺伝子発現制御・RNA品質管理機構の解明

平成21年度 新学術領域研究『RNA制御学』班会議、2010年1月8-9日(神戸)

【細胞分子薬効解析学分野】

(原報)

Susumu Ohya, Tomohiro Fujimori, Takuya Kimura, Hisao Yamamura, Yuji Imaizumi
Novel spliced variants of large-conductance Ca^{2+} -activated K^{+} -channel β_2 -subunit in human and rodent pancreas
J. Pharmacol. Sci., **114**, 198-205 (2010).

Kenji Funabashi, Masato Fujii, Hisao Yamamura, Susumu Ohya, Yuji Imaizumi
Contribution of chloride channel conductance to the regulation of resting membrane potential in chondrocyte
J. Pharmacol. Sci., **113**, 94-9 (2010).

Hidemichi Murata, Singo Hotta, Eiji Sawada, Hisao Yamamura, Susumu Ohya, Satomi Kita, Takahiro Iwamoto, Yuji Imaizumi
Cellular Ca^{2+} dynamics in urinary bladder smooth muscle from transgenic mice overexpressing Na^{+} - Ca^{2+} exchanger
J. Pharmacol. Sci., **112**, 373-7 (2010).

Kenji Funabashi, Susumu Ohya, Hisao Yamamura, Noriyuki Hatano, Katsuhiko Muraki, Wayne Giles, Yuji Imaizumi
Accelerated Ca^{2+} entry by membrane hyperpolarization due to Ca^{2+} -activated K^{+} channel activation in response to histamine in chondrocytes
Am. J. Physiol. Cell Physiol., **298**, C786-97 (2010).

(特許申請)

出願日：平成22年6月29日
出願番号：特願2010-147255
名称：イオンチャネルに作用する化合物のスクリーニング用材料及びその利用
発明者：今泉祐治，藤井将人，大矢 進，山村寿男
特許出願人：公立大学法人名古屋市立大学，有限会社チャネロサーチテクノロジー

(学会発表)

鈴木良明，山村寿男，大矢 進，今泉祐治
血管平滑筋におけるBK-VDCC複合体の可視化解析
第83回日本薬理学会年会．2010年3月16日（大阪）；ACS1B-2-4.

山村寿男，大矢 進，今泉祐治
血管平滑筋 Ca^{2+} スパークドメインを構成する分子集積群の可視化解析
第83回日本薬理学会年会．2010年3月16日（大阪）；O1B-2-4.

丹羽里実，大矢 進，小島祥敬，佐々木昌一，櫻木 求，郡 健二郎，今泉祐治

前立腺肥大症新規治療標的としての中コンダクタンスカルシウム活性化カリウムチャンネル
第 83 回日本薬理学会年会, 2010 年 3 月 16 日 (大阪); O1F-2-4.

大矢 進, 仲村恵梨奈, 山村寿男, 今泉祐治

接触過敏症モデルマウスの耳介リンパ節における中コンダクタンスカルシウム活性化カリウムチャンネルに関する分子薬理学的研究

第 83 回日本薬理学会年会, 2010 年 3 月 17 日 (大阪); O2F-2-1.

村松 真, 山村寿男, 水谷浩也, 大矢 進, 今泉祐治

松果体におけるグルタミン酸誘発性の細胞内 Ca^{2+} シグナル

第 83 回日本薬理学会年会, 2010 年 3 月 17 日 (大阪); O2D-2-3.

船橋賢司, 山村寿男, 大矢 進, 今泉祐治

ヒト由来軟骨肉腫細胞 (OUMS-27) における Ca^{2+} 活性化 K^+ チャンネルによる細胞内 Ca^{2+} の正帰還機構

第 83 回日本薬理学会年会, 2010 年 3 月 18 日 (大阪); P3J-8-7.

藤井将人, 大野晃稔, 大矢 進, 山村寿男, 今泉祐治

ラット扁桃体におけるイオンチャンネル発現プロファイルの性差

第 83 回日本薬理学会年会, 2010 年 3 月 18 日 (大阪); P3J-8-7.

大矢 進, 丹羽里実, 小島祥敬, 佐々木昌一, 櫻木 求, 郡 健二郎, 今泉祐治

前立腺肥大症における創薬標的としての中コンダクタンスカルシウム活性化カリウムチャンネル

日本薬学会第 130 年会, 2010 年 3 月 28 日 (岡山); 28SJ-am12.

鬼頭宏彰, 山崎大樹, 山本清司, 山村寿男, 大矢 進, 浅井清文, 今泉祐治

小コンダクタンス Ca^{2+} 活性化 K^+ チャンネルと内向き整流性 K^+ チャンネル共発現細胞における Ca^{2+} 動態と細胞死誘発

日本薬学会第 130 年会, 2010 年 3 月 28 日 (岡山); 28SJ-am13.

山村寿男, 大矢 進, 今泉祐治

血管平滑筋細胞の Ca^{2+} マイクロドメインを構成する分子集積群の可視化解析

日本薬学会第 130 年会, 2010 年 3 月 28 日 (岡山); 28SJ-am14.

竹本将士, 山村寿男, 大矢 進, 竹島 浩, 今泉祐治

妊娠時における平滑筋組織の RyR 発現変動

日本薬学会第 130 年会, 2010 年 3 月 28 日 (岡山); 28SI-pm07.

大矢 進【シンポジウム講演】

免疫系における Ca^{2+} 活性化 K^+ チャンネルの役割と創薬への応用

日本薬学会第 130 年会, 2010 年 3 月 29 日 (岡山); S57-2.

今泉祐治【シンポジウム講演】

創薬標的としてのイオンチャンネル研究の現状と展望

日本薬学会第 130 年会, 2010 年 3 月 29 日 (岡山); S58-3.

大矢 進, 丹羽里実, 小島祥敬, 佐々木昌一, 桜木 求, 郡 健二郎, 今泉祐治
前立腺肥大症の創薬標的としてのカルシウム活性化カリウムチャネル—前立腺間質肥大症モデルを用いた検討—

第 52 回日本平滑筋学会総会. 2010 年 7 月 1 日 (仙台); O1-1.

鈴木良明, 山村寿男, 大矢 進, 今泉祐治
血管平滑筋細胞における BK-VDCC 複合体の解析

第 52 回日本平滑筋学会総会. 2010 年 7 月 2 日 (仙台); O2-5.

大矢 進, 大野晃稔, 山村寿男, 郡 健二郎, 今泉祐治
男性ホルモンによる精管平滑筋 Ca^{2+} 活性化 K^+ チャネル発現調節

第 20 回日本性機能学会中部総会. 2010 年 7 月 3 日 (名古屋); 3.

鬼頭宏彰, 山崎大樹, 山村寿男, 大矢 進, 今泉祐治
SK2 及び Kir2.1 共発現細胞における Kir2.1 活性制御による細胞死誘発

第 117 回日本薬理学会近畿部会. 2010 年 7 月 8 日 (徳島); B-6.

Yuji Imaizumi, Hiroya Mizutani, Hisao Yamamura, Makoto Muramatsu, Susumu Ohya

The regulation of melatonin release by BK channel activity in pinealocytes

The 16th World congress of Basic and Clinical Pharmacology. 2010.7.21. (Copenhagen, Denmark);
Wed107.

Yoshiaki Suzuki, Hisao Yamamura, Susumu Ohya, Yuji Imaizumi

Function of BK-VDCC complex in vascular smooth muscle cells

The 16th World congress of Basic and Clinical Pharmacology. 2010.7.22. (Copenhagen, Denmark);
Thu102.

Hisao Yamamura, Susumu Ohya, Yuji Imaizumi

Molecular assembly in functional Ca^{2+} microdomain in vascular smooth muscle cells

The 16th World congress of Basic and Clinical Pharmacology. 2010.7.22. (Copenhagen, Denmark);
Thu107.

Yuji Imaizumi 【シンポジウム講演】

Molecular assembly in a functional Ca^{2+} microdomain in vascular smooth muscle cells

12th Symposium on Vascular Neuroeffector Mechanisms. 2010.7.24 (Odense, Denmark).

村松 真, 山村寿男, 水谷浩也, 大矢 進, 今泉祐治

ニコチンによる神経細胞内 Ca^{2+} シグナル調節のイオン機構と神経保護作用

喫煙科学研究財団 平成 21 年度助成研究発表会. 2009 年 7 月 28 日 (東京); 128.

藤井将人, 大野晃稔, 大矢 進, 山村寿男, 今泉祐治

性ホルモンによるラット扁桃体のイオンチャネル発現性差

第 33 回日本神経科学大会. 2010 年 9 月 2 日 (神戸); P1-a10.

清田 恵子, 村松 真, 山村 寿男, 水谷 浩也, 大矢 進, 今泉 祐治

松果体 Ca^{2+} シグナルとメラトニン分泌のグルタミン酸による制御機構

第 33 回日本神経科学大会. 2010 年 9 月 2 日 (神戸); P1-a29.

鬼頭宏彰, 山崎大樹, 山村寿男, 大矢 進, 浅井清文, 今泉祐治

内向き整流性 Kir2.1 発現細胞における細胞死制御

次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2010. 2010 年 9 月 11 日 (京都); B-3.

藤井将人, 大矢 進, 山村寿男, 今泉祐治

イオンチャネル創薬における細胞死測定による新規高効率スクリーニング系の開発

次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2010. 2010 年 9 月 11 日 (京都); B-4.

大城隼也, 山村寿男, 大矢 進, 今泉祐治

Ca²⁺活性化 Cl⁻電流の分子実体とマウス門脈血管平滑筋における寄与

次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2010. 2010 年 9 月 11 日 (京都); B-9.

鈴木良明, 山村寿男, 大矢 進, 今泉祐治

血管平滑筋細胞における BK チャネル-VDCC 複合体の解析

次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2010. 2010 年 9 月 11 日 (京都); B10.

丹羽里実, 大矢 進, 小島祥敬, 佐々木昌一, 櫻木 求, 郡 健二郎, 今泉祐治

前立腺肥大症におけるカルシウム活性化カリウムチャネル阻害薬の効果

第 17 回日本排尿機能学会. 2010 年 9 月 30 日 (甲府); G-2.

山村寿男, 鈴木良明, 大矢 進, 今泉祐治

動脈平滑筋細胞における Ca²⁺マイクロドメイン分子集合の可視化とイオンチャネル活性制御機構

生理研研究会「イオンチャネル・トランスポーターと心血管機能：細胞機能の分子機序とその総合的理解」. 2010 年 11 月 4 日 (岡崎).

鈴木良明, 山村寿男, 大矢 進, 今泉祐治

血管平滑筋細胞における BK チャネル-VDCC 複合体の解析

第 20 回日本循環薬理学会. 2010 年 11 月 11 日 (札幌); Y-11.

大矢 進, 仲村恵梨奈, 山村寿男, 今泉祐治

免疫系における中コンダクタンス Ca²⁺活性化 K⁺チャネルの役割

第 38 回薬物活性シンポジウム. 2010 年 11 月 12 日 (札幌); S-16.

藤井将人, 大矢 進, 山村寿男, 今泉祐治

改変遺伝子発現細胞を用いた細胞死測定による新規イオンチャネル標的創薬スクリーニング系の開発

第 118 回日本薬理学会近畿部会. 2010 年 11 月 19 日 (大阪); C-15.

【病態生化学分野】

(原報)

Kohno, T., and Hattori, M.

Re-evaluation of protease activity of Reelin.

Biol. Pharm. Bull. **33**, 1047-1049 (2010).

Higo, T., Hamada, K., Hisatsune, C., Nukina, N., Hashikawa, T., Hattori, M., Nakamura, T., and Mikoshiba, K.

Mechanism of ER stress-induced brain damage by IP₃ receptor.

Neuron **68**, 865-878 (2010).

(総説・著書・総合論文など)

河野孝夫、服部光治

細胞外シグナル分子リーリンの分解機構と生理的意義

生化学, 82, 963-71 (2010)

(学会発表)

木谷友次郎、服部光治

スフィンゴミエリン合成酵素に対する Fyn チロシンキナーゼの影響

日本薬学会東海支部大会 2010年7月3日 (岐阜)

河野孝夫、中野良美、阪野英幸、高柳麻衣、服部光治

リーリンC末端領域の機能解明

Neuro2010 2010年9月2日 (神戸)

田頭大志、石井萌、森川麗、松田幸江、木谷友次郎、馬場敦、榎本和生、服部光治

難読症関連遺伝子 KIAA0319 は異常な神経突起を誘導する

Neuro2010 2010年9月2日 (神戸)

三浦麻悠子、市川淳也、馬場敦、服部光治、松木則夫、小山隆太

リーリンによる歯状回顆粒細胞先端突起と放射状グリアの接着促進

Neuro2010 2010年9月2日 (神戸)

Yusuke Nakagawa, Nobuko Saga, Takao Kohno, Mitsuharu Hattori

Spatiotemporal analysis of Reelin action by utilizing monoclonal antibodies

BMB2010 2010年12月7日 (神戸)

Hiroki Gomi, Takao Kohno, Mitsuharu Hattori

Elucidating the function of Reelin N-terminal region

BMB2010 2010年12月7日 (神戸)

Kenta Suzuki, Shiori Kohno, Mari Koie, Takao Kohno, Mitsuharu Hattori

Mechanism of specific proteolytic cleavage of Reelin

BMB2010 2010年12月7日(神戸)

Takao Kohno, Yoshimi Nakano, Hideyuki Banno, Mai Takayanagi, Mitsuharu Hattori

Fine tuning of Reelin functions by its C-terminal region

BMB2010 2010年12月7日(神戸)

Akira Fukami, masashi Tagashira, Moe Ishii, Yukie Matsuda, Takao Kohno, Mitsuharu Hattori

Molecular mechanism of neuronal cell morphology regulation by the dyslexia-associated gene KIAA0319

BMB2010 2010年12月7日(神戸)

村上達郎、河野孝夫、阪野英幸、中野良美、服部光治

大脳皮質の神経細胞層構造の形成と維持における、リーリンC末端領域の機能

ファーマバイオフォーラム 2010 2010年10月2日(京都)

鄧夢妍、鯉江真利、河野孝夫、服部光治

リーリンおよびリーリン受容体の細胞内動態とその生理的意義解明の

日本薬学会第131年回 2011年3月30日(静岡)

久永有紗、鈴木健太、鯉江真利、河野孝夫、服部光治

脳形成に必須な分泌タンパク質リーリンの特異的切断を担うプロテアーゼに関する解析

日本薬学会第131年回 2011年3月30日(静岡)

【薬物動態制御学】

(原報)

Syunsuke Yamamoto, Katsuhisa Inoue, Tomoaki Murata, Syunsuke Kamigaso, Tomoya Yasujima, Junya Maeda, Yukihiro Yoshida, Kinya Ohta, Hiroaki Yuasa

Identification and functional characterization of the first nucleobase transporter in mammals: implication in the species difference in the intestinal absorption mechanism of nucleobases and their analogs between higher primates and other mammals.

J. Biol. Chem., **285**, 6522-6531 (2010).

Tomoya Yasujima, Kinya Ohta, Katsuhisa Inoue, Munenori Ishimaru, Hiroaki Yuasa

Evaluation of 4',6-diamidino-2-phenylindole as a fluorescent probe substrate for rapid assays of the functionality of human multidrug and toxin extrusion proteins.

Drug Metab. Dispos., **38**, 715-721 (2010).

Sumito Ito, Hiroyuki Kusahara, Yushun Kuroiwa, Chunyong Wu, Yoshinori Moriyama, Katsuhisa Inoue, Tsunenori Kondo, Hiroaki Yuasa, Hideki Nakayama, Shigeru Horita, Yuichi Sugiyama

Potent and specific inhibition of mMate1-mediated efflux of type I organic cations in the liver and kidney by pyrimethamine.

J. Pharmacol. Exp. Ther., **333**, 341-350 (2010).

Misaki Fujimura, Syunsuke Yamamoto, Tomoaki Murata, Tomoya Yasujima, Katsuhisa Inoue, Kinya Ohta, Hiroaki Yuasa

Functional characteristics of the human ortholog of riboflavin transporter 2 and riboflavin-responsive expression of its rat ortholog in the small intestine indicate its involvement in riboflavin absorption.

J. Nutr., **140**, 1722-1727 (2010).

Masashizu Nagahara, Yuko Waguri-Nagaya, Takaya Yamagami, Mineyoshi Aoyama, Toyohiro Tada, Katsuhisa Inoue, Kiyofumi Asai, Takanobu Otsuka

TNF- α -induced aquaporin 9 in synoviocytes from patients with OA and RA.

Rheumatology (Oxford), **49**, 898-906 (2010).

(総説・著書・総合論文など)

湯浅博昭

トランスポーター研究の動向 2010.

日本薬物動態学会ニュースレター, **25(4)**, 6-11 (2010).

井上勝央

葉酸トランスポーターPCFTを介する葉酸拮抗薬の腸管吸収と薬物相互作用.

日本薬物動態学会ニュースレター, **25(4)**, 12-15 (2010).

井上勝央, 湯浅博昭

PCFT/SLC46A1による葉酸の吸収機構.

ビタミン, **84**, 472-479 (2010).

(学会発表)

前田純彌, 井上勝央, 太田欣哉, 湯浅博昭

ヒトに発現する新規促進拡散型核酸塩基トランスポーターの同定と機能解析.

日本薬学会第 130 年会. 2010 年 3 月 28 日 (岡山); 28CD-pm05.

保嶋智也, 太田欣哉, 井上勝央, 石丸宗徳, 湯浅博昭

hOCT1 による蛍光性核染色剤 DAPI の輸送: 迅速機能評価への応用の可能性.

日本薬学会第 130 年会. 2010 年 3 月 28 日 (岡山); 28P-am026.

西嶋千尋, 畠山 舞, 林 弥生, 太田欣哉, 井上勝央, 湯浅博昭

Caco-2 細胞における葉酸類の取り込みに対するエタノール及びフラボノイド類の影響.

日本薬学会第 130 年会. 2010 年 3 月 28 日 (岡山); 28P-pm024.

井上勝央, 湯浅博昭【招待講演】

葉酸吸収における PCFT/SLC46A1 の役割.

日本薬学会第 130 年会. 2010 年 3 月 29 日 (岡山); MS05-3.

大久保雅彦, 太田欣哉, 井上勝央, 湯浅博昭

ラット小腸におけるニコチン酸輸送の解析.

日本薬剤学会第 25 年会. 2010 年 5 月 14 日 (徳島); P-56.

西嶋千尋, 井上勝央, 太田欣哉, 湯浅博昭

ナトリウム依存性核酸塩基トランスポーター (SNBT1) による urate 輸送の解析.

日本薬剤学会第 25 年会. 2010 年 5 月 14 日 (徳島); P-61.

保嶋智也, 太田欣哉, 井上勝央, 湯浅博昭

蛍光性核染色剤 DAPI を用いた有機カチオントランスポーターの迅速機能評価法の確立.

第 5 回トランスポーター研究会年会. 2010 年 7 月 10 日 (東京); P-43.

井上勝央, 湯浅博昭【招待講演】

リボフラビンの輸送機構と生理的役割.

第 5 回トランスポーター研究会年会. 2010 年 7 月 11 日 (東京); W2-01.

保嶋智也, 太田欣哉, 井上勝央, 湯浅博昭

ヒト OCT1 の蛍光性プローブ基質としての DAPI の輸送特性の評価.

第 25 回日本薬物動態学会年会. 2010 年 10 月 7 日 (さいたま); 1-P-17.

畠山 舞, 太田欣哉, 井上勝央, 林 弥生, 湯浅博昭

PCFT の転写調節における KLF4 と HNF-4 α の関与.

第 25 回日本薬物動態学会年会. 2010 年 10 月 8 日 (さいたま); 2-C-9-4.

大久保雅彦, 太田欣哉, 井上勝央, 湯浅博昭

ラット小腸における 2 種の担体輸送系によるニコチン酸取り込み.

第 25 回日本薬物動態学会年会. 2010 年 10 月 8 日 (さいたま); 2-P-11.

宮本明希, 太田欣哉, 片野貴大, 浦野公彦, 渡辺 淳, 井上勝央, 湯浅博昭

ヒトアクアポリン 3 のグリセロール輸送特性.

第 25 回日本薬物動態学会年会, 2010 年 10 月 8 日 (さいたま); 2-P-12.

西嶋千尋, 井上勝央, 太田欣哉, 湯浅博昭

ナトリウム依存性核酸塩基トランスポーター (SNBT1) の urate 輸送機能の解析.

第 25 回日本薬物動態学会年会, 2010 年 10 月 9 日 (さいたま); 3-E-10-2.

林 里佳, 井上勝央, 太田欣哉, 湯浅博昭

新規プロスタグランジントランスポーターの同定.

第 25 回日本薬物動態学会年会, 2010 年 10 月 9 日 (さいたま); 3-E-10-3.

Masahiko Ohkubo, Kinya Ohta, Katsuhisa Inoue, Hiroaki Yuasa

Kinetic analysis of nicotinate uptake in the rat small intestine.

Pharmaceutical Sciences World Congress 2010.

2010 年 11 月 16 日 (New Orleans, Louisiana, U.S.A.); T3382.

Tomoya Yasujima, Kinya Ohta, Katsuhisa Inoue, Hiroaki Yuasa

Characterization of the transport of DAPI by hOCT1 for its utilization for rapid uptake assays.

Pharmaceutical Sciences World Congress 2010.

2010 年 11 月 16 日 (New Orleans, Louisiana, U.S.A.); T3402.

Hiroaki Yuasa, Chihiro Nishijima, Mai Hatakeyama, Yayoi Hayashi, Kinya Ohta, Katsuhisa Inoue

Effects of flavonoids on proton-coupled folate transporter.

Pharmaceutical Sciences World Congress 2010.

2010 年 11 月 16 日 (New Orleans, Louisiana, U.S.A.); T3404.

Katsuhisa Inoue, Masahiko Ohkubo, Kinya Ohta, Hiroaki Yuasa

Functional characteristics of carrier-mediated nicotinate transport systems in the rat small intestine.

第 4 回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム, 2010 年 11 月 27 日 (東京); P31.

Tomoya Yasujima, Kinya Ohta, Katsuhisa Inoue, Hiroaki Yuasa

Rapid screening of inhibitors for human organic cation transporter 1 using DAPI.

第 4 回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム, 2010 年 11 月 28 日 (東京); P32.

島田友里奈, 太田欣哉, 保嶋智也, 井上勝央, 湯浅博昭

Caco-2 細胞 (小腸上皮細胞モデル) の 5-carboxyfluorescein 担体輸送系: 生理的機能の探索.

平成 22 年度日本薬学会東海支部例会, 2010 年 11 月 28 日 (静岡); D-19.

【病態解析学分野】

(原報)

Yasuhiro Noda and Satoshi Fujii

Critical role of water diffusion into matrix in external use iodine preparations.

Int. J. Pharm., **394**, 85-91, (2010).

Ryu Miyagawa, Takefumi Asakura, Tomomi Nakamura, Hiromi Okada, Soichiro Iwaki, Burton E. Sobel, and Satoshi Fujii

Increased expression of plasminogen activator inhibitor type-1 (PAI-1) in HepG2 cells induced by insulin mediated by the 3'-untranslated region of the PAI-1 gene and its pharmacologic implications.

Coron. Artery Dis., **21**, 144-150, (2010).

Hiromi Okada, Shinji Kunishima, Motohiro Hamaguchi, Akira Takagi, Koji Yamamoto, Junki Takamatsu, Tadashi Matsushita, Hidehiko Saito, Tetsuhito Kojima, and Tomio Yamazaki.

A novel splice site mutation in intron C of *PROSI* leads to markedly reduced mutant mRNA level, absence of thrombin-sensitive region, and impaired secretion and cofactor activity of mutant protein S.

Thromb. Res., **125**, e246-e250, (2010).

Hiroki Satoh, Satoshi Fujii, and Hiroyuki Tsutsui.

The high-molecular weight (HMW) form of adiponectin is a significant surrogate marker for the prediction of type 2 diabetes mellitus in Japanese population.

Nutr. Metab. Cardiovasc. Dis., **20**, e9-10, (2010).

Hiroki Satoh, Satoshi Fujii, Tomoo Furumoto, Reiko Kishi, and Hiroyuki Tsutsui.

Waist circumference can predict the occurrence of multiple metabolic risk factors in middle-aged Japanese subjects.

Industrial Health, **48**, 447-451, (2010).

Kazue Ohmura, Naoki Ishimori, Yoshinori Ohmura, Satoshi Tokuhara, Atsushi Nozawa, Shunpei Horii, Yasuhiro Andoh, Satoshi Fujii, Kazuya Iwabuchi, Kazunori Onoé, and Hiroyuki Tsutsui.

Natural Killer T cells are involved in adipose tissues inflammation and glucose intolerance in diet-induced obese mice.

Arterioscler. Thromb. Vasc. Biol., **30**, 193-199, (2010).

Noriaki Kishimoto, Satoshi Fujii, Hitoshi Chiba, Ichiro Sakuma, and Hiroyuki Tsutsui

Cholestimide, an anion exchange resin agent, can rapidly decrease the number of LDL particles without affecting their sizes in patients with hyperlipidemia.

J. Cardiol., **55**, 65-68, (2010).

(総説・著書・総合論文など)

藤井 聡

薬に強くなる 14 脂質異常症治療薬

宮川 隆, 朝倉 健文, 中村 友美, 佐藤 由樹, 岡田 浩美, 岩城 壮一郎, 藤井 聡
HepG2細胞におけるインスリンと酸化ストレスのPAI-1産生に対する影響の解析:メタボリック
クシンドロームの易血栓性の病態解明を指向して
心臓, 2010年9月号(丸善), 42, 1153-1158, (2010).

野田 康弘、藤井 聡
カデキソマーヨード軟膏とポピドンヨード白糖軟膏の製剤学的同等性評価
日本褥瘡学会誌 2010; 12: 36-43

岡田 浩美, 鈴木 匡, 木村 和哲, 杉山 正, 土屋 照雄, 並木 徳之, 賀川 義之, 藤
井 聡
薬剤師リカレント体験学習の実施とその評価:患者生体情報としてのバイタルサイン学習法
の構築
月刊薬事 2010; 52: 771-774

藤井 聡
滲出液吸着作用をもつ褥瘡治療用外用薬の吸水性の評価に関する研究 厚生労働科学研究費
補助金 長寿科学総合研究事業 創傷皮膚科学の樹立による褥瘡の病態解明と診療体系に関
する研究 (H19-長寿—一般—012)
平成21年度総括・分担研究年度終了報告書 2010: 30-31

藤井 聡
厚生労働科学研究費補助金 長寿科学総合研究事業 創傷皮膚科学の樹立による褥瘡の病態
解明と診療体系に関する研究 (H19-長寿—一般—012)
平成19年度-21年度総括研究報告書 2010: 1-20

藤井 聡
創傷の滲出液と組織物性の関連の解析 平成21年度長寿医療研究委託費 高齢者における褥
瘡・皮膚障害等に対する効果的予防・治療法開発に関する研究
総括研究報告書 2010: 27-28

尾関 哲也、藤井 聡、湯浅 博昭
大学間交流協定締結校であるシドニー大学健康科学カレッジとの交流拡充
平成21年度名古屋市立大学特別研究奨励費研究成果報告書 2010; 41-42

鳶田理佳、明石恵子、木村和哲、藤井 聡、土肥靖明、前田 徹
薬物治療抵抗性高血圧症患者の服薬アドヒアランスに関する研究—低アドヒアランス患者に対する
教育プログラムの作成と検証—
平成21年度名古屋市立大学特別研究奨励費研究成果報告書 2010; 37-38

藤井 聡
地域—大学連携による地域医療ニーズに対応した薬剤師リカレント学習支援プログラム
Agora 2010; 15: 4

藤井 聡

薬剤師リカレント学習支援プログラム：薬剤師が地域医療をささえるために

日本薬学会第130年会講演ハイライト 2010年版 51ページ

並木 徳之、鈴木 匡、藤井 聡

大学での実習を薬剤師のスキルアップに活かす 東海地区三公立連携薬剤師生涯学習支援講座

調剤と情報 2010; 16: 948-949

藤井 聡

平成21年度国際交流報告

名古屋市立大学薬友会誌第59号 2010年3月15日

藤井 聡

東海地区地域連携リカレント教育センターの平成21年度の活動—東海地区の薬剤師リカレント学習のCenter of centersをめざして

名古屋市立大学薬友会誌第59号 2010年3月15日

(学会発表)

藤井 聡、浅井 萌子、榊原 大輔、岡田 浩美、岩城 壮一郎

S1Pは低酸素下におけるHIF-1 α を介したPAI-1発現を増加させる：創部低酸素状態の病態解明を目指して

第6回日本褥瘡学会中部地方会学術集会. 2010年2月21日

(あいち健康の森健康科学総合センター).

Tomomi Nakamura, Takefumi Asakura, Naomi Nakayama, Hiromi Okada, Soichiro Iwaki, Satoshi Fujii

The Effect of TGF- β on the Production of Plasminogen Activator Inhibitor Type-1 in HepG2 Cells: Induction Through Oxidative Stress

第74回日本循環器学会総会. 2010年3月5日 (国立京都国際会館).

Circ J 2010; 74 (Supple I): 520

伊藤 史織、岩城 壮一郎、岩渕 和也、藤井 聡

スフィンゴシン 1-リン酸はNKT細胞の炎症反応を調節する

日本薬学会第130回年会. 2010年3月28日 (岡山).

Satoshi Fujii, Moyoko Asai, Daisuke Sakakibara, Soichiro Iwaki

S1P increases PAI-1 expression via HIF-1 α in the hypoxia

第14回日本心血管内分泌代謝学会学術総会. 2010年4月1日 (奈良県新公会堂).

浅井 萌子、榊原 大輔、小池 慶子、岡田 浩美、岩城 壮一郎、藤井 聡

S1Pは低酸素下におけるHIF-1 α を介したPAI-1発現を増加させる

第33回日本血栓止血学会学術集会. 2010年4月22-24日 (鹿児島).

朝倉 健文、岡田 浩美、岩城 壮一郎、藤井 聡

HepG2細胞においてインスリン、cAMP、シロスタゾールがPAI-1発現を調節する

第 33 回日本血栓止血学会学術集会. 2010 年 4 月 22-24 日 (鹿児島).

伊藤 史織、岩城 壮一郎、岩渕 和也、大川 龍之介、矢富 裕、藤井 聡

スフィンゴシン 1-リン酸は NKT 細胞のサイトカイン発現を増加させる

第 11 回 Pharmaco-Hematology シンポジウム. 2010 年 6 月 19 日 (長井記念ホール).

Soichiro Iwaki, Moyoko Asai, Daisuke Sakakibara, Satoshi Fujii

Sphingosine-1-phosphate increases hypoxia-induced up-regulation of plasminogen activator inhibitor-1

第 27 回内藤コンファレンス 生体膜ダイナミクスと脂質生物学 [I].
2010 年 6 月 29 日-7 月 2 日 (シャトレゼ ガトーキングダム サッポロ).

榊原 大輔、浅井 萌子、小池 慶子、岩城 壮一郎、藤井 聡

S1P は HIF-1 α を介した PAI-1 の発現を増加させる

第 56 回日本薬学会東海支部総会・大会. 2010 年 7 月 3 日 (岐阜薬科大学).

朝倉 健文、岡田 浩美、岩城 壮一郎、藤井 聡

培養ヒト肝臓由来 HepG2 細胞における Plasminogen activator inhibitor-1 発現の調節: 3'-UTR の関与

第 58 回東海血栓症研究会. 2010 年 7 月 9 日 (名古屋).

Satoshi Fujii, Takefumi Asakura, Tomomi Nakamura, Ryu Miyagawa, Yuki Sato, Hiromi Okada, Soichiro Iwaki

The effect of insulin, oxidative stress and oligonol on the production of plasminogen activator inhibitor type-1 in HepG2 human liver derived cells

統合医療機能性食品国際会議. 2010 年 7 月 24 日 (ロイトン札幌).

小池 慶子、大垣 恵理華、岩城 壮一郎、大川 龍之介、矢富 裕、藤井 聡

低酸素とスフィンゴ脂質は脂肪細胞 PAI-1 発現上昇を通じて肥満者の線溶不全に関与する

第 8 回血液・血栓オルビス. 2010 年 8 月 21, 22 日 (東京ドームホテル).

Shiori Ito, Keiko Koike, Soichiro Iwaki, Kazuya Iwabuchi, Satoshi Fujii

Induction of Cytokine Expression in Adipose NKT Cells by S1P: Implications for Insulin Resistance and Atherothrombosis

6th Congress of the Asia Pacific Society on Thrombosis and Haemostasis (APSTH Bali 2010).
2010 年 10 月 13-16 日 (Bali).

Keiko Koike, Shiori Ito, Erika Ohgaki, Soichiro Iwaki, Ryunosuke Ohkawa, Yuko Mishima, Yutaka Yatomi, Tomoo Furumoto, Satoshi Fujii

Hypoxia and sphingolipids increase the expression of plasminogen activator inhibitor-1 (PAI-1) in adipocytes and induce hypofibrinolysis in obesity

6th Congress of the Asia Pacific Society on Thrombosis and Haemostasis (APSTH Bali 2010).
2010 年 10 月 13-16 日 (Bali).

中山 直美、中村 友美、岡田 浩美、岩城 壮一郎、藤井 聡

TGF- β 誘導性の PAI-1 産生と酸化ストレス産生の simvastatin による抑制

第 33 回日本分子生物学会年会・第 83 回日本生化学会大会 合同大会.

2010年12月8日(神戸国際会議場).

榑原 大輔、浅井 萌子、岩城 壮一郎、藤井 聡

スフィンゴシン 1-リン酸は低酸素環境でプラスミノゲンアクチベーター1 の発現を増加させる

第33回日本分子生物学会年会・第83回日本生化学会大会 合同大会.
2010年12月8日(神戸国際会議場).

藤井 聡

地域—大学連携による地域医療ニーズに対応した薬剤師リカレント学習支援プログラム

平成21年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム ポスターセッション H-158
2010年1月7日(東京)

野田 康弘、藤井 聡

褥瘡治療用ヨウ素製剤の同等性の評価に関する検討

第29回褥瘡研究会 2010年2月16日(名古屋)

野田 康弘、藤井 聡、鈴木 匡

薬学部生涯教育における褥瘡実習の薬剤師に対する教育効果

第6回日本褥瘡学会中部地方会学術集会 2010年2月21日(大府)

野田 康弘、藤井 聡

褥瘡治療用ヨウ素製剤の同等性を評価する試み

第6回日本褥瘡学会中部地方会学術集会 2010年2月21日(大府)

Sugiura T, Dohi Y, Yamashita S, Yatomi Y, Hirowatari Y, Kimura G, Fujii S.

Sphingosine 1-phosphate is a bioactive lipid that confers high-density lipoprotein with vascular protection mediated by endothelium-dependent vasodilation.

第74回日本循環器学会2010年3月5日(京都). Circ J 2010; 74 (Supple I): 433

明石恵子, 鳶田理佳, 土肥靖明, 藤井 聡, 新開慈子, 木村和哲, 前田徹, 光岡明子, 樋口和代

高血圧症患者の服薬アドヒアランスに関する研究(1) —服薬行動尺度の信頼性・妥当性の検証—

第74回日本循環器学会 2010年3月5日(京都).

鳶田 理佳, 明石恵子, 藤井 聡, 土肥靖明, 新開慈子, 木村和哲, 前田徹, 光岡明子, 樋口和代

高血圧症患者の服薬アドヒアランスに関する研究(2) —服薬アドヒアランスに関連する要因—

第74回日本循環器学会 2010年3月5日(京都).

Nakamura T, Asakura T, Nakayama N, Okada H, Fujii S.

The effect of TGF- β on the production of plasminogen activator inhibitor type-1 in HepG2 cells: induction through oxidative stress

第74回日本循環器学会2010年3月5日(京都). Circ J 2010; 74 (Supple I): 520

Sugiura T, Dohi Y, Ohkawara R, Yatomi Y, Kimura G, Fujii S.

Increase of plasma serotonin mediates impaired endothelial function in habitual smokers

第74回日本循環器学会 2010年3月5日 (京都). Circ J 2010; 74 (Supple I): 586

野田 康弘, 藤井 聡, 鈴木 匡

薬剤師の褥瘡治療への参画を支援する生涯教育の試み

日本薬学会 第130年会 2010年3月28日 (岡山)

鈴木 匡, 岡田 浩美, 土屋 照雄, 賀川 義之, 木村 和哲, 杉山 正, 並木 徳之, 平嶋 尚英, 中村 光浩, 小菅 和仁, 前田 徹, 林 秀樹, 野口 博司, 小野 秀樹, 藤井 聡

三公立連携薬剤師生涯学習支援講座: 実習プログラムの試みと評価

日本薬学会 第130年会2010年3月28日 (岡山)

杉山 正, 中村光浩, 堀内 正, 鈴木 匡, 土屋照雄, 藤井 聡

三公立連携薬剤師生涯学習支援講座: 「TDM」実習コースの試みと評価

第27回日本TDM学会・学術大会 2010年6月26-27日

Sugiura T, Dohi Y, Yamashita S, Kimura G, Mishima Y, Ohkawa R, Yatomi Y, Fujii S.

Sphingosine 1-phosphate is a bioactive lipid that confers high-density lipoprotein with vascular protection mediated by endothelium-dependent vasodilation

第42回日本動脈硬化学会総会・学術集会 2010年7月15日 (岐阜)

藤井 聡 野田 康弘

低酸素刺激およびS1PはHIF-1 α を介してPAI-1発現を増加させる: 創部低酸素状態の病態への関与

12回日本褥瘡学会学術集会2010年8月20日 (千葉) 日本褥瘡学会誌 2010; 12: 379

野田 康弘、藤井 聡

滲出液の制御を目的とする外用薬の吸水性評価と吸水機構の考察

第12回日本褥瘡学会学術集会 2010年8月21日 (千葉) 日本褥瘡学会誌 2010; 12: 386

Sugiura T, Dohi Y, Yamashita S, Ohkawa R, Yatomi Y, Kimura G, Fujii S.

Sphingosine 1-phosphate is a bioactive lipid that confers high-density lipoprotein with vascular protection mediated by endothelium-dependent vasodilation

August 29, 2010 European Society of Cardiology Congress 2010 (Stockholm, Sweden)

Sugiura T, Dohi Y, Yamashita S, Hirowatari Y, Yatomi Y, Kimura G, Fujii S.

Increase of plasma serotonin mediates impaired endothelial function in habitual smokers.

August 31, 2010 European Society of Cardiology Congress 2010 (Stockholm, Sweden)

古本 智雄、藤井 聡、筒井 裕之

Pioglitazoneはメタボリックシンドローム患者の心血管リスクを軽減する

第58回日本心臓病学会学術集会 2010年9月18日 (東京)

尾関 哲也、藤井 聡、湯浅 博昭

大学間交流協定締結校であるシドニー大学健康科学カレッジとの交流拡充

名古屋市立大学特別研究奨励費研究成果発表会 2010年10月14日 (名古屋)

鳶田理佳、明石恵子、木村和哲、藤井 聡、土肥靖明、前田 徹

薬物治療抵抗性高血圧症患者の服薬アドヒアランスに関する研究－低アドヒアランス患者に対する教育プログラムの作成と検証－

名古屋市立大学特別研究奨励費研究成果発表会 2010年10月14日 (名古屋)

古本 智雄、藤井 聡、筒井 裕之

Pioglitazoneはメタボリックシンドロームを伴う高血圧患者の心血管リスクを軽減する

第33回日本高血圧学会総会 2010年10月15日 (福岡)

鳶田理佳、明石恵子、木村和哲、藤井 聡、土肥靖明、前田 徹

高血圧患者の服薬アドヒアランスに関連する要因

第33回日本高血圧学会総会 2010年10月17日 (福岡)

Sugiura T, Dohi Y, Yamashita S, Ohte N, Mori C, Hirowatari Y, Ohkawa R, Mishima Y, Yatomi Y, Kimura G, Fujii S.

Imbalance Between Plasma Serotonin and Sphingosine 1-Phosphate Is a Novel Therapeutic Target of Statins in Patients with Early Atherosclerosis.

Scientific Session of the American Heart Association. Chicago, USA 2010. 11. 15

Fujii S, Ito S, Koike K, Iwaki S, Iwabuchi K, Ohkawa R, Mishima Y, Yatomi Y, Furumoto T.

Hypoxia Enhances S1P Release From Adipocytes and Provokes S1P-mediated Insulin Resistance by Inducing TNF- α Expression in Adipose NKT Cells.

Scientific Session of the American Heart Association. Chicago, USA 2010. 11. 14

Fujii S.

Thrombosis in Geriatric Patients: Prevalence, Risk Factors, Awareness, Treatment and Complications.

The 6th Congress of Asia Pacific Society on Thrombosis and Haemostasis October 14, 2010 (Bali, Indonesia)

Fujii S.

Contra: Oral Anticoagulants are Recommended in the Treatment and the Prophylaxis VTE Among Elderly Patients

The 6th Congress of Asia Pacific Society on Thrombosis and Haemostasis October 14, 2010 (Bali, Indonesia)

Fujii S.

Contra: Oral Anticoagulants are Recommended in the Treatment and the Prophylaxis VTE Among Elderly Patients

The 6th Congress of Asia Pacific Society on Thrombosis and Haemostasis October 14, 2010 (Bali, Indonesia)

Fujii S.

Biomarkers of Cardiovascular Diseases: From Bench to Bedside

October 26, 2010 (The Fengtian Hospital Affiliated to Shenyang Medical College, Shenyang,

Liaoning, P.R. China)

Fujii S.

Bioactive lipids: a new era. Cardiovascular Seminar,
Scientific Session of the American Heart Association. Chicago, USA 2010. 11. 15

藤井 聡

大学が考える薬剤師の生涯教育の必要性和具体的対応
第6回愛知県薬剤師会学術発表会 2010年2月28日 (名古屋)

藤井 聡

循環器疾患の臨床指向型研究-その考え方と使い方- 「臨床を指向した研究の展開」
日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部 合同学術大会 2010年11月28日(静岡)
岡)

藤井 聡

大学が実施する薬剤師生涯学習支援の試みー三公立連携薬剤師生涯学習支援講座の成果と今後
日本薬学会薬学教育部会 薬剤師生涯学習シンポジウム2010 2010年12月25日 (名古屋)

藤井 聡

薬剤師リカレント学習支援プログラム：薬剤師が地域医療をささえるために日本薬学会 第130年会 2010年3月28日(岡山)

藤井 聡

iPS細胞・幹細胞研究によってわかってきた血栓・血管医学の最前線
日本血栓止血学会・日本血管生物医学会ジョイントシンポジウム 2010年4月23日 第33回日本血栓止血学会 (鹿児島)

【医薬品代謝解析学】

(原報)

Nobumichi Ohoka, Satoshi Sakai, Kikuo Onozaki, Makoto Nakanishi and Hidetoshi Hayashi.
Anaphase promoting complex/cyclosome-cdh1 mediates the ubiquitination and degradation of TRB3.
Biochem. Biophys. Res. Commun., **392(3)**, 289-294 (2010).

Tomohiro Arakawa, Hidetoshi Hayashi, Saotomo Itoh, Takemasa Takii and Kikuo Onozaki.
IL-1-induced ERK1/2 activation up-regulates p21Waf1/Cip1 protein by inhibition of degradation via ubiquitin independent pathway in human melanoma cells A375.
Biochem. Biophys. Res. Commun., **392(3)**, 369-372 (2010).

Hirota Fukasawa, Tatsuo Yamamoto, Yoshihide Fujigaki, Taro Misaki, Naro Ohashi, Tatsuya Takayama, Soichi Mugiya, Toshiaki Oda, Chiharu Uchida, Kyoko Kitagawa, Takayuki Hattori, Sayuri Suzuki, Hidetoshi Hayashi, Seiichiro Ozono, Masatoshi Kitagawa and Akira Hishida.
Reduction of transforming growth factor- β type II receptor is caused by the enhanced ubiquitin-dependent degradation in human renal cell carcinoma.
Int J. Cancer., 1517-1525, (2010).

Satoshi Sakai, Nobumichi Ohoka, Kikuo Onozaki, Masatoshi Kitagawa, Makoto Nakanishi and Hidetoshi Hayashi.
Dual mode of regulation of Cdc25A protein by TRB3.
Biol. Pharm. Bull., **33(7)**, 1112-1116, (2010).

Satomi Chujo, Shosuke Okamoto, Ryohei Sunahara, Miki Adachi, Kyohei Yamada, Hidetoshi Hayashi, Takemasa Takii, Kazuichi Hayakawa and Kikuo Onozaki.
Cigarette smoke condensate extracts augment collagen-induced arthritis in mice.
Int. Immunopharmacol., **10(10)**, 1194-1199, (2010).

Shinsuke Kido, Rika Kuriwaka-Kido, Yuka Umino-Miyatani, Itsuro Endo, Daisuke Inoue, Hisaaki Taniguchi, Yasumichi Inoue, Takeshi Imamura, Toshio Matsumoto.
Mechanical Stress Activates Smad Pathway through PKC δ to Enhance Interleukin-11 Gene Transcription in Osteoblasts.
PLoS One, **5(9)**, e13090, (2010).

(総説・著書・総合論文など)

林 秀敏、小野寄菊夫

Interleukin 1(IL-1) alpha, beta, IL-1 受容体と IL-1 受容体アンタゴニスト
日本臨床 **63**, 60-64 (2010).

林 秀敏

栄養素の消化、吸収、代謝

第7版 新しい衛生薬学 (小野寄菊夫・小嶋仲夫・永瀬久光 編、広川書店) pp.61-89 (2010).

林 秀敏

組織的な大学院教育改革推進プログラム「薬工融合型ナノメディシン創薬研究者の育成」 特集：教員からみた「薬工融合講義」「インターンシップ報告」

News Letter Vol.4 (平成 22 年 12 月) (2010).

(学会発表)

荒川友博, 林 秀敏, 伊藤佐生智, 瀧井猛将, 小野寄菊夫

インターロイキン-1によるヒトメラノーマ細胞増殖抑制機構の解析

日本薬学会第 130 年会, 2010 年 3 月 28 日 (岡山); 28SE-pm17.

町支優和, 伊藤友香, 井上靖道, 小野寄菊夫, 林 秀敏

Smad2 における大腸癌由来変異 Smad2L440R の TGF- β シグナル伝達抑制機構

日本薬学会第 130 年会, 2010 年 3 月 30 日 (岡山); 30P-am201.

中平桂子, 石戸谷その, 福重 香, 酒井 聡, 伊藤友香, 水谷隆治, 林 秀敏

炎症時におけるサイトカインによる UGT1A1 発現制御

日本薬学会第 130 年会, 2010 年 3 月 30 日 (岡山); 30P-am320.

許 鍵, 伊藤友香, 瀧井猛将, 林 秀敏, 小野寄菊夫

男性ホルモンによる関節リウマチ滑膜細胞からの炎症性サイトカインの産生抑制

日本薬学会第 130 年会, 2010 年 3 月 30 日 (岡山); 30P-pm035.

岡本翔佑, 中條里美, 瀧井猛将, 林 秀敏, 早川和一, 小野寄菊夫

タバコと関節リウマチに関する研究

日本薬学会第 130 年会, 2010 年 3 月 30 日 (岡山); 30P-pm365.

林 秀敏 【他大学講義】

小胞体ストレスの制御と疾患

山口大学大学院医学系研究科 特別専門講義, 2010 年 5 月 28 日 (宇部).

酒井 聡, 大岡伸通, 北川雅敏, 中西 真, 小野寄菊夫, 林 秀敏

pseudokinase TRB1 による Cdc25A の発現制御機構の解析

第 74 回日本生化学会中部支部例会, 2010 年 5 月 29 日 (名古屋); 23.

石戸谷その, 中平桂子, 伊藤友香, 酒井 聡, 水谷隆治, 林 秀敏

薬物代謝酵素 UGT1A1 タンパク質の安定性による発現制御

第 56 回日本薬学会東海支部大会, 2010 年 7 月 3 日 (岐阜); D-11.

牛山小百合, 井出佑子, 酒井 聡, 伊藤友香, 大岡伸通, 小野寄菊夫, 林 秀敏

ストレス誘導性タンパク TRB3 による TGF- β シグナルの制御

第 56 回日本薬学会東海支部大会, 2010 年 7 月 3 日 (岐阜); D-9.

小島和香, 酒井 聡, 伊藤友香, 林 秀敏

TRB1 による糖新生制御分子 FoxO1 の転写活性増強作用

フォーラム 2010：衛生薬学・環境トキシコロジー。
2010年9月9,10日（東京）；P-080.

松平都和, 西仲 駿, 森田陽子, 酒井 聡, 伊藤友香, 林 秀敏

ストレス誘導性 pseudokinase TRB3 のヘルパーT細胞分化に及ぼす影響

フォーラム 2010：衛生薬学・環境トキシコロジー。
2010年9月9,10日（東京）；P-079.

荒川友博, 林 秀敏, 伊藤佐生智, 瀧井猛将, 小野寄菊夫

インターロイキン-1によるヒトメラノーマ細胞増殖抑制機構の解析

フォーラム 2010：衛生薬学・環境トキシコロジー。
2010年9月9,10日（東京）；O4-5.

Satoshi Sakai, Hiroyuki Niida, Masatoshi Kitagawa, Makoto Nakanishi, Hidetoshi Hayashi

Regulation of Cdc25A expression by pseudokinase, TRB1

第69回日本癌学会総会。2010年9月24日（大阪）；P-1327.

Yuto Sakai, Katsumi Fukamachi, Mitsuru Futakuchi, Hiroyuki Tsuda, Masumi Suzui, Hidetoshi Hayashi

Establishment of human TRB3 transgenic mice

第69回日本癌学会総会。2010年9月22日（大阪）；P-0008.

石戸谷その, 中平桂子, 伊藤友香, 酒井 聡, 水谷隆治, 林 秀敏

炎症時における薬物代謝酵素 UGT1A1 タンパク質の発現制御

日本薬物動態学会第25回年会。2010年10月8日（大宮）；2-P-54.

中平桂子, 石井陽子, 石戸谷その, 伊藤友香, 酒井 聡, 水谷隆治, 林 秀敏

TGF- β によるUGT1A1遺伝子の発現制御

日本薬物動態学会第25回年会。2010年10月8日（大宮）；2-P-53

林 秀敏

神経変性疾患と小胞体ストレス

東京都すみだ医師会「神経難病検診関連学術講演会」。
2010年10月27日（東京）

岩井俊樹, 伊藤友香, 酒井 聡, 高橋祐輔, 井上靖道, 小野寄菊夫, 林 秀敏

BMPシグナル伝達分子 Smad1 の発現制御機構の解析

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会2010.

2010年11月28日（静岡）；E-11.

藤井拓夫, 酒井 聡, 戸田洋平, 伊藤友香, 篠田 晃, 林 秀敏

ハンチントン病関連遺伝子HAP1の機能解析

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会2010.

2010年11月28日（静岡）；E-12.

楽 怡, 井上万由美, 野口祐美子, 伊藤友香, 酒井 聡, 小野寄菊夫, 齊藤昌之, 林 秀敏

TGF- β による白色脂肪細胞の脂肪滴消失に伴った遺伝子

第 32 回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム.
2010 年 11 月 29,30 日 (富山) ; 1A14.

町支優和, 伊藤友香, 井上靖道, 小野寄菊夫, 林 秀敏
大腸癌由来点変異 Smad2L440R の機能解析および発現制御

第 33 回日本分子生物学会年会・第 83 回生化学会大会合同大会.
2010 年 12 月 8 日 (神戸) ; 2P-0094.

酒井 聡, 大岡伸通, 北川雅敏, 中西 真, 小野寄菊夫, 林 秀敏
TRB1 による Cdc25A の発現制御機構の解析

第 33 回日本分子生物学会年会・第 83 回生化学会大会合同大会.
2010 年 12 月 8 日 (神戸) ; 2P-0383.

【中枢神経機能薬理学分野】

(原報)

Keiko Takasu, Hideki Ono, and Mitsuo Tanabe

Spinal hyperpolarization-activated cyclic nucleotide-gated cation channels at primary afferent terminals contribute to chronic pain.

Pain, **151**, 87-96 (2010)

Mitsuo Tanabe, Azusa Nitta, and Hideki Ono

Neuroprotection via strychnine-sensitive glycine receptors during post-ischemic recovery of excitatory synaptic transmission in the hippocampus.

J. Pharmacol. Sci., **113**, 378-386 (2010)

Masahiro Ohsawa, and Junzo Kamei

RhoA/Rho kinase signaling in the spinal cord and diabetic painful neuropathy.

Eur. J. Pharmacol., **644**, 1-4 (2010)

(総説・著書・総合論文など)

小野秀樹 (取組担当者)

文部科学省「戦略的大学連携支援事業」6年制薬学教育を主軸とする薬系・医系・看護系大学による広域総合教育連携 平成21年度報告書

東海臨床薬学教育連携センター (2010)

小野秀樹

2010年版実習に行く前の覚える医薬品集 (分担執筆)

廣川書店 (2010)

高橋 洋, 大澤匡弘, 亀井淳三

糖尿病モデルマウスにおけるブタプラセンタ抽出液の鎮痛作用

Diabetes Frontier, **21**, 229-234 (2010).

(学会発表)

小野秀樹, 黒野幸久

6年制薬学教育を主軸とする薬系・医系・看護系大学による広域総合教育連携

平成21年度大学教育改革プログラム合同フォーラム, 2010年1月7日 (東京)

小野秀樹

東海地区薬学系大学の連携による実務実習指導・管理システムの構築

薬学教育協議会フォーラム2010, 2010年2月7日 (東京)

山本昇平, 田辺光男, 小野秀樹

機械侵害刺激により発生する脊髄運動ニューロン発射活動に対する N 型および P/Q 型 Ca^{2+} チャンネルの役割

第 83 回日本薬理学会年会, 2010 年 3 月 16 日 (大阪); P1J-2-1

友寄織江, 小野秀樹, 田辺光男

選択的セロトニン再取り込み阻害薬 fluvoxamine の脊髄後角興奮性シナプス伝達レベルにおける疼痛抑制メカニズムの検討

第 83 回日本薬理学会年会, 2010 年 3 月 16 日 (大阪); P1J-2-2

田辺光男, 阿部聡美, 小野秀樹

上位中枢の NO 合成阻害による抗アロディニア作用の脊髄内メカニズム

第 83 回日本薬理学会年会, 2010 年 3 月 16 日 (大阪); P1J-2-3

山本昇平, 福田昂一, 田辺光男, 小野秀樹

マウスにおける脊髄損傷の筋電図法による評価

第 83 回日本薬理学会年会, 2010 年 3 月 16 日 (大阪); P1J-3-5

松並範晃, 山本昇平, 田辺光男, 小野秀樹

微量アミンはシグマ受容体に働き脊髄単シナプス反射電位を抑制するのか?

第 83 回日本薬理学会年会, 2010 年 3 月 17 日 (大阪); P2J-4-1

鈴木 匡, 岡田浩美, 土屋照雄, 賀川義之, 木村和哲, 杉山 正, 並木徳之, 平嶋尚英, 中村光浩, 小菅和仁, 前田 徹, 林 秀樹, 野口博司, 小野秀樹, 藤井 聡

三公立連携薬剤師生涯学習支援講座: 実習プログラムの試みと評価

日本薬学会第 130 回年会, 2010 年 3 月 28 日 (岡山); 28P-am442

小野秀樹, 永野裕子, 山本昇平, 田辺光男, 前田康博, 黒野幸久, 樋 彰

抗インフルエンザウイルス薬リン酸オセルタミビル (タミフル) のマウスにおける体温低下作用と呼吸抑制作用

日本薬学会第 130 回年会, 2010 年 3 月 30 日 (岡山); 30P-am279

山本昇平, 田辺光男, 小野秀樹

Spared nerve injury (SNI) モデルラットの機械痛覚過敏における TRPV1 受容体発現神経の関与

第 117 回日本薬理学会近畿部会, 2010 年 7 月 8 日 (徳島); A-11

山本昇平, 田辺光男, 小野秀樹

Spared nerve injury (SNI) ラットにおける機械侵害刺激後の脊髄前根発射活動におよび逃避行動への TRPV1 受容体発現神経の関与

第 31 回鎮痛薬・オピオイドペプチドシンポジウム,

2010 年 8 月 27 日 (名古屋); 一般-9

大波壮一郎, 小川公一, 加藤晃, 小野秀樹, 田辺光男

脊髄後角での長期増強誘導後および神経障害性疼痛発症後における C-線維誘発性集合電位に対する選択的セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害薬ミルナシプランの作用

第 31 回鎮痛薬・オピオイドペプチドシンポジウム,

2010 年 8 月 27 日 (名古屋); 一般-12

大波壮一郎, 加藤 晃, 小野秀樹, 田辺光男

脊髄後角での長期増強誘導後および神経障害性疼痛発症後における C-線維誘発性集合電位に対する選択的セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害薬ミルナシプランの作用

第 33 回日本神経科学大会, 2010 年 9 月 2 日 (神戸) ; P1-i20

田辺光男, 兒玉大介, 小野秀樹【シンポジウム】

神経因性疼痛モデルマウスにおける学習機能の低下と海馬におけるグリシン取り込みの亢進

第 33 回日本神経科学大会, 2010 年 9 月 3 日 (神戸) ; S2-9-1-4

山本昇平, 松並範晃, 田辺光男, 小野秀樹

5-MeO-DMT はシグマ 2 受容体を介してラット脊髄単シナプス反射を抑制する

第 33 回日本神経科学大会, 2010 年 9 月 3 日 (神戸) ; P2-b01

小野秀樹, 前田康博, 山本昇平

抗インフルエンザウイルス薬リン酸オセルタミビル(タミフル)の有害事象に関する研究 ～低体温、異常行動および呼吸抑制について～

平成 21 年度 名古屋市立大学 特別研究奨励費 研究成果発表会.

2010 年 10 月 14 日 (名古屋) .

亀井淳三, 朝戸めぐみ, 大澤匡弘

神経障害における新しい痛みの発症機序と治療

第 25 回糖尿病合併症学会, 2010 年 10 月 22、23 日 (滋賀)

小野秀樹

抗インフルエンザウイルス薬の有害事象について

日本薬学会東海支部特別講演会, 2010 年 11 月 24 日 (名古屋)

大澤匡弘

タンパク質脂質修飾に着目した痛覚感受性亢進の機序解明とその治療薬への応用

日本薬学会東海支部特別講演会, 2010 年 12 月 1 日 (名古屋)

友寄織江, 小野秀樹, 田辺光男

選択的セロトニン再取り込み阻害薬 fluvoxamine の脊髄後角一次求心性興奮性シナプス伝達レベルにおける疼痛抑制メカニズム

平成 22 年度生理学研究所研究会「痛みの病態生理と神経・分子機構」.

2010 年 12 月 4 日 (岡崎) ; 演題 17.

【病院薬剤学分野】

(原報)

Yoko Nakajima, Tetsuya Ito, Yasuhiro Maeda, Sayaka Ichiki, Naruji Sugiyama, Mihoko Mizuno, Yasuko Makino, Tokio Sugiura, Yukihisa Kurono, and Hajime Togari.

Detection of pivaloylcarnitine in pediatric patients with hypocarnitinemia after long-term administration of pivalate-containing antibiotics.

Tohoku J. Exp. Med., **221**, 309-313 (2010).

木村和哲

陰茎虚血モデルを用いた動脈性 ED の病態解明

Nagoya Med. J., **51**, 145-152 (2010).

(総説・著書・総合論文など)

吉川一規, 木村和哲

DI室Q&A 高リン血症治療薬ホスレノールチュアブル錠 (炭酸ランタン水和物) の有効性と吸収について知りたい 高リン血症治療薬の有効性と吸収 (Q&A)

治療学, **44**, pp360-363 (2010).

岡田浩美, 鈴木匡, 木村和哲, 杉山正, 土屋照雄, 並木徳之, 賀川義之, 藤井聡

薬剤師リカレント体験学習の実施とその評価 患者生体情報としてのバイタルサイン学習法の構築

薬事, **52**, pp771-774 (2010).

黒田純子, 近藤勝弘, 木村和哲

薬剤師による処方設計 疑義照会に基づいた「抗がん剤処方支援システム」の改善

医薬ジャーナル, **46**, pp133-139 (2010).

木村和哲

病気と薬パーフェクト BOOK 「勃起障害／性腺機能低下症 (男性)」

薬局 増刊号, **61**, pp1134-1141 (2010).

(学会発表)

木村和哲, 服部真由子, 堀田祐志, 大野梨紗, 片岡智哉, 三雲真由美, 前田康博

ラットの血圧変動と勃起機能の関係

第20回日本性機能学会西部総会. 2010年1月9日 (高松).

Sayaka Ichiki, Yoko Nakajima, Tetsuya Ito, Hironori Ohmi, Yasuhiro Maeda, Kazunori Kimura, Yukihisa Kurono, and Naruji Sugiyama.

Development of simultaneous determination of C0-C18 acylcarnitine.

The 1st Asian Congress for Inherited Metabolic Diseases.

2010年3月7-10日 (Fukuoka); P-010.

Go Sato, Yasuhiro Maeda, Tetsuya Ito, Yoko Nakajima, Sayaka Ichiki, Kazunori Kimura, Yukihiisa Kurono, Hajime Togari, and Naruji Sugiyama.

Methylesterification of dicarboxyacylcarnitine in acidic methanol solution affecting newborn screening by tandem mass spectrometry.

The 1st Asian Congress for Inherited Metabolic Diseases.
2010年3月7-10日 (Fukuoka): P-049.

伊東佐恵子, 黒田純子, 市原菜月, 柴本翔子, 近藤勝弘, 佐藤幹則, 小松弘和, 木村和哲
外来化学療法室の予約取り消し理由とそのレジメンの妥当性に関する研究

日本薬学会第130年会. 2010年3月28日 (岡山); 28CH-pm02.

前田徹, 飯塚成志, 浅井清文, 明石恵子, 早野順一郎, 木村和哲, 鈴木匡

地域に根づいた医療人教育を目指した医・薬・看護学部連携チームによる地域参加型早期体験学習の取り組み

日本薬学会第130年会. 2010年3月28日 (岡山); 28P-am334Q.

鈴木匡, 岡田浩美, 土屋照雄, 賀川義之, 木村和哲, 杉山正, 並木徳之, 平嶋尚英, 中村光浩, 小菅和仁, 前田徹, 林秀樹, 野口博司, 小野秀樹, 藤井聡

三公立連携薬剤師生涯学習支援講座 実習プログラムの試みと評価

日本薬学会第130年会. 2010年3月28日 (岡山); 28P-am442.

黒野幸久, 前田康博, 鈴木健史, 木村和哲, 白井直洋, 伊藤哲哉, 中島葉子, 一木沙耶香, 戸苅創, 杉山成司

ジカルボキシアシルカルニチンのメチルエステル化反応における速度論的検討 (第2報)

日本薬学会第130年会. 2010年3月29日 (岡山); 29P-pm068.

前田康博, 大参寛典, 黒野幸久, 木村和哲, 伊藤哲哉, 中島葉子, 一木沙耶香, 戸苅創, 杉山成司

HPLC-MS/MSによるアシルカルニチン類の一斉分析法開発と臨床応用

日本薬学会第130年会. 2010年3月29日 (岡山); 29P-pm436.

片岡智哉, 三雲真由美, 大野梨紗, 服部真由子, 堀田祐志, 前田康博, 木村和哲

女性ホルモンが男性性機能に及ぼす影響 低テストステロンモデルラットを用いた検討

日本薬学会第130年会. 2010年3月29日 (岡山); 29SE-am01.

三雲真由美, 大野梨紗, 片岡智哉, 服部真由子, 堀田祐志, 前田康博, 木村和哲

CKDによる血管内皮機能障害に対してエゼチミブ投与は有効か?

日本薬学会第130年会. 2010年3月29日 (岡山); 29SE-am02.

大野梨紗, 片岡智哉, 三雲真由美, 服部真由子, 堀田祐志, 前田康博, 木村和哲

5/6腎摘出ラットを用いた腎不全に伴う勃起機能障害の病態解明

日本薬学会第130年会. 2010年3月29日 (岡山); 29SE-am03.

佐伯憲一, 難波昭雄, 五十鈴川和人, 小松一, 成田延幸, 荒木麻由, 鷲見正宏, 木村和哲
CYP2C9アイソザイムによるトルブタミド代謝へのフッ素置換の影響

日本薬学会第130年会. 2010年3月30日 (岡山); 30P-pm229.

木村和哲

特別講演 NO と勃起機能 -ED の基礎研究から新しい治療法への提言-

第 4 回東海 SD 研究会. 2010 年 5 月 13 日 (名古屋).

片岡智哉, 三雲真由美, 大野梨紗, 塩田有史, 堀田祐志, 大野雅恵, 前田康博, 木村和哲
ラットの勃起機能に対するエストロゲンの影響

第 20 回日本性機能学会中部総会. 2010 年 7 月 3 日 (名古屋); 1.

Yasuhiro Maeda, Tetsuya Ito, Yoko Nakajima, Sayaka Ichiki, Yukihisa Kurono, Naruji Sugiyama, and Hajime Togari.

Acylcarnitine Analysis in Serum and Urine on Severely Epileptic Children Long-Term Taking Valproic Acid.

Annual Symposium of the Society for the Study of Inborn Errors of Metabolism.

2010 年 8 月 31 日-9 月 3 日 (Istanbul, Turkey); 107-P

Sayaka Ichiki, Yoko Nakajima, Tetsuya Ito, Yasuhiro Maeda, Yukihisa Kurono, Naruji Sugiyama, and Hajime Togari.

Distribution of Pivaloylcarnitine after Administration of Pivalate containing Antibiotics in Rat.

Annual Symposium of the Society for the Study of Inborn Errors of Metabolism.

2010 年 8 月 31 日-9 月 3 日 (Istanbul, Turkey); 144-P

前田康博, 一木沙耶香, 伊藤哲哉, 那須徹也, 中島葉子, 小田晴香, 黒野幸久, 木村和哲,
杉山成司, 戸苅創

Cefditoren pivoxil を服用させたラット組織中ピバロイルカルニチンおよびピバロイル-CoA の
定量

第 35 回日本医用マススペクトル学会年会. 2010 年 9 月 9-10 日 (名古屋); P19

三雲真由美, 縣優介, 前田康博, 橋爪博隆, 小野正孝, 漸井美穂, 小川洋史, 黒野幸久, 木
村和哲

LC-MS/MS による血清 ADMA 濃度測定とその臨床的意義の検討

第 35 回日本医用マススペクトル学会. 2010 年 9 月 9-10 日 (名古屋); P14

Yuji Hotta, Risa Ohno, Tomoya Kataoka, Arufumi Shiota, Yasuhiro Maeda, Masae Ohno, and Kazunori Kimura.

The Effect of Daily Treatment of Vardenafil Remained after the End of the Treatment in Rats with Arterio-genic Erectile Dysfunction.

The 14th World Meeting of the International Society for Sexual Medicine.

2010 年 9 月 29 日 (Seoul, Korea); 169.

Tomoya Kataoka, Mayumi Mikumo, Risa Ohno, Arufumi Shiota, Yuji Hotta, Masae Ohno, Yasuhiro Maeda, and Kazunori Kimura.

Relevance of Estradiol - Testosterone Balance in Erectile Function of Rats.

The 14th World Meeting of the International Society for Sexual Medicine.

2010 年 9 月 27 日 (Seoul, Korea); 014.

山本清司, 上野朋子, 小島基嗣, 松尾一典, 松本晴年, 浅野知子, 近藤勝弘, 黒田純子, 江
崎哲夫, 小池香代, 木村和哲

持参薬管理業務の短縮を目指した薬剤部内「持参薬チーム」の運用について

第20回日本医療薬学会年会. 2010年11月13日 (千葉); O6-10.

黒田純子, 近藤勝弘, 塩田有史, 吉川一規, 市原葉月, 植田翔子, 前田祐香, 辻かおり, 小松弘和, 木村和哲

閉鎖式抗がん剤調整補助具使用開始前後の検討

第20回日本医療薬学会年会. 2010年11月14日 (千葉); O7-06.

前田徹, 飯塚成志, 浅井清文, 明石恵子, 早野順一郎, 木村和哲, 鈴木匡

地域参加型学習を取り入れた医・薬・看護学部連携チームによる早期体験学習の取り組み

第20回日本医療薬学会年会. 2010年11月13日 (千葉); P1-585.

【臨床薬学分野】

(原報)

Kayoko Maezawa, Tamihide Matsunaga, Takashi Takezawa, Makoto Kanai, Satoshi Ohira, and Shigeru Ohmori

Cytochrome P450 3As gene expression and testosterone 6 β -hydroxylase activity in human fetal membranes and placenta at full term.

Biol. Pharm. Bull., **33**, 249-254 (2010).

井出貴之, 勝山善彦, 小川由則, 酒井圭一, 本郷一博, 松永民秀, 大森 栄
S-1によるフェニトイン中毒の早期発現症例

日病薬誌, **46**, 789-791 (2010).

(総説・著書・総合論文など)

松永民秀, 大森 栄

ES細胞の肝細胞への分化と薬物動態試験への応用

医学のあゆみ, **232**, 99-104 (2010).

岡田浩美, 鈴木 匡, 木村和哲, 杉山 正, 土屋照雄, 並木徳之, 賀川義之, 藤井 聡
薬剤師リカレント体験学習の実施とその評価—患者生体情報としてのバイタルサイン学習法の構築—

月刊薬事, **52**, 139-142 (2010).

(その他の著書)

なし

(特許申請)

なし

(学会発表)

鈴木 匡, 岡田浩美, 木村和哲, 平嶋尚秀, 前田 徹, 小野秀樹, 藤井 聡 他

三公立連携薬剤師生涯学習支援講座：実習プログラムの試みと評価

第130年会日本薬学会 2010年3月(岡山)

前田 徹, 飯塚成志, 浅井清文, 明石恵子, 早野順一郎, 木村和哲, 鈴木 匡

地域に根付いた医療人教育を目指した医・薬・看護学部連携チームによる地域参加型早期体験学習の取り組み

日本薬学会第130年会 2010年3月(岡山)

渡邊陽子, 清水由布子, 三角吉代, 増田 匡, 松永民秀, 鈴木 匡, 飛田秀樹

プレイオトロフィンによるドパミン神経保護作用

第88回日本生理学会 第116回日本解剖学会総会・全国学術集会合同大会(横浜)

2010年3月28日 P1-388

堀 英生, 菊池千草, 前田 徹, 松永民秀, 鈴木 匡

糖尿病薬物治療患者の心理状態を理解できる薬剤師養成方法の検討

日本薬学会第 130 年会. 2010 年 3 月 28 日 (岡山) ; 28CG-pm09

菊池千草, 堀 英生, 梶栗潤子, 伊藤猛雄, 松永民秀

PKC を介した 2 型糖尿病モデルラット血管壁におけるスーパーオキシド産生増加機序の検討

日本薬学会第 130 年会. 2010 年 3 月 28 日 (岡山) ; 28P-pm173

佐藤大介, 前田 徹, 一木沙耶香, 中島葉子, 伊藤哲哉, 戸苅 創, 松永民秀

糖原病 Ib 型患者の肝臓 G6PT 機能評価

日本薬学会第 130 年会. 2010 年 3 月 28 日 (岡山) ; 28P-pm343

松永民秀【依頼講演】

サル胚性幹細胞の肝細胞への分化と薬物代謝に関与するシトクロム P450 の mRNA 発現

日本薬学会第 130 年会 130 年会記念融合型シンポジウム. 2010 年 3 月 29 日 (岡山) ; MS09-3

菊池千草, 堀 英生, 今枝憲郎, 岡山直司, 神谷吉宣, 水野達央, 加藤岳史, 鈴木 匡, 松永民秀

2 型糖尿病患者の血糖値に対してスタチンが与える影響の性差に関する検討.

第 53 回日本糖尿病学会年次学術集会. 2010 年 5 月 29 日 (岡山) ; III-16-1

松澤直樹, 中村克徳, 百瀬泰行, 松永民秀, 松田正之, 大森 栄

CYP2C19 遺伝子多型によるサリドマイド体内動態変化に関する研究

第 37 回日本トキシコロジー学会学術年会. 2010 年 6 月 16 日 (宜野湾) ; P-81

前澤佳代子, 松永民秀, 竹澤 崇, 金井 誠, 大平哲史, 木津純子, 大森 栄

ヒト卵膜および胎盤における CYP3A 遺伝子の発現と Testosterone 6 β -水酸化活性

医療薬学フォーラム 2010/第 18 回クリニカルファーマシーシンポジウム.

2010 年 7 月 11 日 (広島)

渡邊陽子, 三角吉代, 増田 匡, 松永民秀, 鈴木 匡, 飛田秀樹

プレイオトロフィンによるドパミン神経保護作用

Neuro2010.2010 年 9 月 2 日 (神戸) ; P1-f02

渡邊陽子、清水由布子、三角吉代、増田 匡、松永民秀、鈴木 匡、飛田秀樹

プレイオトロフィンのドパミン神経保護作用—in vivo での証明—

第 57 回中部日本生理学会. 2010 年 10 月 16 日 (名古屋) ; O-27

丸山順也、坂本 栄、松永民秀、中村克徳、菊池伸次、大森 栄

サル ES 細胞の肝細胞への分化と薬物動態研究

日本薬物動態学会 第 25 回年会, 2010 年 10 月 7 日 (大宮) 1-P-75

土屋広行、松永民秀、中村克徳、市川比奈子、佐々木克典、大森 栄

ヒト ES 細胞由来肝細胞の CYP1A 誘導剤検出系としての評価

日本薬物動態学会 第 25 回年会, 2010 年 10 月 8 日 (大宮) ; 2-P-39

菊池千草、加藤真梨、堀 英生、加藤岳史、今枝憲郎、岡山直司、松永民秀

2 型糖尿病患者におけるスタチンの糖代謝に及ぼす影響の性差とその要因の解析

第 20 回日本医療薬学会年会. 2010 年 11 月 13 日 (千葉) ; P1-497

鈴木 匡、高尾 雅春、坂 明展

大学と保険薬局の連携による新しい薬剤師研修方法の開発

第 20 回日本医療薬学会年会. 2010 年 11 月 13 日 (千葉) P1-581

堀 英生、菊池千草、永味千枝、竹内正義、松永民秀

1 型糖尿病モデルラットの大腿動脈における酸化ストレスの亢進とその機序の解明

第 20 回日本医療薬学会年会. 2010 年 11 月 13 日 (千葉) ; P1-498

新美德洋、石田紀子、奥村算浩、加藤潤、川本鈴子、菊池千草、白井直子、椿井信仁、新田和弘、元山真理子、山田和正、廣瀬君江、浅井宏樹、勝見章男

アンケート方式による勤務薬剤師 意識調査

第 25 回東海薬剤師学術大会. 2010 年 11 月 21 日 (静岡)

青沼安希子、鈴木英二、中村克徳、松永民秀、大森 栄

正常ヒト胎児肝細胞の CYP3A 発現に対する擬似低酸素誘導化合物の効果

第 20 回日本病院薬剤師会東海ブロック学術大会・平成 22 年度日本薬学会東海支部例会.

2010 年 11 月 28 日 (静岡) ; D-21

佐藤大介、張本伸彦、前田 徹、伊藤哲哉、戸苅 創、松永民秀

G6PT 機能低下による酸化産生機序の解明

第 33 回 日本分子生物学会 2010 年 12 月 10 日(神戸); 4P-1111

5 科学研究費等補助金

平成22年度

(代表)					
所属分野名	補職名	氏名	研究種目	研究課題名	金額 (千円)
生命分子構造学	准教授	水島 恒裕	特定領域	20Sプロテアソーム複合体構築に関するシャペロン蛋白質の構造及び作用機構解析	2,900
遺伝情報学	教授	星野 真一	新学術領域	mRNA3'末端プロセッシングを標的とした遺伝子発現調節・RNA品質管理機構の解明	19,500
薬化学	准教授	中川 秀彦	新学術領域	活性酸素シグナル解明のためのピンポイントNO類ドナー	2,600
精密有機反応学	教授	樋口 恒彦	基盤 (A)	化学進化的合成化学による医薬機能分子の汎用性ある効率的創製	4,400
細胞分子薬効解析学	教授	今泉 祐治	基盤 (B)	カルシウム活性化カリウムチャネルの新たな分子機能と創薬の新展開	3,600
薬科学	教授	宮田 直樹	基盤 (B)	エピジェネティックに遺伝子発現を制御する医薬品候補化合物の創製	2,600
遺伝情報学	教授	星野 真一	基盤 (B)	eRF3ファミリーG蛋白質によるmRNA品質管理機構の解明	3,500
分子生物薬学	教授	今川 正良	基盤 (B)	脂肪細胞分化のひきがねとして機能する因子群のシグナル伝達関連の機構解明	3,400
病態生化学	教授	眼部 光治	基盤 (B)	脳における神経細胞層構造の、「形成」と「維持」を制御する分子メカニズム	5,800
コロイド高分子物性学	准教授	山中 淳平	基盤 (C)	熱アニーリングによる高品質コロイド結晶材料の作成	600
機能分子構造学	准教授	池田 慎一	基盤 (C)	ニッケル触媒による新規溝呂木ヘック型ドミノ反応の開発	1,400
生体防御機能学	教授	小野崎 菊夫	基盤 (C)	インターロイキン1の作用発現とその制御に関する研究	1,200
分子生物薬学	准教授	長田 茂宏	基盤 (C)	ヒストン関連因子の機能的相互作用の解析および細胞がん化における意義	1,200
中枢神経機能薬理学	教授	小野 秀樹	基盤 (C)	脊髄損傷の電気生理学的機能評価法の確立と薬効評価	1,000
臨床薬学教育研究センター	教授	松永 民秀	基盤 (C)	ヒト胎児肝細胞におけるCYP3A分子種の発現変動要因の解明	500
薬物動態制御学	教授	湯浅 博昭	基盤 (C)	HCT-15細胞型Na ⁺ 依存性グリセロールトランスポーターの同定と輸送機能解明	700
中枢神経機能薬理学	准教授	田辺 光男	基盤 (C)	慢性疼痛治療における神経伝達調節レベルの薬効評価に基づいた創薬基盤の創設研究	1,000
医薬品代謝解析学	教授	林 秀敏	基盤 (C)	メタボリックシンドロームにおけるストレスとサイトカインシグナルのクロストーク	1,000
細胞分子薬効解析学	准教授	大矢 進	基盤 (C)	新規カルシウム活性化カリウムチャネル機能不全体の発現調節と関連疾患での役割	1,100
生体超分子システム解析学	准教授	田中 正彦	基盤 (C)	小脳プルキンエ細胞が複雑かつ秩序立った形態の樹状突起を形成する分子機構の解析	1,500
薬品合成化学	准教授	近藤 和弘	基盤 (C)	枯渇危惧なレアメタルを用いない、高クラーク数元素を用いる触媒的合成反応の開発	1,800

生薬学	教授	水上 元	基盤 (C)	植物糖転移酵素を利用した機能性化合物の糖鎖構築と消化管吸収性の改善	1,300
薬物送達学	教授	尾関 哲也	基盤 (C)	悪性脳腫瘍および結核治療のための新規ナノ粒子製剤の設計	1,500
薬化学	准教授	中川 秀彦	基盤 (C)	新規TEMPO誘導体をMRI造影剤とするオルガネラ酸化ストレスイメージング	1,300
生体防御機能学	准教授	瀧井 猛将	基盤 (C)	結核菌生菌特異的な宿主細胞傷害活性におけるインターロキン1産生誘導機構の解析	1,300
病態解析学	教授	藤井 聡	基盤 (C)	新規S1P供与体を用いた初期動脈硬化病変の先駆的治療法の開発	1,200
薬品合成化学	教授	中村 精一	基盤 (C)	アザスピロ構造を特徴とする海産天然物の全合成研究	900
細胞分子薬効解析学	講師	山村 寿男	若手 (B)	血管平滑筋カルシウムマイクロドメインを構成する新規分子群の一分子可視化解析	1,200
精密有機反応学	准教授	梅澤 直樹	若手 (B)	タンパク質の部位特異的蛍光修飾法の開発とその応用	1,200
薬物動態制御学	助教	太田 欣哉	若手 (B)	蛍光性基質を利用した有機カチオントランスポーター類の新規機能評価系の開発	1,600
病態解析学	助教	岩城 壮一郎	若手 (B)	動脈硬化発症の初期病変を効率的に評価可能なバイオマーカーの探索	900
生薬学	助教	寺坂 和祥	若手 (B)	植物の二次代謝産物配糖体生成に関わる糖鎖伸長酵素の分子基盤の解明	1,500
コロイド高分子物性学	助教	豊玉 彰子	若手 (B)	荷電コロイド系の結晶核生成および成長過程のその場・実時間観察	2,200
遺伝情報学	助教	細田 直	若手 (B)	翻訳停止を感知しmRNA分解経路を規定する分子基盤	1,700
精密有機反応学	助教	加藤 信樹	若手 (B)	新規カスケード反応を基盤とする複雑な分子構造を持つ天然物の全合成研究	1,700
生命分子構造学	助教	矢木 宏和	若手 (B)	これまで植物糖として考えられてきたキンロース含有糖鎖の神経系における機能の解明	1,600
生体防御機能学	助教	伊藤 佐生智	若手 (B)	創薬に指向した黄色ブドウ球菌免疫かく乱タンパク質ファミリーSSLの機能解析	1,200
医薬品代謝解析学	助教	伊藤 友香	若手 (B)	TGF β による脂肪滴蓄積能の変化と治療薬開発に向けた新規制御因子の同定	1,800
分子生物薬学	講師	西塚 誠	若手 (B)	脂肪細胞分化を促進するfad104の肺形成における機能の解析	1,600
病態生化学	助教	馬場 敦	若手 (B)	神経細胞においてスフィンゴミエリン合成酵素の局在と活性を制御する分子メカニズム	1,800
薬化学	特任助教	津元 裕樹	若手 (B)	質量分析法を用いた細胞内ニトロキシルの高感度検出法の開発	1,800
薬物動態制御学	准教授	井上 勝央	若手 (B)	外因性の尿酸前駆体物質及び尿酸に対するヒト特異的な生体防御機構の解明	1,800
病態生化学	助教	河野 孝夫	研究スタート	脳形成に必須な分泌蛋白質リーリンの、特異的分解による機能制御機構の解	1,260

平成22年度 厚労科研費

研究種目	所属分野名	研究者	補職名	分担金配 分額 (千円)	課題名
食品の安心・安全確保推進研究 事業	臨床薬学教育研究センター	松永 民秀	教授	3,000	いわゆる「健康食品」と医薬品 との併用に関わる安全性評価に 関する研究
(地球規模保健課題推進研究事 業(国際医学協力研究事業))	生体防御機能学	瀧井 猛将	准教授	400	国際共同基盤研究に応用する抗 酸菌感染症研究の整備
食品の安心・安全確保推進研究 事業	生薬学	水上 元	教授	1,500	既存添加物の有効性と品質を確 保するための規格試験法の開発
創薬基盤推進研究事業	生薬学	牧野 利明	准教授	1,800	漢方薬の作用機序を解明するた めの研究
化学物質リスク研究事業	細胞分子薬効解析学	今泉 祐治	教授	2,800	カーボンナノマテリアルによる 肺障害と発がん作用の中期評価 法とその作用の分子機序解析法 の開発に関する研究
政策創薬総合研究事業	生体防御機能学	瀧井 猛将	准教授	800	新興・再興感染症を標的とした プライムブーストワクチンの開 発と有効性・安全性評価システ ムの構築
政策創薬総合研究事業	臨床薬学教育研究センター	松永 民秀	教授	3,000	医薬品開発のための副作用予測 法・評価法の開発
政策創薬総合研究事業	臨床薬学教育研究センター	松永 民秀	教授	2,000	創薬研究における人由来初代細 胞および幹細胞の利用円滑化に 向けた研究
政策創薬総合研究事業	生薬学	水上 元	教授	1,000	天然物医薬品の評価手法と標準 化に関する研究

「その他の研究補助金」

科学技術振興機構 研究成果最適展開支援事業 A-STEP【FS】探索タイプ（平成22年度）
研究課題名 ミトコンドリア特異的光制御型NO発生試薬セットの開発（代表）
氏名 中川秀彦
金額（千円） 1,300

科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業 さきがけ（平成22年度）
研究課題名 二光子励起で発生させるガス状細胞情報伝達分子を駆使したストレス計測（代表）
氏名 中川秀彦
金額（千円） 7,320

科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業 さきがけ
研究課題名 エピジェネティクス制御化合物の創製と応用（代表）
氏名 鈴木 孝禎
金額（千円） 13,000

蓬庵社研究助成金
研究課題名 触媒メカニズムに基づいたヒストン脱メチル化酵素阻害薬の創製（代表）
氏名 鈴木 孝禎
金額（千円） 500

松籟科学技術振興財団研究助成金
研究課題名 クリックケミストリーを利用した環境調和型ポリマー担持触媒の開発（代表）
氏名 鈴木 孝禎
金額（千円） 1,000

平成22年度名古屋市立大学特別研究奨励費
研究課題名 抗腫瘍性サポニンの化学合成（代表）
氏名 中村 精一
金額（千円） 500

財団法人 コスメトロジー研究振興財団
研究課題名 デコイ・メラノソームを用いたメラノサイトからケラチノサイトへのメラニン
移送阻害の研究（代表）
氏名 平嶋 尚英
金額（千円） 500

公益財団法人 蓬庵社
研究課題名 マスト細胞からのヒスタミン放出機構の解明
氏名 平嶋 尚英
金額（千円） 2,000

財団法人 医科学応用研究財団
研究課題名 幹細胞由来分泌細胞によるオーダーメイドDDS細胞の構築の基礎研究
氏名 平嶋 尚英

金額（千円） 1, 0 0 0

J S T シーズ育成研究

研究課題 高品質コロイド単結晶を用いた分光素子および超小型分光光度計の開発

氏名 山中 淳平

金額（千円） 1 4, 3 0 8

文部科学省ターゲットタンパク研究プログラム

研究課題 巨大で複雑なタンパク分解装置の動態と作動機構（分担）

1：プロテアソームを舞台とするタンパク間相互作用ネットワークの NMR 解析

2：立体構造を基盤とした分子集合装置によるプロテアソーム複合体構築機構の解析

氏名 加藤 晃一、水島 恒裕

金額（千円） 1 8, 4 6 0

保健医療分野における基礎研究推進事業研究プロジェクト

研究課題 抗体医薬品等のバイオ医薬品の合理的開発のための医薬品開発支援技術の確立を目指した研究（分担）

担当課題 NMR を利用した抗体の高次構造解析

氏名 加藤 晃一

金額（千円） 1 1, 3 0 4

第 3 9 回内藤記念特別研究助成金

研究課題 HMK-1 glyco-epitopes carried by the largest Tenascin-C spliced variant regulate Proliferation of mouse embryonic neural stem cell（代表）

氏名 矢木 宏和

金額（千円） 5 0 0

（社）日本化学工業協会長期自主研究（LRI）第 11 期

研究題目 ジェネティクスおよびエピジェネティクス異常を介した細胞がん化機構の
解明

氏名 長田 茂宏

金額（千円） 5,0 0 0

（財）三井住友海上福祉財団 2010 年度研究助成

研究題目 脂肪細胞ならびに骨細胞分化を制御する遺伝子 fad104 に着目した肥満および
骨粗鬆症治療薬開発のための基盤研究

氏名 西塚 誠

金額（千円） 1,1 0 0

（財）市原国際奨学財団研究助成金

研究題目： 肺結核治療のための経肺投与ナノ粒子ドラッグ・デリバリーシステムの創製（代

表)

氏名： 尾関 哲也
金額（千円） 500

（財）一般用医薬品セルフメディケーション振興財団平成22年度調査研究助成金
研究題目： OTC薬の製剤設計に自由を与える Cocrystal 技術の活用（代表）
氏名： 尾関 哲也
金額（千円） 1,000

厚生労働科学研究費 平成22年度 創薬基盤推進研究事業 研究分担者
研究課題名 漢方薬の作用機序を解明するための研究
氏名 牧野利明
金額（千円） 1,800

厚生労働科学研究費 平成22年度 創薬基盤推進研究事業 研究協力者
研究課題名 漢方薬に使用される薬用植物の総合情報データベース構築のための基盤整備に関する研究
氏名 牧野利明
金額（千円） 500

JST 研究成果最適展開支援事業（A-STEP）探索タイプ 平成22年度 研究代表者
研究課題名 配糖化による機能性食品素材の消化管吸収の改善
氏名 牧野利明、寺坂和祥
金額（千円） 1,300

喫煙科学財団研究助成
研究科題名 喫煙と関節リウマチに関する研究（代表）
氏名 小野寄 菊夫
金額（千円） 2,000

厚生労働科学研究費助成金・地球規模保険課題推進研究事業
研究科題名 国際共同基盤研究に応用する抗酸菌感染症研究の整備（分担）
氏名 瀧井 猛将
金額（千円） 400

ヒューマンサイエンス振興財団・政策創薬総合研究事業
研究科題名 細菌性ベクター及び粘膜アジュバントを用いた新興・再興感染症に対する新規予防・治療法の開発（分担）
氏名 瀧井 猛将
金額（千円） 800

厚生労働省研究補助金・化学物質リスク研究事業
研究課題名 カーボンナノマテリアルによる肺障害と発がん作用の中期評価法とその作用の分子機序解析法の開発に関する研究（分担）
氏名 今泉 祐治
金額（千円） 2,800

(財) 喫煙科学研究財団

研究課題名 ニコチンによる神経細胞内 Ca^{2+} シグナル調節のイオン機構と神経保護作用 (代表)

氏名 今泉 祐治

金額 (千円) 1, 500

ソルト・サイエンス研究財団

研究課題名 電位依存性及びカルシウム活性化カリウムチャネルの多様な生理機能と病態的意義 (代表)

氏名 大矢 進

金額 (千円) 1, 400

医科学応用財団研究助成金

生後における脳の層構造「破綻」と、その精神神経疾患発症における意義 (代表)

氏名 服部 光治

金額 (千円) 1,000

第35回 (平成22年度) がんその他の悪性新生物研究助成金

研究課題名 核酸塩基トランスポーターENBT1を利用したがん細胞特異的な抗がん剤のデリバリー

氏名 井上勝央

金額 (千円) 500

ホクト生物科学振興財団平成22年度研究奨励金

研究課題名 キノコ製品の痛風予防効果と小腸尿酸排泄系に対する影響の相関性

氏名 井上勝央

金額 (千円) 500

名古屋市立大学特別研究

大学間交流締結校である瀋陽医学院との交流拡充および瀋陽薬科大学との大学間交流協定締結に向けて (代表)

(氏名) 藤井 聡

金額 (千円) 500

日中医学協会 調査・共同研究助成

早期動脈硬化症に特異的変動を示し血管病変を効率よく評価しうる新規マイクロRNAバイオマーカーの同定と日本人・中国人での比較 (代表)

(氏名) 藤井 聡

金額 (千円) 900

財団法人一般用医薬品セルフメディケーション振興財団 調査研究助成

既卒薬剤師リカレント教育への症候論の導入によるセルフメディケーションの向上 (代表)

(氏名) 藤井 聡

金額 (千円) 500

日本褥瘡学会研究助成

褥瘡治療用外用薬の吸水性の評価に関する研究 (代表)

(氏名) 藤井 聡
金額(千円) 400

大幸財団第25回海外学術交流研究助成
第6回アジア太平洋血栓止血学会(代表)

(氏名) 藤井 聡
金額(千円) 170

名古屋市立大学特別研究
高血圧症患者の血管内皮機能に影響する心理社会的要因の解明に関する研究(分担)

(氏名) 藤井 聡
金額(千円) 85

平成22年度 名古屋市立大学国際学会支援事業

(氏名) 伊藤 史織
金額(千円) 100
(氏名) 小池 慶子
金額(千円) 100

平成22年度名古屋市立大学特別研究奨励費

研究課題名 リアルタイム調節を目指したUGT1A1タンパク質の発現および活性制御機構の解明(代表)

氏名 伊藤 友香
金額(千円) 500

平成22年度名古屋市立大学特別研究奨励費

研究課題名 新規癌遺伝子候補分子TRBsによる細胞周期チェックポイントの破綻機構の解明-分子標的治療薬の開発を目指して-(代表)

氏名 酒井 聡
金額(千円) 500

文部科学省 都市エリア産学官連携推進事業

健康・安全な長寿社会を支援する水産資源活用技術の創出(分担)

氏名 大澤 匡弘
金額(千円) 3,000

愛知腎臓財団研究助成費

研究課題名 CKDモデルラットにおける血管内皮機能障害およびエゼチミブ投与の効果(代表)

氏名 木村 和哲
金額(千円) 100

平成22年度名古屋市立大学特別研究奨励費(医・薬・看の連携研究の推進):新規

研究課題名 高血圧症患者の血管内皮機能に影響する心理社会的要因の解明に関する研究(分担)

氏名 前田 徹
金額（千円） 1,000

平成 22 年度 名古屋市立大学特別研究奨励費（医・薬・看の連携研究の推進）：新規
研究課題名 体験入院を通して患者の視点から見たチーム医療の課題発掘研究（分担）
氏名 鈴木 匡, 前田 徹
金額（千円） 1,500

平成 22 年度 名古屋市立大学 特別研究奨励費：新規
研究課題名 ヒト iPS 細胞から小腸上皮細胞への分化および機能解析
氏名 岩尾 岳洋
金額（千円） 500

平成 22 年度 名古屋市立大学 特別研究奨励費：新規
研究課題 2 型糖尿病における血管障害発症機序の解明とスタチンの多面的作用の検討（代表）
氏名 菊池 千草
金額（千円） 500

信州大学（奨励寄附金）
研究課題名 ヒト胎児肝細胞及びヒト iPS 細胞の薬物動態研究への応用（代表）
研究期間 平成 21 年度
氏名 松永 民秀
金額（千円） 5,000

日本イーライ・リリー 教育・研究助成金：新規
研究課題名 糖尿病における下肢閉塞性動脈硬化症発症機序の解明（代表）
研究期間 平成 22 年度
氏名 松永 民秀
金額（千円） 500

6 学外との共同研究等

「学外との共同研究等」

共同研究

宮田 直樹、鈴木 孝禎
「新規生理活性化合物の創製研究」
(小野薬品工業株式会社)

宮田 直樹、鈴木 孝禎
「新規HDAC阻害の創製」
(理化学研究所)

山中 淳平
「コロイド結晶の新規光学素子応用に関する研究」
(富士化学株式会社)

加藤 晃一、水島 恒裕
「ヒトIgG1とヒトFcγ受容体IIIaとの結合状態の構造解析」
(協和発酵工業株式会社 バイオフロンティア研究所)

加藤 晃一、栗本 英治
「味覚変調蛋白質の立体構造形成と機能発現に関する研究」
(味の素株式会社ライフサイエンス研究所)

加藤 晃一、水島 恒裕、坂田 絵理
「ユビキチンプロテアソームシステムの構造生物学」
(東京都臨床医学総合研究所、東京大学大学院薬学系研究科)

加藤 晃一、高橋 禮子、矢木 宏和
「ウイルスや宿主細胞が発現する糖鎖の迅速解析、糖鎖とタンパク質の三次元構造と相互作用解析」
(中部大学生命健康科学部)

加藤 晃一、山口 芳樹、神谷 由紀子
「NMRを利用した細胞内レクチンの糖鎖認識機構の構造生物学的解析」
(理化学研究所中央研究所)

加藤 晃一、山口 芳樹
「自己組織化中空錯体へのタンパク質包接と構造解析」
(東京大学大学院工学系研究科)

加藤 晃一、栗本 英治
「自己組織化ナノ内面の化学」
(東京大学大学院工学系研究科)

加藤 晃一、山口 芳樹
「NMRを利用した糖タンパク質および糖鎖認識タンパク質の構造生物学的解析」

(国立医薬品食品衛生研究所)

加藤 晃一、矢木 宏和

「植物細胞を利用して調製した糖タンパク質のN型糖鎖の構造解析」
(Chung-Ang University)

水島 恒裕、矢木 宏和

「920MHz 超高磁場NMR装置を用いたタンパク質・複合糖質の構造解析」
(分子科学研究所分子スケールナノサイエンスセンター)

今川 正良、長田 茂宏、西塚 誠

「脂肪細胞分化におけるイオンチャンネル遺伝子の機能解析」
(独立行政法人 家畜改良センター)

尾関 哲也

「プロピベリン塩酸塩の苦味マスキング製剤の開発」
(大鵬薬品工業株式会社)

牧野利明、水上 元

「漢方エキスの薬効評価及び活性成分の探索」
(ロート製薬株式会社)

今泉 祐治、大矢 進

「前立腺肥大症の細胞増殖機構の解明」
(大鵬薬品工業株式会社, 名古屋市立大学大学院医学研究科腎・泌尿器科学分野)

鈴木 匡

「薬剤師および薬学生教育研修用教材開発研究」
(株式会社スズケン)

連携研究

中川 秀彦

「抗プリオン活性化化合物に関する研究」
(広島大学大学院医歯薬学総合研究科、帝京大学薬学部、東北大学大学院医学系研究科、北海道大学大学院獣医学研究科、明治大学理学部)

中川 秀彦

「光制御型 NO 放出化合物に関する研究」
(東邦大学理学部)

中川秀彦

「光制御型 NO 放出化合物の生物応用に関する研究」
(生理学研究所)

樋口 恒彦

「電場形成分子-色素複合体の Stark 分光学による電場評価」
(橋本 秀樹 教授 大阪市立大学 大学院理学研究科)

樋口 恒彦
「車両等工業製品の合成 DNA による汎用性の高い標識化」
(日産自動車 (株)、オペロンバイオテクノロジー (株))

樋口 恒彦、梅澤 直樹
「 γ -セクレターゼ阻害剤と酵素機能探索分子の開発」
(東京大学大学院薬学研究科)

樋口 恒彦
「シトクロム P450, NO 合成酵素モデル錯体の共鳴ラマン分光による解析」
(石森 浩一郎 教授、北海道大学大学院理学研究院)

平嶋 尚英
「バイオサーファクタントの抗アレルギー活性の研究」
(東洋紡績株式会社、産業技術総合研究所)

田中 正彦
「小脳発達研究における GABA 作動性神経細胞可視化技術の応用」
(群馬大学大学院医学系研究科)

田中 正彦
「小脳発達における myosin Va の役割の研究」
(名古屋大学環境医学研究所)

加藤 晃一、山口 芳樹
「耐熱性カビプロテインジスルフィドイソメラーゼの NMR による高次構造解析」
(株式会社豊田中央研究所)

加藤 晃一
「安定同位体利用 NMR 法による複合糖質の構造解析技術の開発」
(理化学研究所ゲノム科学総合研究センター)

加藤 晃一、栗本 英治
「免疫系レセプター分子の NMR 構造解析」
(九州大学生体防御医学研究所)

加藤 晃一、山口 芳樹、坂田 絵理
「マシャド・ジョセフ病原因遺伝子産物 ataxin-3 の高次構造解析」
(The Scripps Research Institute)

加藤 晃一、神谷 由紀子
「ペプチド: N-グリカナーゼの構造解析」
(理化学研究所)

加藤 晃一、水島 恒裕、神谷 由紀子
「タンパク質の細胞内における品質管理・輸送に関わる糖鎖認識タンパク質の構造・機能解析」
(高エネルギー加速器研究機構)

加藤 晃一、山口 芳樹、高橋 禮子、神谷 由紀子
「カーゴレセプターの構造と機能に関する研究」
(東京大学新領域創成科学研究科)

加藤 晃一、山口 芳樹、栗本 英治、神谷 由紀子
「プロテインジスルフィドイソメラーゼの立体構造変化に関する研究」
(慶応大学理工学部、九州大学生体防御医学研究所)

加藤 晃一、水島 恒裕、神谷 由紀子
「カーゴレセプターの分子認識に関する研究」
(University of Basel)

加藤 晃一、栗本 英治、神谷 由紀子、矢木 真穂
「コラーゲン特異的分子シャペロン Hsp47 および小胞体関連分解に関わる酵素・レクチンの構造・機能解析」
(京都大学再生医科学研究所)

加藤 晃一、山口 芳樹
「アミロイド β ペプチドとガングリオシド GM1 の相互作用解析」
(国立長寿医療センター研究所)

加藤 晃一、山口 芳樹
「ペルオキシソーム膜形成因子 pex19p の NMR 解析」
(理化学研究所播磨研究所、京都大学大学院薬学研究科)

加藤 晃一、山口 芳樹、栗本 英治、高橋 禮子
「オステオポンチンの NMR による動的な高次構造解析」
(北海道大学遺伝子病制御研究所)

加藤 晃一、山口 芳樹、坂田 絵理
「パーキンソン病原因遺伝子産物 α -synuclein の NMR による動的構造解析」
(東京大学大学院薬学系研究科、東京都精神医学総合研究所)

加藤 晃一、水島 恒裕、栗本 英治、坂田 絵理
「ユビキチンリガーゼ HOIL-1 の高次構造解析」
(大阪市立大学大学院医学研究科)

加藤 晃一、高橋 禮子、矢木 宏和
「カタユウレイボヤの糖鎖プロファイリングおよび糖鎖の機能解析」
(兵庫県立大学理学研究科)

加藤 晃一、矢木 宏和

「質量分析装置を用いたプロテオミクス解析」
(京都学園大学バイオ環境学部)

加藤 晃一、高橋 禮子、矢木 宏和
「ウミガメの卵黄に含まれる糖鎖の構造解析」
(Johns Hopkins University)

加藤 晃一、山口 芳樹
「RNA アプタマーと IgG の相互作用解析」
(東京大学医科学研究所、千葉工業大学工学部、株式会社リボミック)

加藤 晃一、矢木 宏和
「カイコを利用して発現した糖タンパク質のN型糖鎖の構造解析」
(九州大学生体防御医学研究所、静岡大学農学部)

加藤 晃一、高橋 禮子、矢木 宏和
「糖鎖-糖鎖相互作用にかかわるN型糖鎖の構造解析」
(University of Washington)

加藤 晃一、山口 拓実、山口 芳樹、矢木 宏和、神谷 由紀子
「NMRを利用したN型糖鎖の立体構造解析」
(マックス・プランク生物物理化学研究所)

加藤 晃一、矢木 宏和
「質量分析装置を用いた糖鎖の構造解析」
(Academia Sinica)

加藤 晃一、栗本 英治
「中性子回折によるタンパク質の結晶構造解析」
(独立行政法人 日本原子力研究開発機構)

加藤 晃一、栗本 英治
「中性子小角散乱測定によるタンパク質複合体の構造解析」
(京都大学原子炉研究所)

加藤 晃一、栗本 英治
「ソバアレルゲンタンパク質の高次構造解析」
(国立衛生研究所)

加藤晃一
「超遠心分析法を利用したタンパク質の相互作用解析」
(大阪大学大学院工学研究科)

加藤晃一、神谷由紀子
「レクチン型分子シャペロンの分子認識に関する研究」
(北海道大学大学院薬学研究科)

加藤晃一、神谷由紀子
「酵母を利用した糖鎖の安定同位体標識法の開発」
(独立行政法人産業技術総合研究所)

加藤 晃一、矢木 宏和
「神経幹細胞における糖鎖の機能解析」
(Georgia Health Science University)

今川 正良
「脂肪細胞分化の分子機構」
(名古屋市立大学大学院医学研究科)

今川 正良
「脂肪細胞分化の分子機構」
(大阪大学微生物研究所附属遺伝情報実験センター)

今川 正良
「脂肪細胞分化の分子機構」
(東京大学大学院農学生命科学研究科)

今川 正良
「脂肪細胞分化の分子機構と糖尿病治療薬の開発」
(日水製薬株式会社)

長田 茂宏
「肝化学発がん腫瘍マーカー陽性細胞における遺伝子発現変化の解析」
(名古屋市立大学大学院医学研究科)

尾関 哲也
「新規スプレーノズルの開発を製剤への応用」
(東京薬科大学薬学部、大川原化工機株式会社)

尾関 哲也
「膜物性制御した α -トコフェロール誘導体ナノ粒子の抗腫瘍効果」
(京都薬科大学)

水上 元、牧野利明
「漢方薬の副作用発現因子成分／バイオマーカーの探索と患者側リスク要因に関する基礎研究」
(株式会社ツムラ)

牧野利明、水上 元
「防風通聖散の作用機序解明に関する研究」
(小林製薬株式会社)

小野寄菊夫
「喫煙と関節リウマチに関する研究」
(金沢大学大学院自然科学研究科, キッセイ薬品工業)

小野寄菊夫

「IL-1 の大量調製に関する研究」
(鹿児島大学農学部)

瀧井猛将

「加齢における BCG 接種の有効性に関する研究」
(国立長寿医療センター研究所、日本BCG研究所)

瀧井猛将

「*Mycobacterium avium* 亜種に関する研究」
(名古屋大学医学部附属病院、国立病院機構東名古屋病院、名城大学薬学部、宮崎大学農学部、大阪市立大学医学部、結核予防会結核研究所)

伊藤 佐生智

「黄色ブドウ球菌の免疫回避に関する研究」
(星薬科大学)

星野 真一

「RNA 代謝機構の物理化学的解析」
(東京大学大学院薬学系研究科)

星野 真一

「翻訳終結因子とアポトーシス制御に関する研究」
(Thomas Jefferson University)

星野 真一

「ポリ(A)鎖結合蛋白質の多量体形成機構の解析」
(東京大学大学院薬学系研究科)

星野 真一

「mRNA 分解調節機構の研究」
(理化学研究所)

星野 真一

「ポリ(A)鎖分解酵素の構造生物学的解析」
(東京大学大学院薬学系研究科)

星野 真一

「Psi+プリオンの生物学的意義の解明」
(Georgia Tech)

星野 真一

「癌抑制遺伝子産物 Tob と CPEB3 複合体の構造解析」
(東京大学医科学研究所、Nankai University)

今泉 祐治

「心血管系におけるイオンチャネルに関する分子薬理学的研究」
(カナダ・カルガリー大学運動生理学部 Wayne R. Giles 教授)

今泉 祐治
「リアノジン受容体に関する分子薬理学的研究」
(カナダ・カルガリー大学医学部 Wayne Chen 教授)

今泉 祐治
「リアノジン受容体に関するトランスポートソーム研究」
(京都大学大学院薬学研究科 竹島 浩教授)

今泉 祐治
「血液-脳関門のイオンチャネルに関する分子薬理学的研究」
(名古屋市立大学大学院医学研究科 浅井 清文教授)

今泉 祐治
「Na⁺-Ca²⁺交換輸送体に関する分子薬理学的研究」
(福岡大学医学部 岩本 隆宏教授)

服部 光治
「細胞内カルシウム動態を制御する分子機構の研究」
(理化学研究所)

服部 光治
「脳の層構造形成を司る巨大分泌タンパク質リーリンのトラフィックに関する研究」
(東京大学薬学部)

服部 光治
「脳の層構造形成を司る巨大分泌タンパク質リーリンの構造に関する研究」
(大阪大学蛋白質研究所)

服部 光治
「脳の層構造形成に関する研究」
(慶應義塾大学医学部)

服部 光治
「小脳におけるリーリン受容体の発現と、その制御に関する研究」
(名古屋大学医学部)

服部 光治
「リーリンの細胞内情報伝達に関する研究」
(理化学研究所脳総合研究センター)

藤井 聡
「高齢者ハイリスク心疾患患者における新たなバイオマーカーの探索」
(北海道大学大学院医学研究科循環病態内科)

藤井 聡

「メタボリックシンドロームの発症、進展にはたす NKT 細胞の役割」
(北里大学医学部免疫学、北海道大学大学院医学研究科循環病態内科)

藤井 聡

「メタボリックシンドロームの発症、進展にはたす線溶系の役割」
(アメリカ合衆国バーモント大学心臓血管研究所)

藤井 聡

「ヒト冠状動脈硬化症の病態形成に關与するマイクロ RNA の解析」
(中国瀋陽医科大学、奉天医院循環器内科)

藤井 聡、岩城 壮一郎

「スフィンゴ脂質と心・血管疾患」
(東京大学大学院医学研究科臨床病態検査医学)

林 秀敏

「性ホルモンと関節リウマチに關する研究」
(北里大学医学部、北海道大学大学院薬学研究科、聖マリアンナ医科大学、愛知学院大学薬学部、キッセイ薬品)

林 秀敏

「ストレスと疾患」
(北海道大学大学院薬学研究科、山口大学大学院医学研究科、富山大学、東京大学大学院農学生命科学研究科、北海道大学大学院農学生命科学研究科、国立長寿医療センター研究所)

林 秀敏

「TGF β のシグナル伝達機構の解析」
(癌研究会癌研究所、筑波大学、浜松医科大学)

木村 和哲

「食品成分の経口投与が性機能に及ぼす影響に關する研究」
(協和発酵バイオ株式会社)

松永民秀

「ヒト胎児肝細胞における CYP3A 分子種の発現変動要因の解明」
(信州大学医学部附属病院)

松永民秀

「ヒト iPS 細胞を利用したビタミン K サイクルを標的とする発がん予防機構の研究」
(信州大学医学部附属病院)

松永民秀

「ヒト iPS 細胞の肝細胞及び胆管上皮細胞への分化と創薬研究への応用」
(信州大学医学部附属病院)

松永民秀

「ヒト ES 細胞の肝細胞への分化に關する研究」

(信州大学医学部附属病院)

松永民秀、岩尾岳洋

「医薬品開発のための副作用予測法・評価法の開発」

(国立成育医療研究センター、田辺三菱製薬株式会社、株式会社トランスパレント、東洋合成工業株式会社)

松永民秀、岩尾岳洋

「創薬研究における人由来初代細胞及び幹細胞の利用円滑化に向けた研究」

(国立医薬品食品衛生研究所、田辺三菱製薬株式会社、小野薬品工業株式会社、九州大学大学院農学研究院、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科)

松永民秀、鈴木 匡、前田 徹、岩尾岳洋

「いわゆる「健康食品」と医薬品との併用に関わる安全性評価に関する研究」

(東北薬科大学薬学部、千葉科学大学薬学部、信州大学医学部附属病院)

松永民秀、岩尾岳洋

「ヒト iPS 細胞の肝細胞への選択的な分化培地の開発研究」

(株式会社プライマリーセル)

松永民秀、前田 徹

「糖原病 Ib 型患者からの iPS 細胞樹立と遺伝病モデル系の構築」

(名古屋市立大学医学部、福島県立大学医学部)

松永民秀、菊池千草

「糖尿病の血管系に及ぼす影響の作用メカニズムの解明」

(名古屋市立大学医学部、名古屋市立大学病院、日本ベクトン・ディッキンソン株式会社)

松永民秀

「ヒト iPS 細胞の肝細胞への分化に関する研究」

(国立成育医療研究センター)

7 新聞報道等

「新聞報道等」

加藤晃一

「不要たんぱく質分解・除去 目印付け仕組み解明」
日経産業新聞 平成 22 年 1 月 19 日

加藤晃一

「細胞中の不要タンパク質 目印をつける仕組み解明」
科学新聞 平成 22 年 1 月 29 日

加藤晃一

「たんぱく質 2 種結合 血液凝固因子を運搬 血栓薬などに応用」
日経産業新聞 平成 22 年 2 月 16 日

加藤晃一

「血液凝固因子の細胞内輸送機構 タンパク質構造から解明」
科学新聞 平成 22 年 3 月 5 日

牧野利明

東洋医学の知識を深めよう、漢方のいいところ
中日新聞ショッパー南エリア版 No. 427 平成 22 年 2 月 26 日

牧野利明

気をつけて！ベニコウジを含んだ食品
健康食品情報誌 あるたな 12 号 平成 22 年 7 月 1 日

牧野利明

ブルーベリーは本当に目に効くの？
健康食品情報誌 あるたな 13 号 平成 22 年 10 月 1 日

藤井 聡

薬剤師の新たな業務—人体モデルで学ぶ
薬事日報 平成 22 年 1 月 1 日

藤井 聡

薬剤師リカレント学習支援プログラム：薬剤師が地域医療をささえるために
薬事日報 平成 22 年 3 月 19 日

藤井 聡

油断しないで！やせた人の生活習慣病
名古屋市地域女性団体連絡協議会会報女性なごや 平成 22 年 8 月 20 日

鈴木 匡

大学での実習を薬剤師のスキルアップに活かす
東海地区・三公立連携薬剤師生涯学習支援講座
調剤と情報 2010 年 8 月号 (vol.16, No.8) pp6-7

8 進路および就職状況

平成22年度学部卒業者の進路

進路状況（生命薬科学科）

	就 職	進 学	そ の 他	未 定	合 計
男	1	20	1	0	22
女	0	12	1	0	13
合計	1	32	2	0	35

進路状況（薬学科4年次）

	就 職	進 学	そ の 他	未 定	合 計
男	0	0	1	0	1
女	0	0	0	0	0
合計	0	0	1	0	1

進路状況（製薬学科4年次）

	就 職	進 学	そ の 他	未 定	合 計
男	0	0	2	0	2
女	0	0	0	0	0
合計	0	0	2	0	2

学部卒業者就職先一覧

産業及び職業分類	男	女	小計	市内	県内	県外
公務	1		1	1		
地方公務	1		1	1		
名古屋市	1		1	1		
合計	1		1	1		

平成22年度博士前期課程修了者の進路

進路状況

	就 職	進 学	そ の 他	未 定	合 計
男	41	6	0	4	51
女	35	3	0	0	38
合計	76	9	0	4	89

博士前期課程修了者就職先一覧

産業及び職業分類	男	女	小計	市内	県内	県外
製造業	23	12	35	11	2	22
化学工業	22	12	34	11	1	22
株式会社 マイクロン	1		1		1	
富士化学工業株式会社		1	1			1
積水メディカル株式会社	1		1			1
株式会社 三和化学研究所	3	1	4	3		1
湧永製薬株式会社	1		1			1
イーピーエス株式会社	4	1	5	3		2
千寿製薬株式会社		1	1			1
明治製菓	1		1			1
中外製薬	1		1			1
大洋薬品工業株式会社	1		1	1		
シオノギ製薬		2	2	1		1
松浦薬業株式会社	2		2	2		
クラシエ製薬株式会社		1	1			1
大日本住友製薬株式会社		1	1			1
日本たばこ産業(株)	1		1			1
資生堂	1		1			1
ライオン	1		1			1
持田製薬株式会社	1		1			1
沢井製薬株式会社	1		1			1
大正製薬株式会社		1	1			1
ニプロファーマ株式会社		1	1			1
株式会社 スズケン		1	1	1		
日本新薬株式会社	1		1			1
株式会社 リニカル	1		1			1
興和株式会社		1	1			1
精密機械器具	1				1	
株式会社メニコン	1				1	
卸売・小売業	5	2	7	3	2	2
小売業	5	2	7	3	2	2
スギヤマ	1				1	
アプロメディカルホールディングス(株)	1					1
有限会社 ヒビノ	1			1		
株式会社アマノ	1			1		
イオンリテール株式会社	1					1
キョーワグループ協和ケミカル株式会社		1		1		
有限会社 エイト		1			1	

医療, 福祉	7	17	24	9	10	4
医療業	7	17	24	9	10	4
松波総合病院		1	1			1
医療法人豊岡会		1	1		1	
愛知県薬剤師会	1		1		1	
名古屋大学医学部付属病院		2	2	2		
名古屋第二赤十字病院	1	2	3	3		
名古屋市立大学病院	2	1	3	3		
名古屋共立病院		1	1	1		
藤田保健衛生大学病院		4	4		4	
一宮市民病院	1		1		1	
春日井市民病院	1		1		1	
NTT西日本九州病院		1	1			1
三重大学医学部付属病院		1	1			1
豊橋市民病院		1	1		1	
医療法人 大雄会		1	1		1	
山田赤十字病院		1	1			1
医療法人 笠寺病院	1		1	1		
公務	6	3	9	9		
地方公務	6	3	9	9		
愛知県	3	2	5	5		
名古屋市	3	1	4	4		
その他		1	1	1		
愛知県がんセンター研究所		1	1	1		
合計	41	35	76	33	15	28

平成22年度博士後期課程修了者の進路
進路状況

	就 職	進 学	そ の 他	未 定	合 計
男	2	0	2	0	4
女	0	0	0	0	0
合計	2	0	2	0	4

博士後期課程修了者就職先一覧

産業及び職業分類	男	女	小計	市内	県内	県外
医療, 福祉	2		2	1		
医療業	2		2			1
名古屋大学大学院薬学部	1					
結核予防会(財)結核研究所	1					
合計	2		2	1	0	1

9 薬学部在籍者名簿

在籍者名簿

[2011年1月1日現在]

薬学研究科長・薬学部長：水上 元（生薬学分野教授兼務）
副 研 究 科 長：小野 秀樹（中枢神経機能薬理学分野教授兼務），
宮田 直樹（薬化学分野教授兼務）

分野名の後の（ ）内は学部学科目名に対応する。

創薬生命科学専攻

医薬化学講座

薬化学分野（薬化学）

教 授：宮田 直樹
准 教 授：中川 秀彦
講 師：鈴木 孝禎
大学院博士後期課程2年：池田 麻美子，菱川 和宏
大学院博士後期課程1年：家田 直哉
大学院博士前期課程2年：池沼 宏，今井 英里佳，亀田 英里，清家 雄，永野 裕樹
平野 達也，堀之内 妙子
大学院博士前期課程1年：小笹 弘貴，粕谷 侑輝，河合 翔太，田中 裕子
卒業 研 究 生 5 年：井原 将太，松原 拓也
卒業 研 究 生 4 年：會澤 和之，小笠原 大介，平石 龍大，武藤 伸輔
若原 周平
卒業 研 究 生 3 年：澤田 英之，服部 弘，福島 直樹

精密有機反応学分野（薬品製造化学）

教 授：樋口 恒彦
准 教 授：梅澤 直樹
助 教：加藤 信樹
大学院博士後期課程1年：今村 優希
大学院博士前期課程2年：齋藤 俊輔，鈴木 潤，田口 知世，野呂 侑加，浜口 雄
大学院博士前期課程1年：北尾 考史，渡辺 二規
卒業 研 究 生 5 年：松浦 秀敏，松下 直樹
卒業 研 究 生 4 年：串田 優，白川 慶典，坂田 陽輔，中田 康敬
卒業 研 究 生 3 年：天野 祐一，藤川 鷹王
研 究 員：小林 由布子

薬品合成化学分野（薬品合成化学）

教 授：中村 精一
准 教 授：近藤 和弘
大学院博士前期課程 2年：稲葉 綾子，櫻井 扶美恵，鈴木 雄大，横山 拓也
卒業 研 究 生 5年：佐野 亜由美，古川 崇
卒業 研 究 生 4年：坂崎 美香，讃井 しおり，竹田 英祐，古田 愛果
卒業 研 究 生 3年：沖塚 翔太，鈴木 恵介
研 究 生：戸井田 明憲（北海道大学）

機能分子構造学分野（物理分析化学）

准 教 授：池田 慎一
講 師：白井 直洋
大学院博士後期課程 2年：鈴木 賀央里
卒業 研 究 生 5年：山田 健司
卒業 研 究 生 4年：森 みな美
卒業 研 究 生 3年：森田 有香

生命分子薬学講座

生体超分子システム解析学分野（薬品分析化学）

教 授：平嶋 尚英
准 教 授：田中 正彦
助 教：田所 哲
客 員 准 教 授：古野 忠秀（愛知学院大学）
大学院博士後期課程 3年：野村 英宏
大学院博士後期課程 2年：田原 耕平
大学院博士前期課程 2年：末永 智宏，鈴木 敬昌，廣瀬 裕之，山之上 潔
大学院博士前期課程 1年：大橋 令
卒業 研 究 生 5年：石川 万里子，児玉 卓也，西本 綾
卒業 研 究 生 4年：亀川 沙知，堀江 侑季，笹野 綾乃，西川 心，原田 広翔
卒業 研 究 生 3年：田中 順一，宮地 克真
研 究 員：伊納 義和（愛知学院大学）、
井上 悠（日本メナード化粧品株式会社）

コロイド高分子物性学（薬品物理化学）

教 授：山中 淳平
准 教 授：奥藪 透
助 教：豊玉 彰子
特 任 助 教：恩田 佐智子

大学院博士後期課程3年：村井 雅子
大学院博士後期課程2年：吉澤 幸樹
大学院博士前期課程2年：永野 亮太
大学院博士前期課程1年：小森 和紀, 菅生 行紘, 谷地 知大
卒業研究生5年：鈴木 美紗記, 中村 友紀, 成瀬 愛子
卒業研究生4年：伊藤 昌美, 土本 高嗣, 野村 茉由, 山本 正彰
卒業研究生3年：藤原 ゆかり
研 究 員：今井 宏起 (富士化学株式会社),
今井 佐和子 (富士化学株式会社),
堀井 晴奈 (富士化学株式会社)

生命分子構造学分野 (薬品製造工学)

特 任 教 授：加藤 晃一
准 教 授：水島 恒裕
助 教：矢木 宏和
特 任 助 教：廣本 武史
客 員 教 授：山口 芳樹
大学院博士後期課程2年：高木 賢治 (日本学術振興会特別研究員)
大学院博士後期課程1年：西尾 美穂
大学院博士前期課程2年：平野 貴志, 文庫 有志
大学院博士前期課程1年：宇野 剛, 山本 さよこ
卒業研究生5年：雲井健太郎, 大道 好恵
卒業研究生4年：大川 慶輔, 鳥田 泰, 大鹿 高史, 齋藤 拓也
卒業研究生3年：稲垣 宏弥
研 究 員：矢木 真穂 (日本学術振興会特別研究員),
栗本 英治 (名城大学)
植草 義徳, オリビエ・セルブ, 神谷 由紀子, 山口 拓実
(岡崎統合バイオサイエンスセンター),
坂田 絵理 (東京都臨床医学総合研究所),
尾崎 陽子, 近藤 幸子, 竹内 英明, 矢部 宇一郎
(グライエンス),
千田 紀代美, 服部 久美子, 平松 佳永

分子生物薬学分野 (微生物薬品学)

教 授：今川 正良
准 教 授：長田 茂宏
講 師：西塚 誠
大学院博士後期課程3年：林 孝弘
大学院博士後期課程2年：岸本 圭史
大学院博士前期課程2年：浅野 真美, 伊佐 憲吾, 大仲 優希, 加藤愛友美, 小松 浩大,
早川 智章, 水谷 優子
大学院博士前期課程1年：有江 瑞洋, 落合なつき
卒業研究生5年：中山 裕介, 野木森雅人, 山田博久

卒業研究生 4年：加藤 大輝, 松本 美保, 桐村 拓也, 新海大智, 若林 まい
卒業研究生 3年：田村 律人, 舟木ゆかり
研 究 員：橋爪 博司

薬物送達学分野

教 授：尾関 哲也
特 任 講 師：辰巳 泰我
大学院博士前期課程1年：福重 香
卒業研究生 5年：伊藤 遼平、照喜名 孝之、西尾 碧
卒業研究生 4年：伊藤 竜也、水迫 英己、亀谷 晋央、羽倉 丈史
卒業研究生 3年：久保田 雅仁、高橋 朋弘

構造薬学分野（放射薬品学）

助 教：黒田 良孝

医療機能薬学専攻

医療分子機能薬学講座

生薬学分野（生薬学）

教 授：水上 元
准 教 授：牧野 利明
助 教：寺坂 和祥
客 員 教 授：小野 孝彦（島田市民病院）
大学院博士後期課程3年：林 克弘
大学院博士後期課程2年：永利 麻衣, 白 帆
大学院博士後期課程1年：1名
大学院博士前期課程2年：岡島 恭子, 岡本 隼己, 鍵岡 明奈, 染原 渉, 服部 広,
林 芳恵, 原 直樹, 水谷 優希
大学院博士前期課程1年：島戸 陽太, 梶田 梨恵
卒業研究生 5年：鬼頭 宏和, 酒井 玲
卒業研究生 4年：浅田 圭祐, 春日谷友英
小杉 加奈, 山田 容子, 犬飼 竜徳, 杉 真由子, 田代 雄祐,
堀場亜佐子
卒業研究生 3年：城 しおり, 田中 和貴, 南 安依里
研 究 員：井上 誠, 永津 明人, 大野 高政, 田邊 宏樹, 安井 敏洋,
加藤 哲夫, 山下 弘高, 呉 春珍, 吉田 貴光, 趙 伯陽,
伴ジュリアナかおり, 高 勝莉, 塚本 恒星

生体防御機能学分野（衛生化学）

教 授：小野寄 菊夫
准 教 授：瀧井 猛将
助 教：伊藤 佐生智
大学院博士後期課程3年：堀田 康弘
大学院博士前期課程2年：秋田 邦彦，山本 龍二
大学院博士前期課程1年：谷口 恵一，横山 領介
卒業研究生5年：須田 早紀，山岡 奈津子，山田 恭平，李 祐司
卒業研究生4年：足達 実季，長谷川 倫宏，花村 菜月，林 亜季，
村瀬 千鶴子
卒業研究生3年：小川 翔大，竹野 聖史，花井 朱瑠

遺伝情報学分野（生物薬品化学）

教 授：星野 真一
准 教 授：藤井 陽一
助 教：細田 直
大学院博士後期課程1年：岡本 淳志，尾上 耕一，山岸 良多
大学院博士前期課程2年：斉藤 修平，橋本 芳史，堀川 桂，和賀 陽祐
大学院博士前後期課程1年：北川 聖巳，成瀬 貴文
卒業研究生5年：市川 史，前畑 高明，村上 仁志
卒業研究生4年：三瓶 祥子，木村 悠平，光永 紘子，杉山 遥，
田中 麻記子
卒業研究生3年：？
研 究 員：山本 肇

細胞分子薬効解析学分野（薬品作用学）

教 授：今泉 祐治
准 教 授：大矢 進
講 師：山村 寿男
客 員 教 授：村木 克彦（愛知学院大学）
大学院博士後期課程3年：丹羽 里実
大学院博士後期課程1年：鈴木 良明，藤井 将人
大学院博士前期課程2年：石井 秀明，大城 隼也，鬼頭 宏彰，澤田 英士，
竹本 将士，村本 孝博
大学院博士前期課程1年：木下 智仁，丸山 史登
卒業研究生5年：福与 由香，堀場 さゆり
卒業研究生4年：足立 大和，清田 恵子，高橋 瀬奈，近森 正信
卒業研究生3年：梅田 俊太郎，大羽 輝弥，松木 克仁
研 究 員：波多野 紀行（愛知学院大学）

病態生化学分野

教 授：服部 光治

助 教：河野 孝夫
大学院博士前期課程 2 年：鈴木 健太，中川 裕介，五味 宏樹，深見 瑛
大学院博士前期課程 1 年：田頭 大志、木谷 友次郎
卒業 研 究 生 5 年：杉江 真梨子，水谷 健二，土屋 綾香、佐々木 一友
卒業 研 究 生 4 年：鄧 夢妍，中村 晃太、鯉江 真利、松丸 沙織、山本 恭平
卒業 研 究 生 3 年：久永 有紗、本間 夏美、村上 達郎

医療薬学講座

薬物動態制御学分野（薬剤学）

教 授：湯浅 博昭
准 教 授：井上 勝央
助 教：太田 欣哉
大学院博士後期課程 2 年：片野 貴大，古宮 舞，保嶋 智也
大学院博士後期課程 1 年：石丸 宗徳
大学院博士前期課程 2 年：浅井 敬子，池治 宣晃，岩田 健嗣，大井 舞，島田 友里奈，
深津 累，堀田 依里，宮本 明希
大学院博士前期課程 1 年：大久保 雅彦，西嶋 千尋，林 里佳
卒業 研 究 生 5 年：江藤 友哉，岸 英弘，小林 宏将
卒業 研 究 生 4 年：竹原 一成，古川 純士，青木 那佳，平賀 由佳，横岩 沙耶
卒業 研 究 生 3 年：伊藤 悠子，稲岡 枝梨菜，田島 健太郎
研 究 員：石黒 雅江（早蕨会福祉村病院），井上 健（海南病院），
大野 春香（金城学院大学），
川出 義浩（名古屋第二赤十字病院），
佐野 直也（名古屋市），鈴木 成樹（マルコ製薬株式会社）

病態解析学分野（製剤学）

教 授：藤井 聡
准 教 授：樫本 紀夫
助 教：岩城 壮一郎
特 任 助 教：岡田 浩美
客 員 准 教 授：野田 康弘（金城学院大学）
大学院博士前期課程 2 年：朝倉 健文，伊東 佐恵子，伊藤 史織，小池 慶子，
榊原 大輔，中山 直美，松井 恵利華，森 智恵子
大学院博士前期課程 1 年：北村 信也，智谷 尊史
卒業 研 究 生 5 年：近藤 理恵，山村 周平，湯田 雄一郎
卒業 研 究 生 4 年：大垣 恵理華，乗本 裕明，
真川 明将，傍島 悠，渡邊 和哉
卒業 研 究 生 3 年：長崎 彩子

医薬品代謝解析学分野（薬品代謝）

教 授：林 秀敏
助 教：伊藤 友香
特 任 助 教：酒井 聡
大学院博士後期課程1年：坂井 勇斗
大学院博士前期課程2年：石戸谷 その、岩井 俊樹、牛山 小百合、小島 和香、
藤井 拓夫、松平 都和
大学院博士前期課程1年：王 暁慧、野口 祐美子、宮嶋 ちはる、楽 怡
卒業 研 究 生 5 年：岡山 敦子、杉山 和弥、森本 真宗
卒業 研 究 生 4 年：石井 陽子、加藤 直樹、久保 知紗希、川井 麻友美、
戸田 洋平、吉井 由比子、近藤 弘一
卒業 研 究 生 3 年：永尾 優始
研 究 員：吉田 康子（名古屋大学）、中田 佳宏（春日井市立病院）

中枢神経機能薬理学分野（薬物治療学）

教 授：小野 秀樹
准 教 授：大澤 匡弘
助 教：山本 昇平
大学院博士後期課程3年：大波 壮一郎
大学院博士後期課程2年：友寄 織江
大学院博士前期課程2年：岡本 賢、藤井 由希、松井 千夏、宮辺 裕輔、矢野 裕恭、
山田 彩
大学院博士前期課程1年：大竹 沙紀、倉岡 聖哉、柵木 悠
卒業 研 究 生 5 年：岩嶋 優依、竹渕 直希、藤澤 佳史
卒業 研 究 生 4 年：加藤 篤博、茶藪 かおり、中村 梨余、小林 千晃、
鈴木 悠馬
卒業 研 究 生 3 年：加藤 康浩、長岡 優也、森 優作

病院薬剤学分野

教 授：木村 和哲
教 授：黒野 幸久
講 師：前田 康博
助 教：内藤 敏子
特 任 助 教：大野 雅恵
大学院博士後期課程2年：堀田 祐志
大学院博士後期課程1年：塩田 有史
大学院博士前期課程2年：片岡 智哉、大野 梨紗、三雲 真由美
卒業 研 究 生 5 年：縣 優介、石田 曜子、高畑 裕、南條 晶子
卒業 研 究 生 4 年：小川 修平、小田 晴香、加藤 あゆみ、久野 亜耶奈、
服部 由香、那須 徹也

臨床薬学分野（臨床薬学教育研究センター）

教授：松永 民秀，鈴木 匡
講師：前田 徹，菊池 千草
助教：岩尾 岳洋
大学院博士前期課程2年：堀 英生，佐藤 大介
卒業研究生5年：牛田 英里，加藤 真梨，林 弥穂，張本 伸彦
卒業研究生4年：永味 千枝，三森 佳代，吉橋 幸美，渡辺 陽子
研究員：青沼 安希子（信州大学），近藤 祐樹（信州大学），
花房 弘之（岡山大学），高橋 昌悟（東北薬科大学），
高橋 由里子（株トランスパレント）

東海臨床薬学教育連携センター

教授：黒野 幸久（病院薬学分野教授兼務）
特任薬剤師：菅谷 真紀
事務補佐員：尾原 すみ子

施設・事務・図書

総合機器分析施設
衛生技師：加藤 節子，岩澤 加奈

薬学部事務室

事務長：竹本 浩一
学務係長：黒野 正裕
主事：内木 篤，山田 治夫
業務士：山田 俊也
事務系職員：中山 裕子，佐藤 比早子、奥村 明子、堀田 佑以子
再雇用職員：水野 久美子

総合情報センター田辺通分館-薬学部

分館長：湯浅 博昭（薬物動態制御学分野教授兼務）
司書：政谷 浩子，佐藤 由季

教職員の異動（2010年1月1日～2010年12月31日）

教員

退職：小田嶋 和徳 教授（2010年3月31日）
：田辺 光男 准教授（北里大学薬学部（教授）へ，2010年3月31日）
：宮田 勇 講師（2010年3月31日）
：馬場 敦 助教（2010年3月31日）
：鈴木 英子 特任助教（愛知県職員へ，2010年3月31日）
：津元 裕樹 特任助教（京都大学大学院薬学研究科へ，2010年3月31日）

採用：中村 精一 教授 (2010年4月1日)
：奥菌 透 准教授 (2010年4月1日)
：岩尾 岳洋 助教 (2010年4月1日)
：河野 孝夫 助教 (2010年4月1日)
：大野 雅恵 特任助教 (2010年4月1日)
：大澤 匡弘 准教授 (星薬科大学薬学部より, 2010年10月1日)
：廣本 武史 特任助教 (2010年12月1日)

職員

退職：薬学部事務室 榎原 知江子 プロジェクト推進員 (2010年1月31日)
：薬学部事務室 高橋 完治 主事 (2010年3月31日)
：薬学部事務室 大脇 伸好 再雇用職員 (2010年3月31日)

採用：田辺通分館 佐藤 由季 主事 (2010年4月1日)
：薬学部事務室 水野 久美子 再雇用職員 (2010年4月1日)
：薬学部事務室 奥村 明子 事務系職員 (2010年4月1日)
：薬学部事務室 堀田 佑以子 事務系職員 (2010年4月1日)

異動：田辺通分館 岩佐 多実子 司書 (北千種分館へ, 2010年4月1日)